

令和7年度

「マイスター・ハイスクールネットワーク構築にかかる支援及び専門高校の産学連携に関する調査研究事業」調査研究事業

マイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業 事業実施校における産学連携に関する実態調査、 及び成果検証 （マイスター事業アンケート調査（2. 分析））

株式会社内田洋行 教育総合研究所

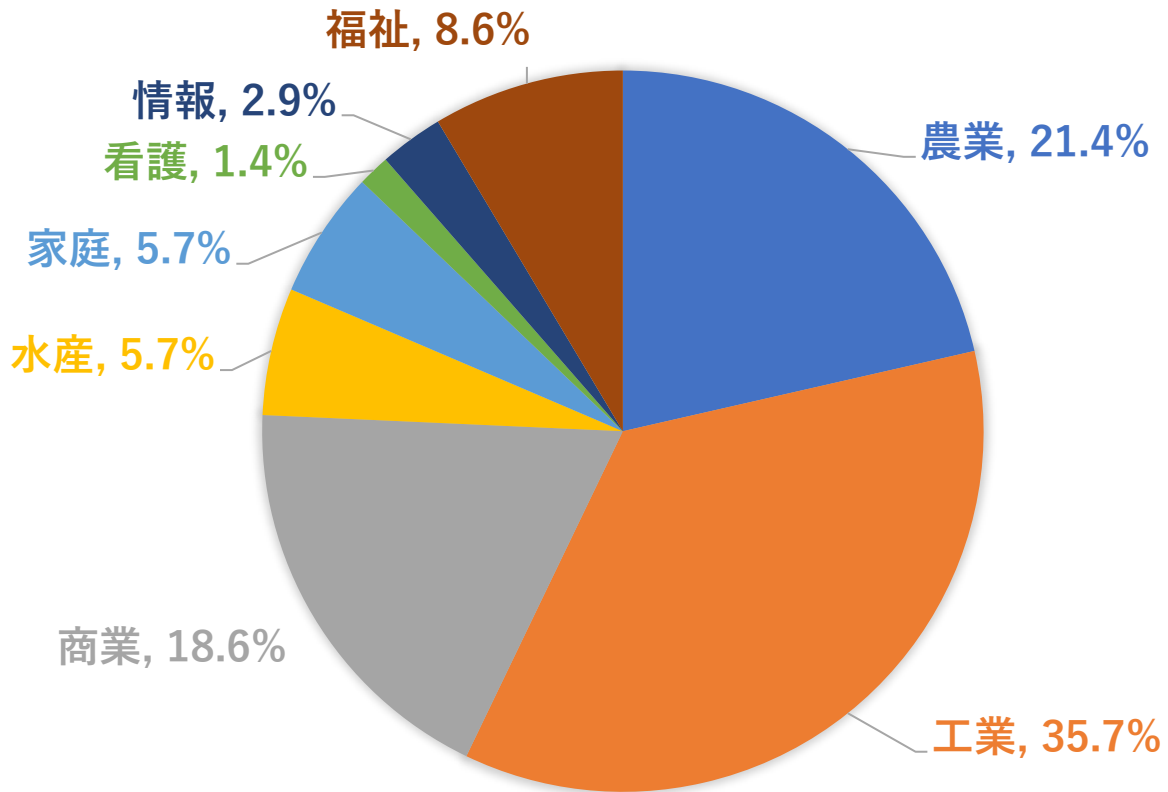
- 調査概要
- 結果
 - 分析
 - 全国値との比較
 - 相関分析(成果検証)
 - アンケート内分析
 - アンケート間分析(学校用アンケートとの紐づけ)
 - 因子分析結果の活用
 - 自由記述整理
 - リサーチクエスチョンに基づく分析
- 付録
 - 質問項目一覧

調査概要

項目	内容
目的	当事業における専門高校と産業界等の連携について、取組内容や体制等の実態を把握するとともに、産学連携および事業の成果を把握する。
対象	マイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業の事業実施校(学校・生徒・教員)、産業界、自治体 ※自治体には管理機関と基礎自治体を含む
方法	Webアンケート調査
期間	2025/11/4～2025/12/18
回答データ数	学校 53校(1校1人) 生徒 6,698人(1年生 1,977人、2年生 2,354人、3年生 2,367人) 教員 411人 産業界 63人 自治体 34人(管理機関 14人、管理機関以外 20人)

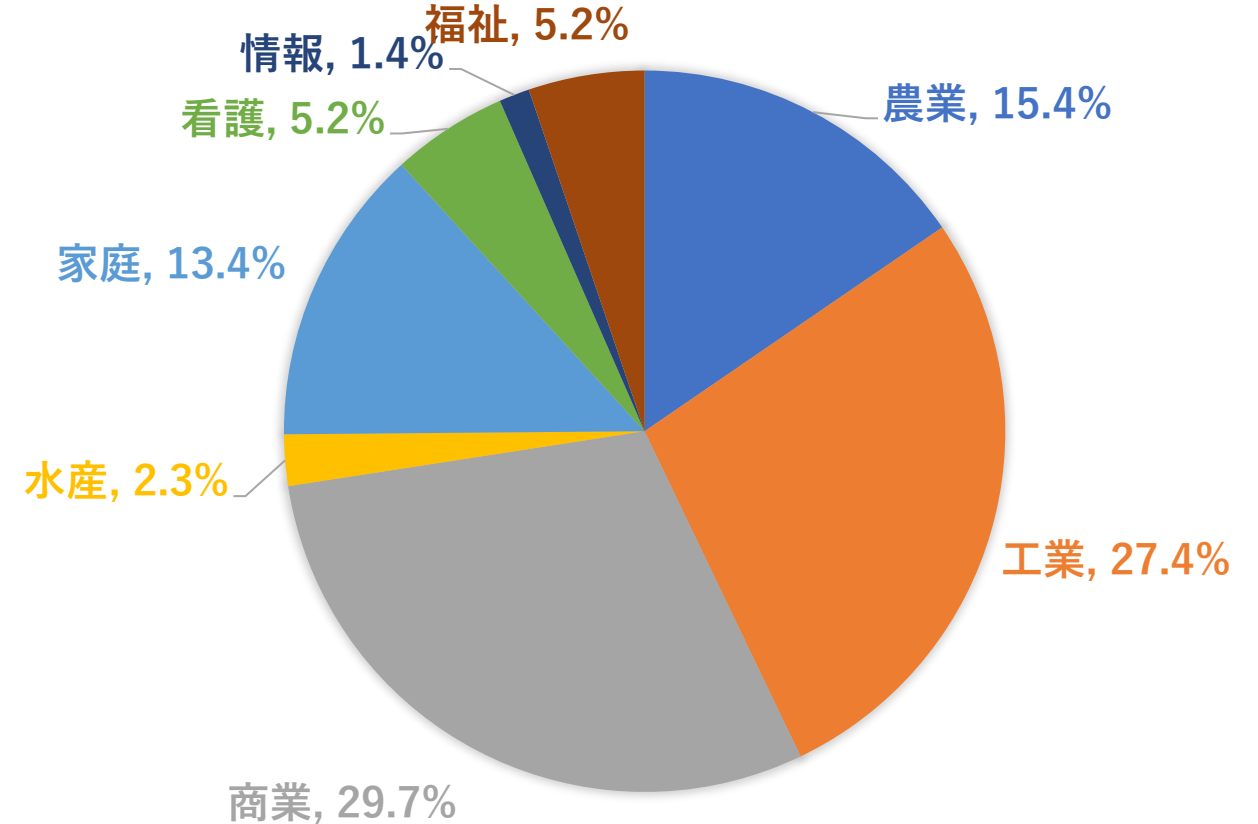
アンケート回答校(計53校・計70大学科) 大学科内訳

マイスター・ハイスクール事業参画校(計70大学科)



※これに加え、総合学科1学科、普通科2学科が参画。

参考:全国(計1826大学科)



※参考文献:学校基本調査(令和7年度)

(うち、高等学校学科数(全日制(または全定併設)専門高校数)の情報)

[学校基本調査 令和7年度 初等中等教育機関・専修学校・各種学校 学校調査・学校通信教育調査\(高等学校\) 学校調査票\(高等学校 全日制・定時制\) | ファイル | 統計データを探す | 政府統計の総合窓口](#)

質問項目一覧(学校用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	学校名	貴校の学校名を教えてください。
q2	フェイスシート	担当者の属性	貴校で産学連携の取組の計画に関わっている方について、当てはまるものをすべて選択してください。
q3	フェイスシート	産学連携歴	貴校では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
q4	フェイスシート	産学連携の目的	貴校が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q5	具体的な取組	産学連携の取組種別	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q6	フェイスシート	学校規模	貴校の全校生徒数を教えてください。
q7	校内体制	校長のマネジメントの在り方	産学連携を推進するにあたり、貴校において校長はどのように推進・管理していますか。当てはまるものを全て選択してください。
q8	協働体制	ネットワーキング	産学連携において、新たな連携先を開拓しているのは誰ですか。当てはまるものを全て選択してください。
q9	校内体制	負担軽減	産学連携を推進するにあたり、産学連携担当教員の負担軽減のため行っている取組を全て選択してください。
q10	協働体制	産学連携に関わる企業・団体数	今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q11	協働体制	産学連携に関わる団体種別	今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。
q12	協働体制	産学連携に関わる団体の属性	連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択してください。
q13	協働体制	産業界との連携パターン	企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。
q14	協働体制	伴走者の機能	今年度の事業を進める上で、伴走支援事業者(株式会社ソフィア)による伴走支援の中で特に有効だったと思うものを教えてください。
q15	産学連携の成果	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴校の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q16	産学連携の成果	産学連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴校として実感しているメリットを教えてください。
q17	協働体制	取組の検討主体	産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。
q18	全般	産学連携に関する課題	産学連携において、貴校が抱えている課題があれば教えてください。
q19	自治体の支援体制	基礎自治体との連携の深さ	学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。
q20	産学連携の予算とその獲得	基礎自治体からの資源提供	学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。

質問項目一覧(学校用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q21	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先の理解1	連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。
q22	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先の理解2	企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。
q23	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先からの理解	貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。
q24	学校と産業界の関係構築プロセス	課題感の反映	現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。
q25	学校と産業界の関係構築プロセス	共通ビジョンの検討	学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
q26	学校と産業界の関係構築プロセス	企業の貢献度	産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。
q27	学校と産業界の関係構築プロセス	継続性(学校側)	貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q28	学校と産業界の関係構築プロセス	継続性(連携先側)	産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q29	取組や体制の在り方に大きく影響を与える要素	産学関係の深まり	貴校が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。 ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。 ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。 ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。 学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。 ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働関係が確立されている。 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。 担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。
q30	取組の実施プロセス	産業界との連携の必要性検討	学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会
q31	取組の実施プロセス	課題の産業界への共有	学校が抱える課題を産業界に伝える機会
q32	取組の実施プロセス	産業界の目的や必要性の理解	産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会
q33	取組の実施プロセス	学校と産業界の議論の場1	学校と産業界が対等な立場で議論する機会
q34	取組の実施プロセス	学校と産業界の議論の場2	学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会

質問項目一覧(学校用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q35	全般	負担度合い	貴校で行っている産学連携は、負担に見合った成果を得ていますか。
q36	全般	継続推進のキーパーソン	貴校における産学連携を継続していくうえで、最も中心的な役割を果たしているのは誰ですか。
q37	産学連携の成果	進路	貴校における令和6年度卒業生の進路状況を教えてください。 ※産学連携の取組を行った関連産業への就職者数は、産学連携の取組を行っていない場合や、集計等を行っていない場合は回答不要です。 ※進学者数は、大学、短期大学、高等学校専攻科、専修学校・各種学校、公共職業能力開発施設等入学者を含めてください。
q38	産学連携の成果	産業界と生徒の協働の魅力・可能性	産業界と生徒の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)
q39	産学連携の成果	産業界と教員の協働の魅力・可能性	産業界と教員の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)

質問項目一覧(生徒用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	学校名	学校名をお答えください。
q2	フェイスシート	学科	所属している学科をお答えください
q3	フェイスシート	学年	学年を選んでください。
q4	具体的な取組	将来の進路に関する情報	あなたは、将来の勉強や仕事の種類について知るために、次のようなことをしたことはありますか。
q5	具体的な取組	産学連携の取組種別(生徒版)	今年度、あなたが経験したことについて教えてください。当てはまるものを全て選択してください。
q6	具体的な取組	産学連携の取組頻度(授業・実習)	今年度、学校での授業や実習の中で、企業や地域の人が講義をしたり、手伝ったりしたことは、どれぐらいありましたか。
q7	具体的な取組	産学連携の取組頻度(学校行事・イベント)	今年度、学校行事やイベント(授業や実習以外)で、企業や地域の人と話をしたり一緒に活動したりしたことは、どれぐらいありましたか。
q8	具体的な取組	産学連携の経験(課題研究やグループワーク)	今年度、企業や地域の人に関わっている課題研究やグループワークに参加した経験はありますか。
q9	具体的な取組	産学連携の経験(企業見学・インターンシップ等)	今年度、企業や地域の施設を訪問する活動(見学やインターンシップなど)に参加した経験はありますか。
q10	具体的な取組	産学連携の評価	企業や地域の人が提供した学びの機会(授業・実習・イベント等)は、自分の興味関心に合っていましたか。
q11	具体的な取組	産学連携の評価	企業や地域の人が提供した学びの機会(授業・実習・イベント等)からは、大人たちの熱意が伝わってきましたか。
q12	具体的な取組	将来の進路に関する見通し	学校を出た後の社会人としての生き方については、あまり教わらなかった。
q13	具体的な取組	将来の進路に関する見通し	学校は、仕事に役立つことを教えてくれた。
q14	産学連携の成果	知識・技術を学ぶ意欲	授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思った。
q15	産学連携の成果	知識・技術の理解	仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解できた。
q16	産学連携の成果	知識・技術の活用意欲	仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思った。
q17	産学連携の成果	知識・技術と実社会の関連付け	仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった。
q18	産学連携の成果	知識・技術とキャリアの関連付け	企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思った。
q19	産学連携の成果	地元企業の理解	地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた。
q20	産学連携の成果	地元就職への意欲	地元の企業に就職したいと思った(進学する場合は卒業後に)。
q21	産学連携の成果	地元貢献への意欲	地元の発展に貢献したいと思った。
q22	産学連携の成果	将来の目標	将来の目標を考え、それを実現するために努力したいと思った。
q23	産学連携の成果	将来の展望	将来に対して希望を持てた。
q24	産学連携の成果	内発的動機付け	もっと地域の活性化について考える授業を受けたいと思った。
q25	産学連携の成果	内発的動機付け	もっと企業や地域の人のお話を聞きたいと思った。

質問項目一覧(生徒用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q26	産学連携の成果	主体性	やるべきことに対して、積極的に取り組むことができた。
q27	産学連携の成果	働きかけ力	目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができた。
q28	産学連携の成果	実行力	失敗を恐れず、行動に移すことができた。
q29	産学連携の成果	課題発見力	目標を達成するために、解決すべき問題を見つけることができた。
q30	産学連携の成果	計画力	何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められた。
q31	産学連携の成果	創造力	何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつか挙げて検討することができた。
q32	産学連携の成果	発信力	話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができた。
q33	産学連携の成果	傾聴力	話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができた。
q34	産学連携の成果	柔軟性	相手の立場や意見を尊重することができた。
q35	産学連携の成果	状況把握力	グループで活動するとき、何をすればよいか、自分の役割を理解できた。
q36	産学連携の成果	規律性	集団や社会生活の規則やルールを守ることができた。
q37	産学連携の成果	ストレスコントロール力	困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組むことができた。
q38	産学連携の成果	授業や実習等において感じたこと	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等について、どのように感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)

質問項目一覧(教員用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	学校名	学校名を教えてください
q2	フェイスシート	職務	あなたの職名を教えてください。
q3	フェイスシート	担当学科	あなたが授業を担当している学科(大学科)を教えてください。
q4	学校と産業界の関係構築プロセス	産学連携の必要性の理解	学校が産学連携に取り組む必要性を、あなたは十分に理解していると思いますか。
q5	学校と産業界の関係構築プロセス	学校目標との整合性	産学連携の取組が、学校の目標に合っていると思いますか。
q6	産学連携の成果	(生徒評価)思考力・判断力・表現力1	生徒は、課題に対して粘り強く考えることができた。
q7	産学連携の成果	(生徒評価)思考力・判断力・表現力2	生徒は、課題に対して他者と協力することができた。
q8	産学連携の成果	(生徒評価)思考力・判断力・表現力3	生徒は、自分の意見や考えを分かりやすく伝えることができた。
q9	産学連携の成果	(生徒評価)知識・技術を学ぶ意欲	生徒は、授業で学んでいる知識や技術に興味を持っていた。
q10	産学連携の成果	(生徒評価)知識・技術の理解	生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術について理解できた。
q11	産学連携の成果	(生徒評価)知識・技術の活用意欲	生徒は、普段の生活の中で、仕事や社会で使われている知識や技術を役立てたいと思っていた。
q12	産学連携の成果	(生徒評価)知識・技術と実社会の関連付け	生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業の大切さを理解していた。
q13	産学連携の成果	(生徒評価)知識・技術とキャリアの関連付け	生徒は、企業や地域の人から学ぶことが、将来の進路を考えるのに役立つと思っていた。
q14	産学連携の成果	(生徒評価)地元企業の理解	生徒は、地域の企業や産業について、進路を考えるための十分な情報を得ていた。
q15	産学連携の成果	(生徒評価)地元就職への意欲1	生徒は、地元の企業への就職(進学する場合は卒業後に)について前向きに考えていた。
q16	産学連携の成果	(生徒評価)地元貢献への意欲2	生徒は、地元への貢献意識を高めていた。
q17	産学連携の成果	学習機会の提供	生徒には、地域の課題に直接触れる機会がある。
q18	産学連携の成果	地域産業・企業への理解	地域の産業や企業について理解している。
q19	産学連携の成果	関心に合った学習機会の提供	生徒の関心に合った学習の機会を提供できている。
q20	フェイスシート	産学連携への関与状況	今年度、マイスター・ハイスクール事業にどのように関わっていますか？ あなたの関わり方について教えてください。
q21	産学連携の成果	目指す生徒像の再考	産業界や地域社会との連携が、学校として目指す生徒像を再考するきっかけになった。
q22	産学連携の成果	専門性の向上	産業界や地域社会との連携により、自身の専門性や指導力が高まった。
q23	産学連携の成果	地元産業の理解	産業界や地域社会との連携により、地域を支える産業や職業について、進路指導を行うに十分な理解が深まった。
q24	産学連携の成果	指導方法・カリキュラム改善	産業界や地域社会との連携により、授業の指導方法やカリキュラムを改善する必要性を感じた。
q25	産学連携の成果	生徒に必要な資質能力の検討	生徒に必要な資質や能力について、産業界や地域社会と対話しながら決定するようになった。
q26	産学連携の成果	授業・単元計画の検討	産業界や地域社会と連携して、授業や単元の計画を検討するようになった。
q27	産学連携の成果	学びの評価に基づく改善	産業界や地域社会と協働して取り組んだ学びの評価を共有し、それを基に改善に取り組んだ。
q28	産学連携の成果	創造的で効率的な教育活動の実施	産業界や地域社会との連携により、創造的で効率的な教育活動が展開された。
q29	産学連携の成果	学校の魅力化・教育活動の活性化	産業界や地域社会との連携が、学校の魅力向上や教育活動の活性化につながった。
q30	校内体制における成果	校内の組織化	学校内で組織化が図られたことにより、産業界や地域社会との連携に前向きに取り組めた。
q31	校内体制における成果	学校外の相談先の存在	相談できる学校外の関係機関やコーディネーターがいることで、産業界や地域社会と連携しやすくなった。
q32	校内体制	教員の心理的安全性の確保	管理職として、産学連携において、担当者が産業界に自由に意見を述べたり、活動したりできる環境を整えることを心がけましたか。
q33	校内体制	教員の心理的安全性の状況	事業担当者として、産学連携において、産業界側の担当者に対して自由に意見を述べたり、活動したりできましたか。
q34	産学連携の成果	産業界と生徒の協働の魅力・可能性	産業界と生徒の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)

質問項目一覧(産業界用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	団体名	貴団体名を教えてください。
q2	フェイスシート	担当者の属性	このアンケートに回答している方の職務を教えてください。当てはまるものを選択してください。
q3	フェイスシート	対象高校名	貴団体が連携している高等学校の名称を教えてください。
q4	フェイスシート	産学連携歴	貴団体では、いつから産学連携の取組を実施していますか？
q5	フェイスシート	産学連携の目的	貴団体が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q6	フェイスシート	産学連携目的の重要性	前の質問で選んだ目的について、どのくらい重要だと考えていますか。
q7	産学連携の成果	産学連携による企業・団体目標やビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴団体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか。
q8	産学連携の成果	産学連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴団体として実感しているメリットを全て選択してください。
q9	産学連携の成果	採用活動のしやすさ	学校が産学連携に取り組むようになったことで、学校に対する採用活動がやりやすくなったと思いますか。
q10	産学連携の成果	産学連携の継続意欲	今後も産学連携の取組を続けたいと考えていますか。
q11	産学連携の成果	産学連携意義・必要性の認識	あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。
q12	産学連携の成果	担当者の意識や行動の変化	学校教育に関わったことによって、担当者の意識や行動になにか変化はありましたか。当てはまる項目を全て選択してください。
q13	学校と産業界の関係構築プロセス	互恵関係の成立	貴団体は、連携している学校と、互いに利益を得られる関係(互恵関係)にあると思いますか？最も当てはまるものを選択してください。
q14	学校と産業界の関係構築プロセス	連携意義・必要性の認識	連携している学校の産学連携の目的を十分に理解している
q15	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先への理解	学校と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている
q16	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先からの理解	貴団体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている
q17	学校と産業界の関係構築プロセス	良好な関係性	産学連携の取組内容について、学校に対して積極的に提案している。
q18	学校と産業界の関係構築プロセス	課題感の反映	現在の取組は、学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた内容になっている。
q19	学校と産業界の関係構築プロセス	双方の課題を踏まえたビジョン協議	学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
q20	学校と産業界の関係構築プロセス	適切な役割分担	産学連携の取組を進める中で、貴団体が担う役割は適切だと思う。
q21	学校と産業界の関係構築プロセス	継続性(企業・団体側)	貴団体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q22	学校と産業界の関係構築プロセス	継続性(学校側)	学校側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q23	産学連携の成果	生徒との連携の魅力・可能性	生徒との連携を通して、どのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)

質問項目一覧(自治体用アンケート)

各質問項目は、「調査指標」に記載の内容を意図して作成。

UCHIDA

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	フェイスシート	自治体名	貴自治体名を教えてください。
q2	フェイスシート	部署名	貴自治体において、学校の産学連携を主に担当している部署名を教えてください。
q3	フェイスシート	対象高校名	貴自治体が連携している高等学校の名称を教えてください。
q4	フェイスシート	産学連携歴	貴自治体は、対象の学校と企業などが連携して行う教育活動(産学連携)に、いつから関わっていますか。
q5	フェイスシート	産学連携の目的	貴自治体が産学連携に取り組む最も大きな理由を1つ選択してください。
q6	フェイスシート	産学連携目的の重要性	前の質問で挙げた目的について、どのくらい重要だと考えていますか。
q7	産学連携の成果	産学連携の自治体目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴自治体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q8	産学連携の成果	産学連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴自治体として実感しているメリットを教えてください。
q9	産学連携の成果	産学連携の継続意欲	今後も産学連携の取組を続けたいと考えていますか。
q10	産学連携の成果	産学連携意義・必要性の認識	あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。
q11	産学連携の成果	議会等からの理解	学校の産学連携を支援した結果、貴自治体の首長や議会等において、産学連携への理解は高まりましたか。
q12	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先(学校)からの理解	貴自治体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている
q13	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先(学校)への理解	学校としての産学連携の目的を十分に理解している
q14	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先(産業界)への理解	産業界としての産学連携の目的を十分に理解している
q15	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先(産学)への理解	学校と産業界が連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている
q16	学校と産業界の関係構築プロセス	学校への積極提案	産学連携の取組内容について、学校に対して積極的に提案している。
q17	学校と産業界の関係構築プロセス	課題感の反映	現在の取組は、学校・産業界・自治体、それぞれの課題を踏まえた内容になっている。
q18	学校と産業界の関係構築プロセス	共通ビジョンの検討	学校と産業界、自治体の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
q19	学校と産業界の関係構築プロセス	適切な役割分担	産学連携の取組を進める中で、貴自治体が担う役割は適切だと思う。
q20	学校と産業界の関係構築プロセス	継続性(自治体側)	貴自治体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q21	学校と産業界の関係構築プロセス	継続性(連携先側)	学校や産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q22	フェイスシート	区分	貴自治体は、マイスター・ハイスクール事業(普及促進事業含む)における「管理機関」ですか。
q23	自治体の支援体制	中核人材の確保	(教育委員会の場合、)産学連携において中核となる教員の育成・確保のため、実施している取組を教えてください。
q24	協働体制	伴走者の機能	(教育委員会の場合、)今年度の事業を進める上で、伴走支援事業者(株式会社ソフィア)による伴走支援の中で特に有効だったと思うものを教えてください。
q25	産学連携の成果	産業界と生徒の協働の魅力・可能性	産業界と生徒との協働をご覧になり(あるいは実際に接して)、どのような魅力・可能性を感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)

参考：質問項目一覧(全国アンケート)

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q1	全般	産学連携の深さ	貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。
q2		産学連携の深さ_補足	貴学科が、産学連携を実施していない理由を教えてください。
q3		産学連携の深さ_補足	貴学科で、産学連携を教育課程の一環として組み込んでいない理由を教えてください。
q4		産学連携歴	貴学科では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
q5		きっかけ	産学連携に取り組んだきっかけを教えてください
q6		目的	貴学科が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
q7		産学連携目的の重要性	前の質問で選んだ目的について、どのくらい重要だと考えていますか。
q8	具体的な取組	取組内容	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
q9	産学連携の成果	産学連携の学科目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴学科の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
q10	取組や体制の在り方に大きく影響を与える要素	産学関係の深まり	貴学科が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。 ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。 ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。 ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。 学校と企業等との関係は互惠的で、双方が取組から恩恵を受けている。 ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働関係が確立されている。 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。 担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。
q11	協働体制	ネットワーキング	産学連携において、新たな連携先を開拓しているのは誰ですか。当てはまるものを全て選択してください。
q12	自治体の支援体制	支出	令和6年度の1年間ににおいて、貴校が学校の予算として直接支出した「産学連携に関わる取組」の年間予算額についてお答えください(講師への謝金、交通費、実習に必要な消耗品・教材費、外部人材(コーディネーター)の人件費など)。 その際、都道府県や教育委員会が直接支払っている経費(例:外部人材の人件費補助)は含めないでください。
q13		広域自治体からの資源提供	都道府県(教育関係部署のみならず産業や地域活性化等の関係部署も含む)から、産学連携に関わる資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。
q14		予算獲得に際しての理由	(受けている場合、) 都道府県から産学連携に関わる事業費の提供を受けている場合、その事業がどのような目的で事業化されているか(事業目的)を教えてください。
q15		予算獲得に際しての理由	(受けている場合、) 代表的な事業について、その名称と予算額を記載してください。
q16		基礎自治体からの資源提供	学校の所在する市町村(教育関係部署のみならず産業や地域活性化等の関係部署も含む)から、産学連携に関わる資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。
q17		予算獲得に際しての理由	(受けている場合、) 市町村から産学連携に関わる事業費の提供を受けている場合、その事業がどのような目的で事業化されているか(事業目的)を教えてください。
q18		予算獲得に際しての理由	(受けている場合、)代表的な事業について、その名称と予算額を記載してください。

参考:質問項目一覧(全国アンケート)

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
q19	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先の理解1	連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。
q20		連携先の理解2	企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。
q21		連携先からの理解	貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。
q22		課題感の反映	現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。
q23		共通ビジョンの検討	学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
q24		企業の貢献度	産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。
q25		継続性(学校側)	貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q26		継続性(連携先側)	産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
q27	取組の実施プロセス	産業界との連携の必要性検討	学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会
q28		課題の産業界への共有	学校が抱える課題を産業界に伝える機会
q29		産業界の目的や必要性の理解	産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会
q30		学校と産業界の議論の場1	学校と産業界が対等な立場で議論する機会
q31		学校と産業界の議論の場2	学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会
q32	全般	負担度合い	貴学科で行っている産学連携は、負担に見合った成果を得ていますか。
q33		継続推進のキーパーソン	貴学科における産学連携を継続していくうえで、最も中心的な役割を果たしているのは誰ですか。
q34	産学連携の成果	進路	貴学科における令和6年度卒業生の進路状況を教えてください。 ※産学連携の取組を行った関連産業への就職者数は、産学連携の取組を行っていない場合や、集計等を行っていない場合は回答不要です。 ※進学者数は、大学、短期大学、高等学校専攻科、専修学校・各種学校、公共職業能力開発施設等入学者を含めてください。

結果(全国値との比較)

全国値との比較

- 当事業における、**産学連携の体制や取組の質等の改善**について把握するため、**学校用アンケートの集計値(N=53)と全国の専門高校の集計値(N=368)を比較した。**

※本資料では、学校用アンケート回答者である学校をMHS(マイスター・ハイスクール校)と呼称する。

- データ引用元
 - 文部科学省（2026）専門高校における産学連携に関する実態調査(全国専門高校アンケート調査)
 - 文部科学省（2026）マイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業
事業実施校における産学連携に関する実態調査、及び成果検証(マイスター事業アンケート調査（1.単純集計）)

「専門高校における産学連携に関する実態調査(全国専門高校アンケート調査)」と共通した
学校用アンケート項目(計23/39項目)

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
3	フェイスシート	産学連携歴	貴校では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
4		産学連携の目的	貴校が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。
5	具体的な取組	産学連携の取組種別	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。
8	協働体制	ネットワーキング	産学連携において、新たな連携先を開拓しているのは誰ですか。当てはまるものを全て選択してください。
15	産学連携の成果	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の活動が、貴校の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
16		産学連携の効果	産学連携の取組を通じて、貴校として実感しているメリットを教えてください。
20	産学連携の予算とその獲得	基礎自治体からの資源提供	学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。
21	学校と産業界の関係構築プロセス	連携先の理解1	連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。
22		連携先の理解2	企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。
23		連携先からの理解	貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。
24		課題感の反映	現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。
25		共通ビジョンの検討	学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
26		企業の貢献度	産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。
27		継続性(学校側)	貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
28		継続性(連携先側)	産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。

※q16は、R7全国値は取得していないので、R6全国値との比較となる。

全国値との比較

ID	カテゴリ	調査指標	質問項目
29	取組や体制の在り方に大きく影響を与える要素	産学関係の深まり	貴校が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。 ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。 ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。 ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。 学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。 ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働関係が確立されている。 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。 担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。
30	取組の実施プロセス	産業界との連携の必要性検討	学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会
31		課題の産業界への共有	学校が抱える課題を産業界に伝える機会
32		産業界の目的や必要性の理解	産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会
33		学校と産業界の議論の場1	学校と産業界が対等な立場で議論する機会
34		学校と産業界の議論の場2	学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会
36	全般	継続推進のキーパーソン	貴校における産学連携を継続していくうえで、最も中心的な役割を果たしているのは誰ですか。
37	産学連携の成果	進路	貴校における令和6年度卒業生の進路状況を教えてください。 ※産学連携の取組を行った関連産業への就職者数は、産学連携の取組を行っていない場合や、集計等を行っていない場合は回答不要です。 ※進学者数は、大学、短期大学、高等学校専攻科、専修学校・各種学校、公共職業能力開発施設等入学者を含めてください。

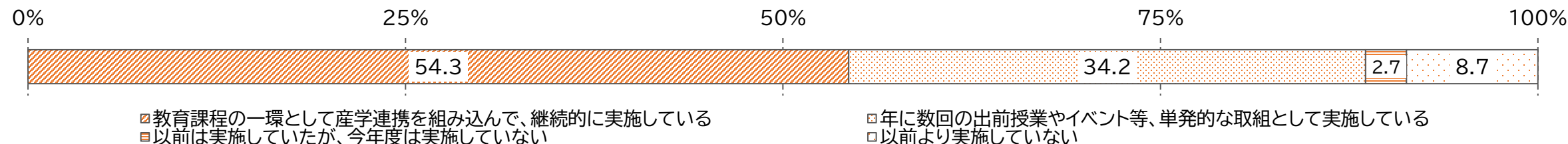
参考)回答者内訳

※産学連携の深さ(全国Q1)、

及び産学連携を教育課程の一環として継続的に組み込み始めた時期(全国Q4、学校Q3)を改変

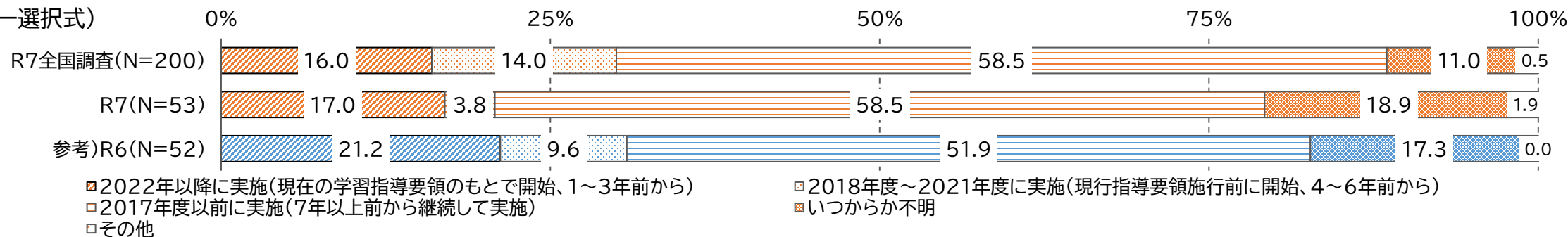
- 前提として、全国アンケートについては、回答校(学科)の45.7%は「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施して」おらず、「年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組として実施している」学科である。
(学校用アンケートについては、すべての回答者が「教育課程の一環として産学連携を組み込んで、継続的に実施している」)

全国Q1. 貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。(N=368)(単一選択式)



- さらに、産学連携を教育課程の一環として継続的に組み込んでいる歴は全国とMHSで異なり、組み込み歴が約6年未満と比較的浅い学校は、全国では30.0%であるのに対し、MHSでは20.8%であった。

貴校では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？
(単一選択式)



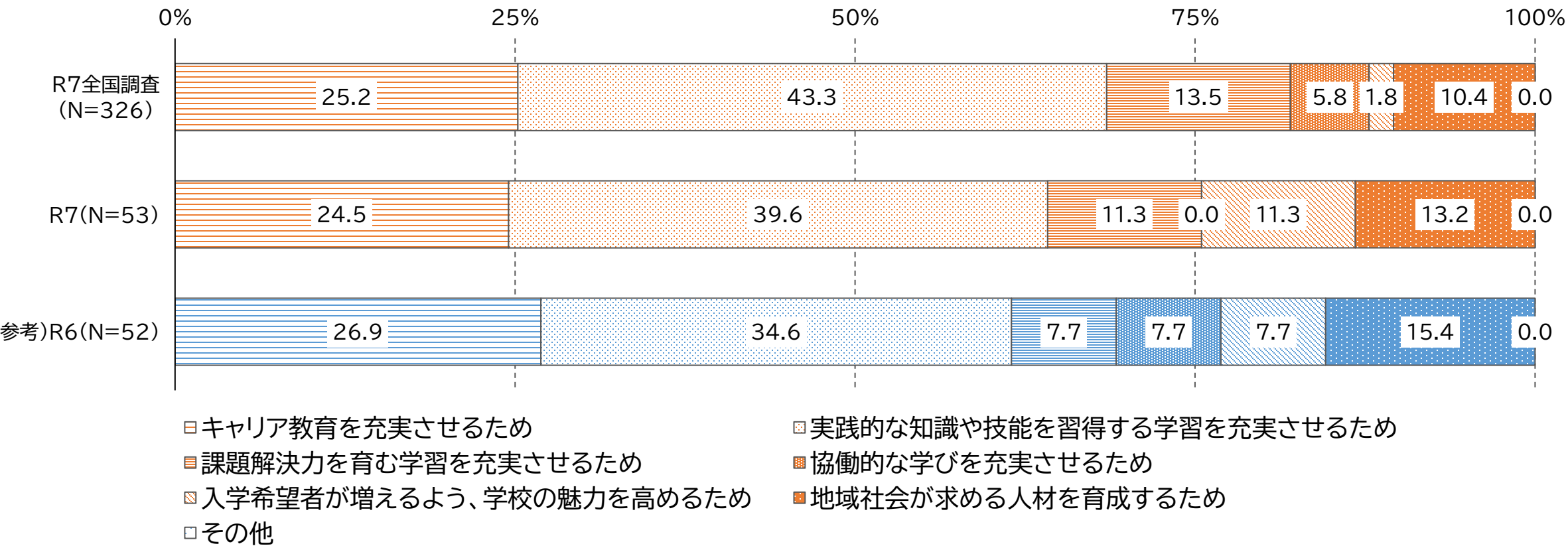
※なお、実態として、全国調査では368大学科が回答したが、うち42大学科(11.4%)が回答時点で産学連携の取組自体を行っていなかった。
これらの大学科は、次ページ以降の集計値には含まれていない。(ただし、進路(全国Q34)は集計値に含まれている)

参考)回答者内訳

※産学連携の主目的(全国Q6、学校Q4)

- 産学連携の主目的は、全国とMHSとで概ね同じであるが、MHSは全国と比較して、「入学希望者が増えるよう、学校の魅力を高めるため」を主目的に据えている学校が多い点が特徴的である。(全国値との差分が約+9.5ポイント)

貴校が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。(単一選択式)

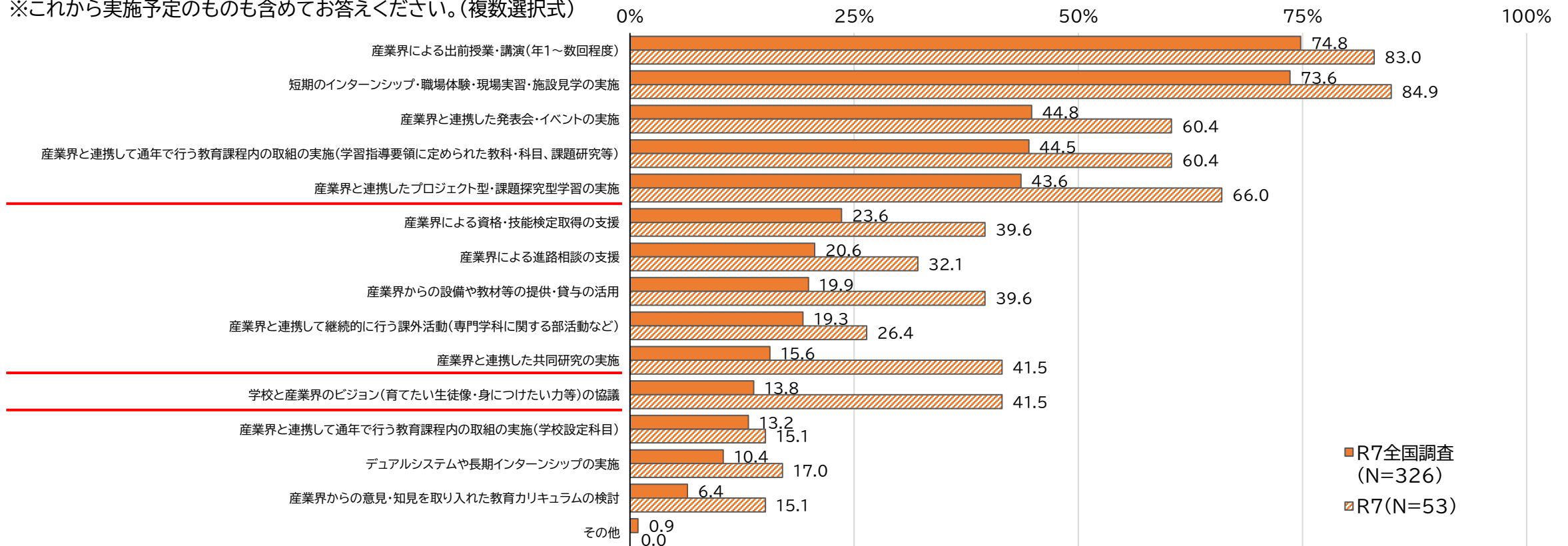


産学連携の取組内容 (全国Q8、学校Q5)

- MHSでは全国と比較して多様な取組が行われており、9/15項目で10ポイント以上の実践率の差があった。特に、「産業界と連携した共同研究の実施」や「産業界と連携したプロジェクト型・課題探究型学習の実施」、教育活動を支える取組としては「学校と産業界のビジョン(育てたい生徒像・身につけたい力等)の協議」等を実施している学校が多かった。(それぞれ全国値との差分が約+25.9ポイント、22.4ポイント、27.7ポイント)

今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。

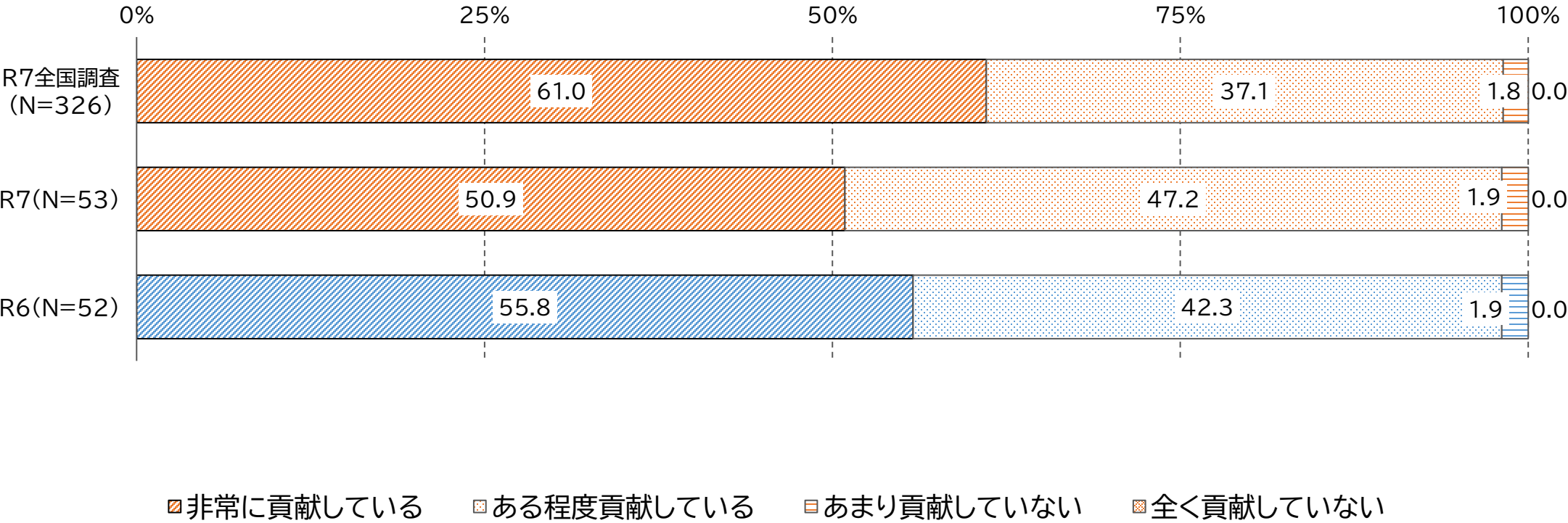
※これから実施予定のものも含めてお答えください。(複数選択式)



産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度(全国Q9、学校Q15)

- 全国・MHSともに9割以上の学校が、学校目標やビジョンに対する産学連携の貢献度を実感している。
- 「非常に貢献している」と評価している学校は全国よりMHSのほうが低いが、産業界と対等な立場で議論する機会(全国Q30、学校Q33)等、評価の機会がMHSのほうが豊富となっており、外部視点も取り入れた多角的な評価が実現していることの表れとも考えられる。
(それぞれ全国値との差分が約-10.1ポイント、+18.5ポイント)

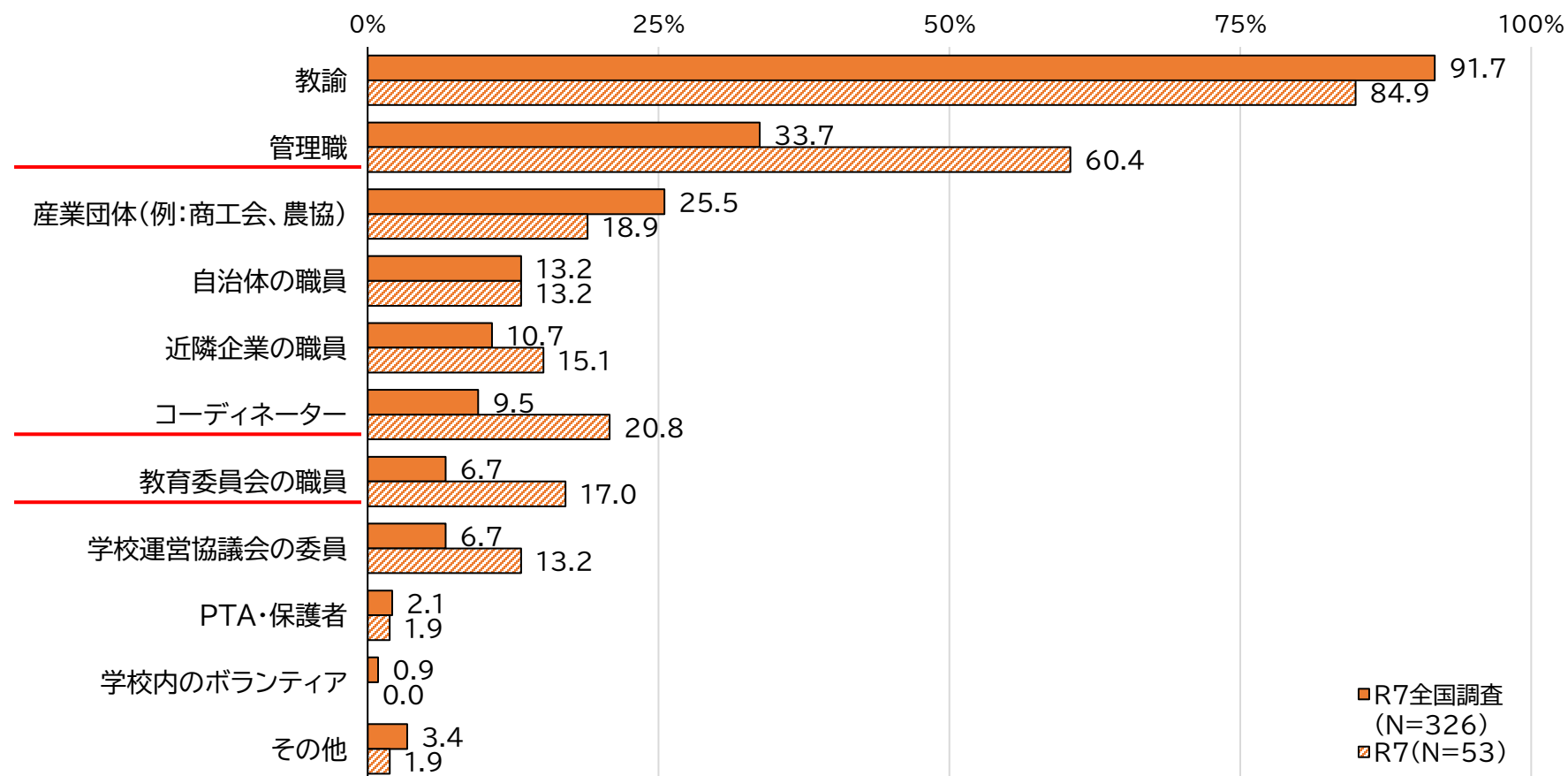
産学連携の活動が、貴校の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？(単一選択式)



ネットワーキング(全国Q11、学校Q8)

- MHSでは「管理職」、「コーディネーター」、「教育委員会の職員」が連携先の開拓をしている点が特徴的であった。
(それぞれ全国値との差分が約+26.7ポイント、11.3ポイント、10.3ポイント)

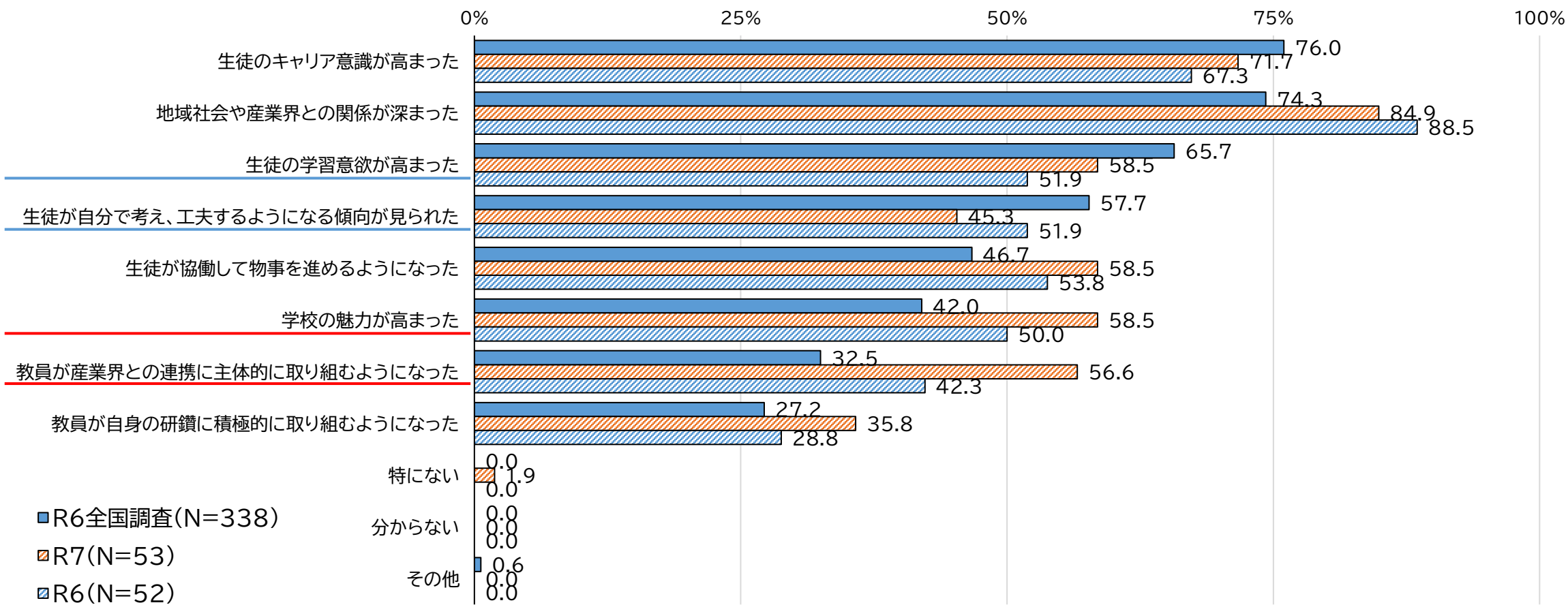
Q8.産学連携において、新たな連携先を開拓しているのは誰ですか。当てはまるものを全て選択してください。
(複数選択式)



産学連携の効果(R6全国Q13、学校Q16)

- MHSでは、産学連携の成果がみられ、「教員が産業界との連携に主体的に取り組むようになった」、「学校の魅力が高まった」と評価した学校が多かった。
(それぞれ全国値との差分が約+24.1ポイント、16.5ポイント)
- 一方、「生徒が自分で考え、工夫するようになる傾向が見られた」、「生徒の学習意欲が高まった」と評価した学校は、それぞれ全国よりも12.4ポイント、7.2ポイント低かった。

Q16.産学連携の取組を通じて、貴校として実感しているメリットを教えてください。(複数選択式)

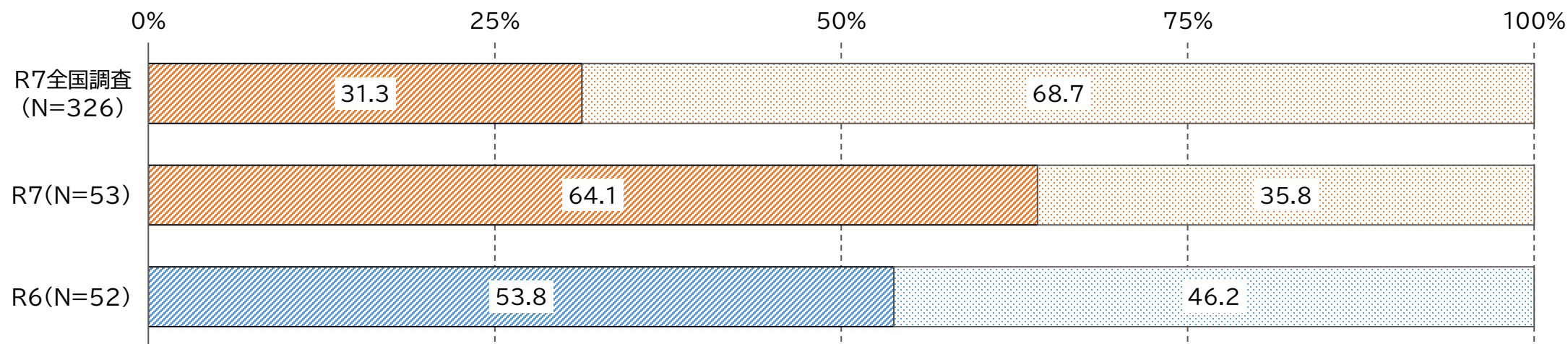


基礎自治体からの資源提供(全国Q16、学校Q20)

- MHSでは、基礎自治体との連携がより強固であり、資金や人材の提供を受けている学校が多かった。(全国値との差分が約+32.8ポイント)

学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。

(単一選択式)

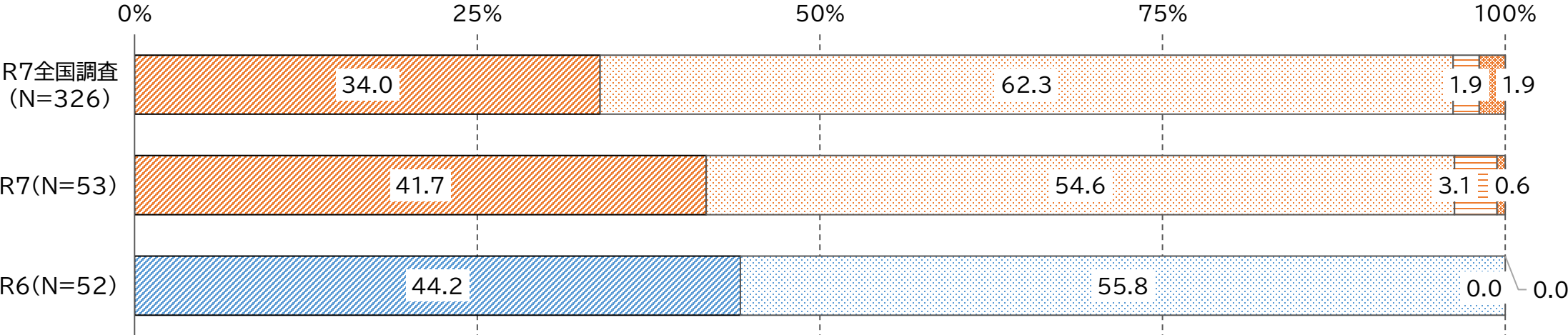


■受けている ■受けていない

連携先の理解1(全国Q19、学校Q21)

- 連携先の産学連携の目的の理解度については、MHSと全国ともに9割以上の学校が肯定的に評定した。

連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。(単一選択式)

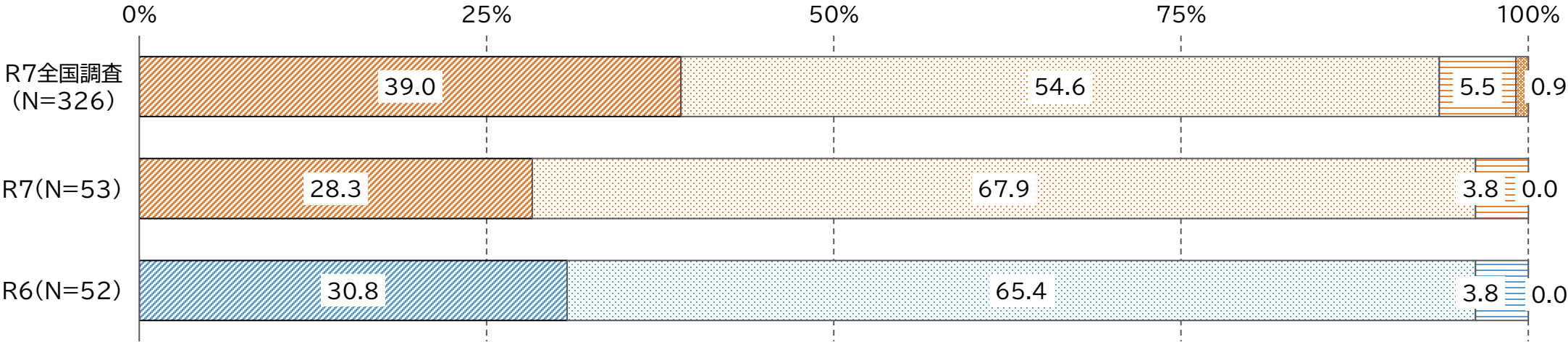


■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない

連携先の理解2(全国Q20、学校Q22)

- 連携によって実現できる取組の理解度については、MHSと全国ともに9割以上の学校が肯定的に評定した。

企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。(単一選択式)

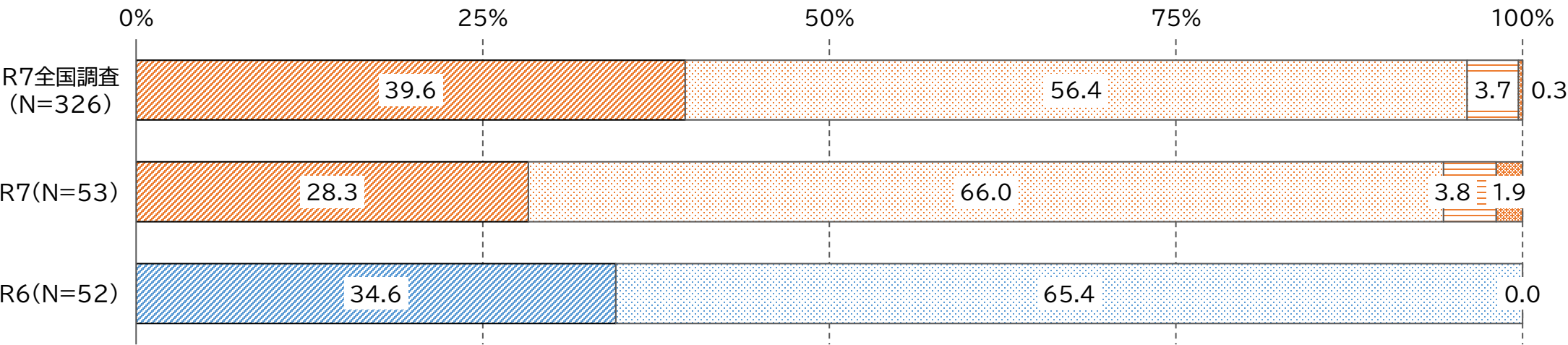


■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない

連携先からの理解(全国Q21、学校Q23)

- 連携先からの理解度については、MHSと全国ともに9割以上の学校が肯定的に評定した。

貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。(単一選択式)

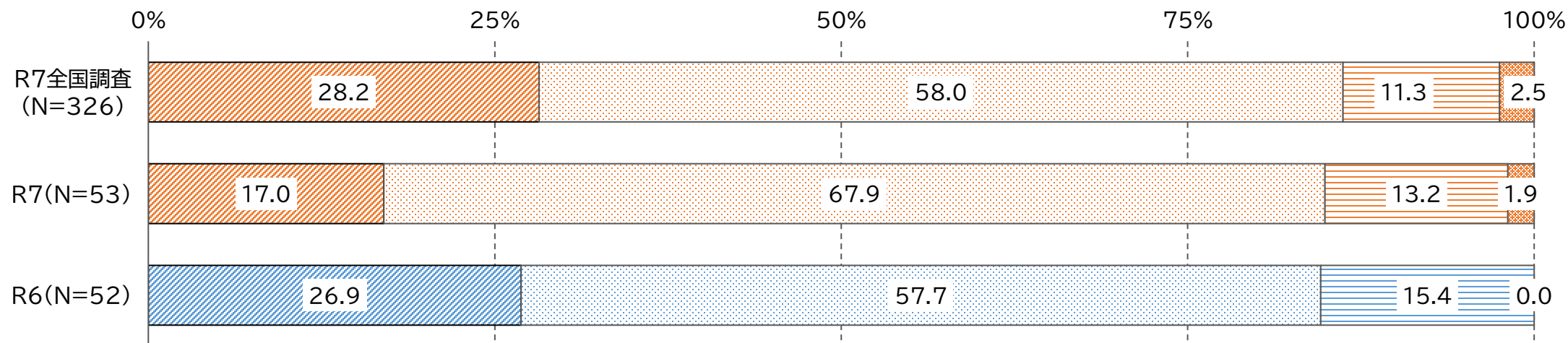


■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない

課題感の反映(全国Q22、学校Q24)

- 学校と企業の双方の課題感の反映については、MHSと全国ともに8割以上の学校が肯定的に評定した。

現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。(単一選択式)

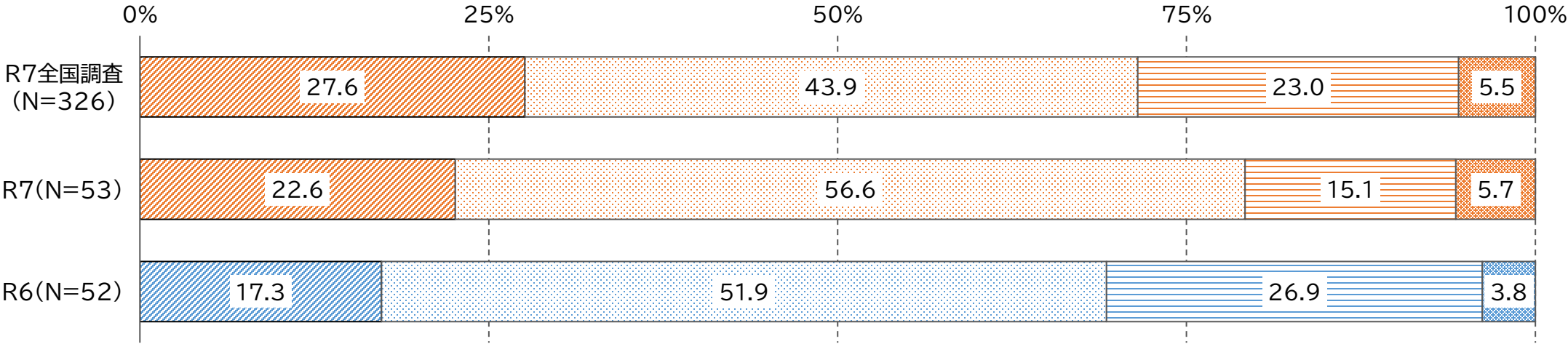


■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない

共通ビジョンの検討(全国Q23、学校Q25)

- 学校と企業の共通ビジョンの検討の実施については、MHSと全国ともに7割以上の学校が肯定的に評定した。

学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。(単一選択式)

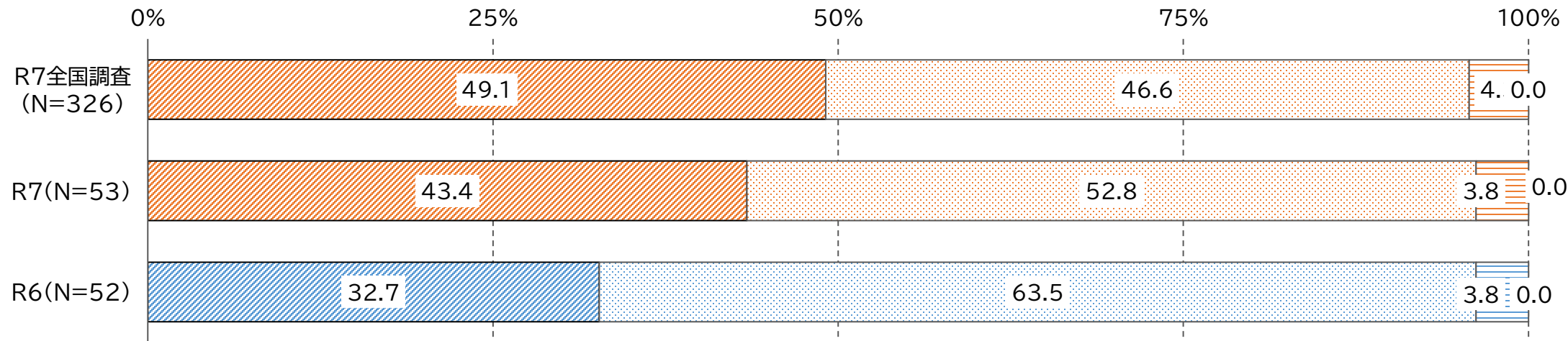


■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない

企業の貢献度(全国Q24、学校Q26)

- 連携先企業の貢献度については、MHSと全国ともに9割以上の学校が肯定的に評定した。

産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。
(単一選択式)

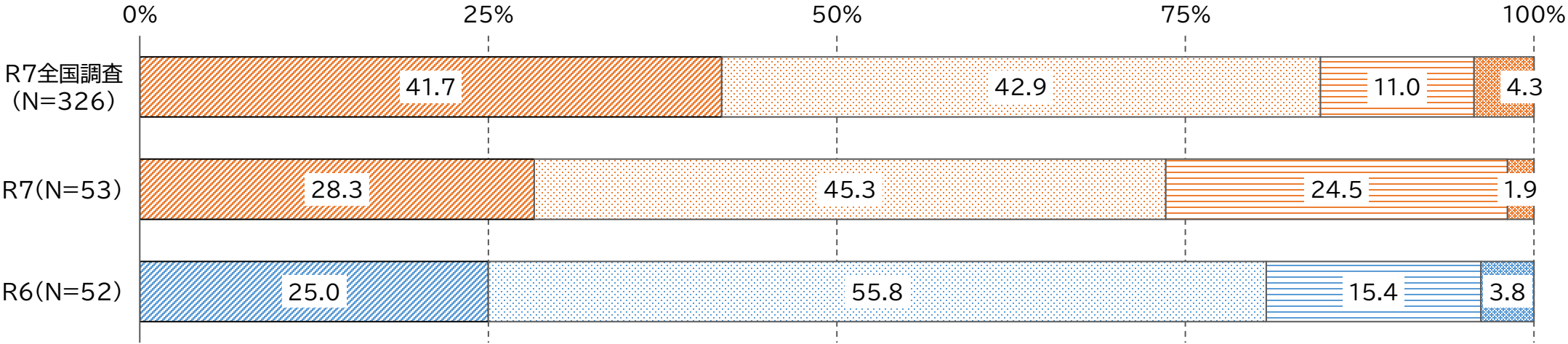


☒ そう思う
 ☒ どちらかといえばそう思う
 ☒ どちらかといえばそう思わない
 ☒ そう思わない

継続性(学校側)(全国Q25、学校Q27)

- 学校側の継続性については、MHSのほうが全国よりも、肯定的に評価した学校が約11ポイント低かった。
(産学連携の取組内容が全国よりMHSで多く(全国Q8、学校Q5)、教員に求められる専門性が高まっている可能性も考えられる。)

貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。(単一選択式)

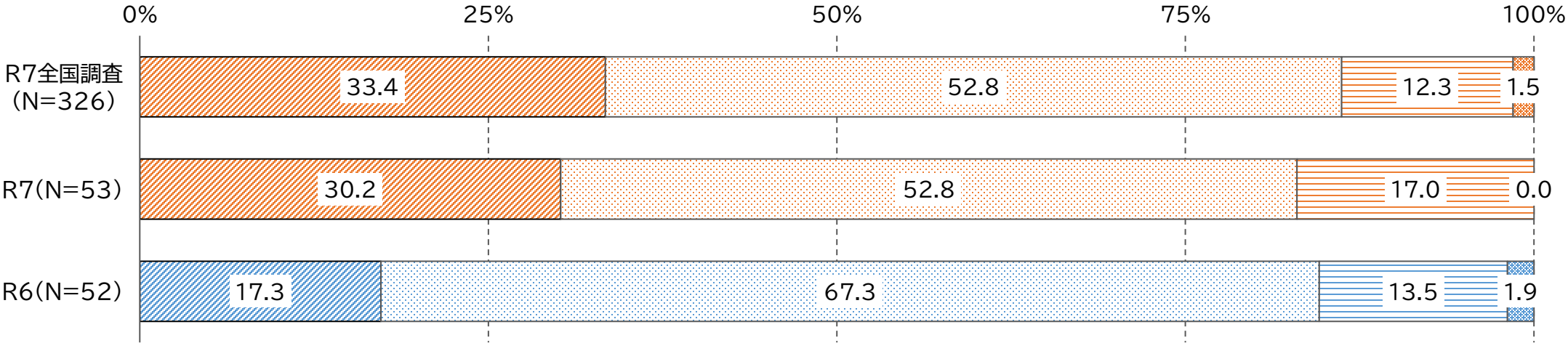


☒ そう思う
 ☒ どちらかといえばそう思う
 ☒ どちらかといえばそう思わない
 ☒ そう思わない

継続性(連携先側)(全国Q26、学校Q28)

- 連携先側の継続性については、MHSのほうが全国よりもともに8割以上の学校が肯定的に評定した。

産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。(単一選択式)

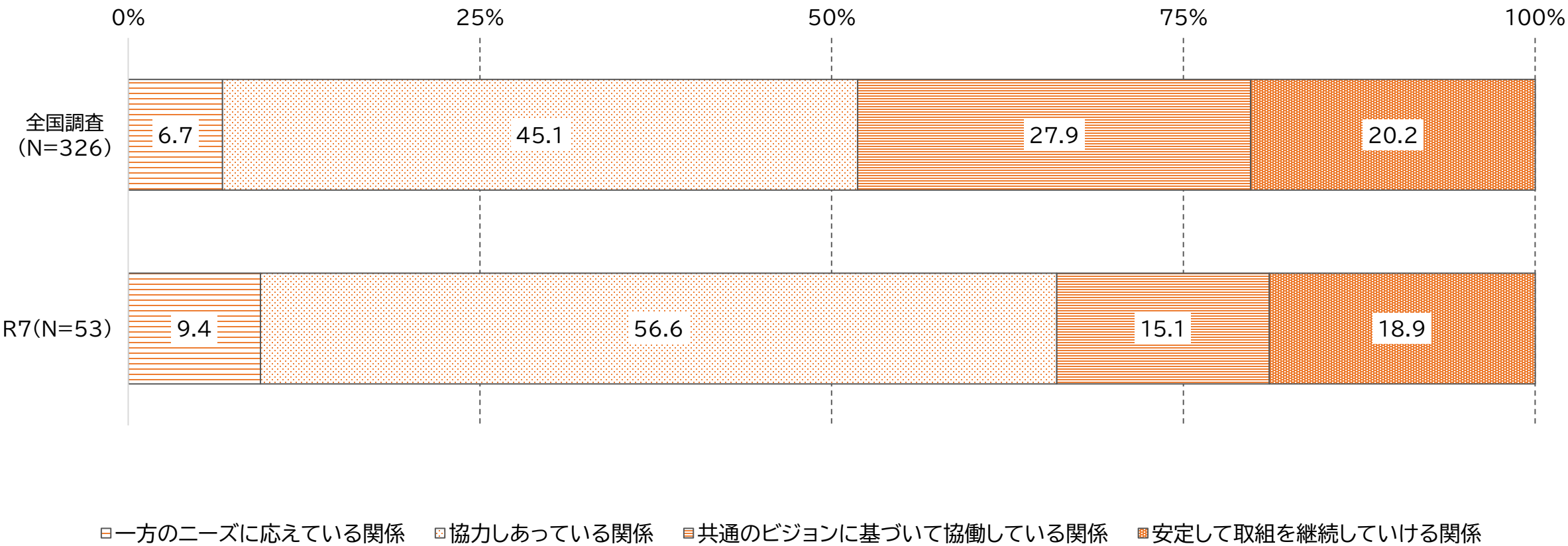


■ そう思う
 ■ どちらかといえばそう思う
 ■ どちらかといえばそう思わない
 ■ そう思わない

産学関係の深まり(全国Q10、学校Q29)

- 産学関係の深まりについては、MHSのほうが全国よりも、第3段階「共通のビジョンに基づいて協働している関係」以上の割合が約12ポイント高かった。

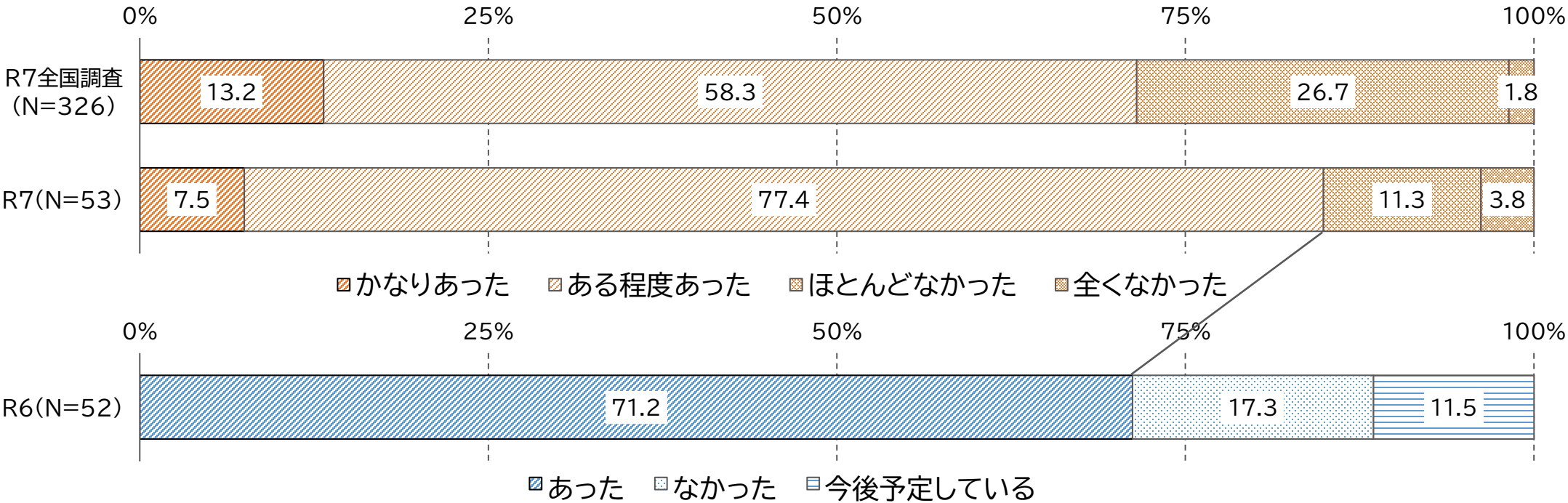
貴校が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。
 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。(単一選択式)



産業界との連携の必要性検討(全国Q27、学校Q30)

- 産業界との連携の必要性検討については、MHSのほうが全国よりも、機会を設けている学校が約13ポイント高かった。

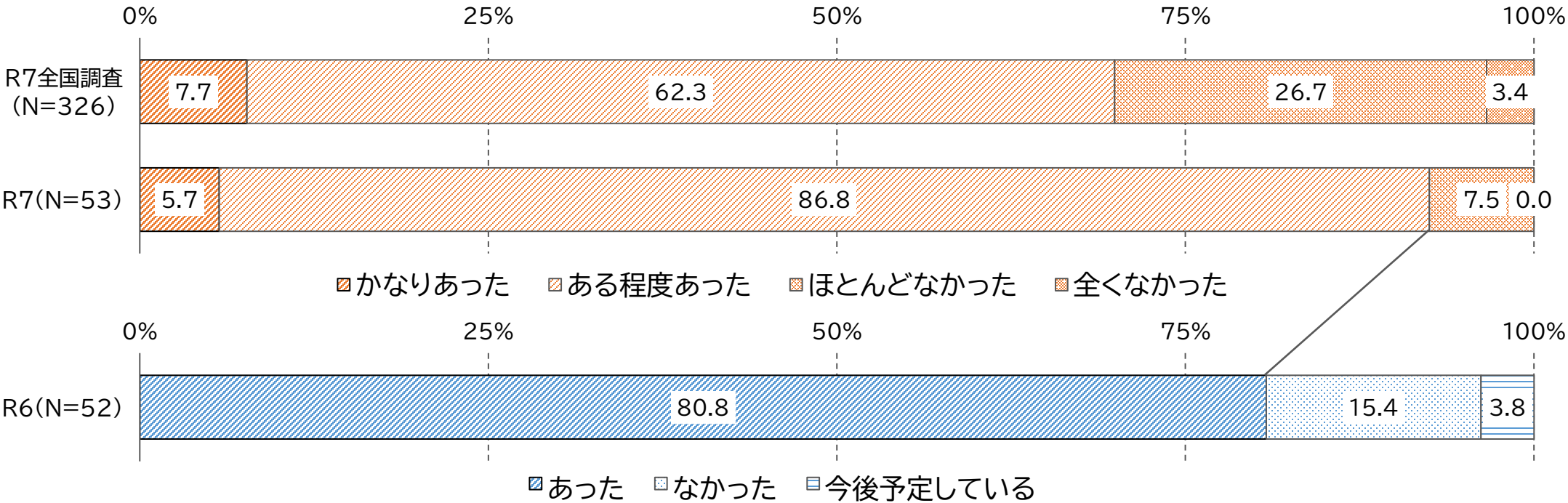
学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会(単一選択式)



課題の産業界への共有(全国Q28、学校Q31)

- 課題の産業界への共有については、MHSのほうが全国よりも、機会を設けている学校が約23ポイント高かった。

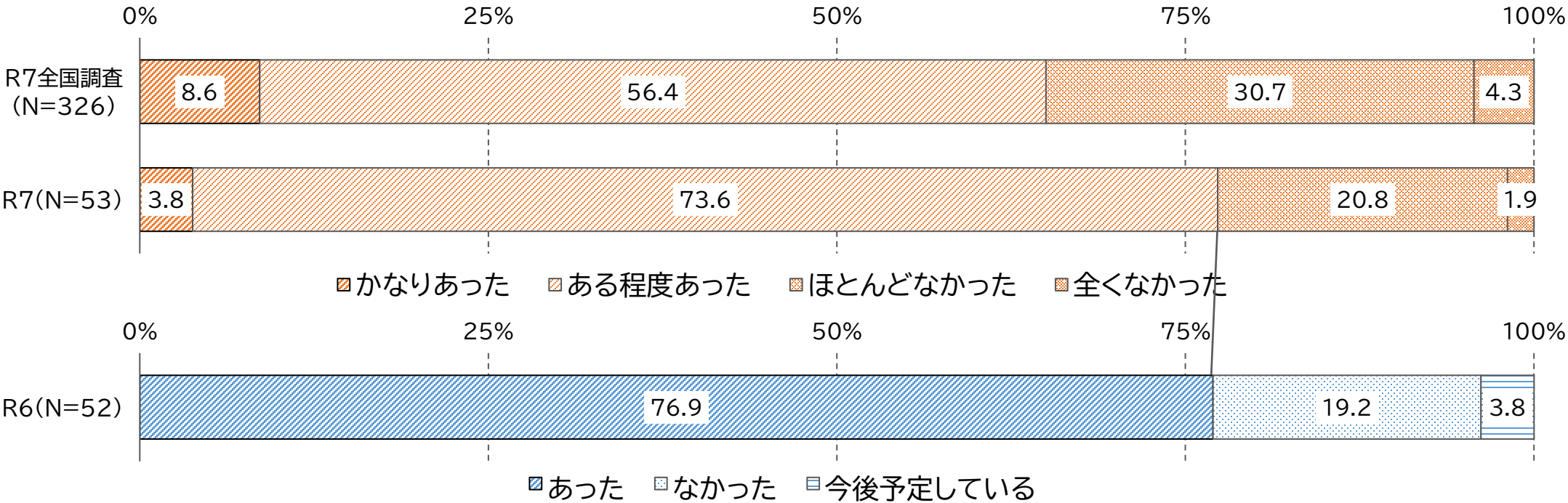
学校が抱える課題を産業界に伝える機会(単一選択式)



産業界の目的や必要性の理解(全国Q29、学校Q32)

- 産業界の目的や必要性の理解については、MHSのほうが全国よりも、機会を設けている学校が約12ポイント高かった。

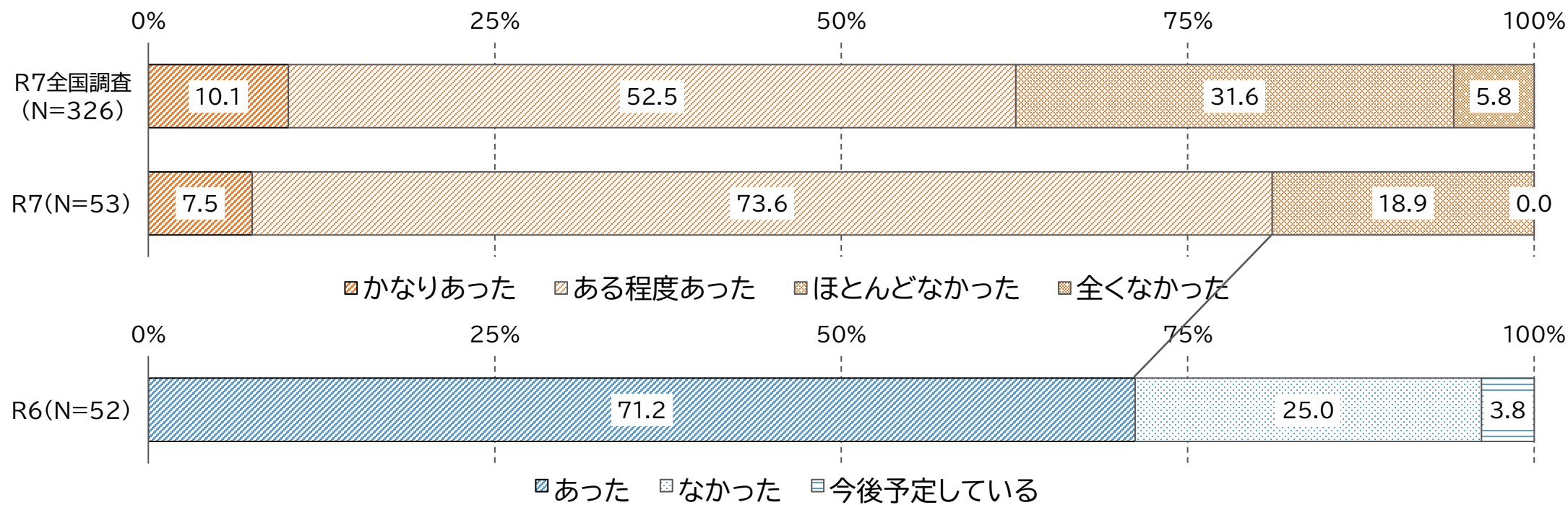
産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会(単一選択式)



学校と産業界の議論の場1(全国Q30、学校Q33)

- 学校と産業界が対等な立場で議論する場については、MHSのほうが全国よりも、機会を設けている学校が約19ポイント高かった。

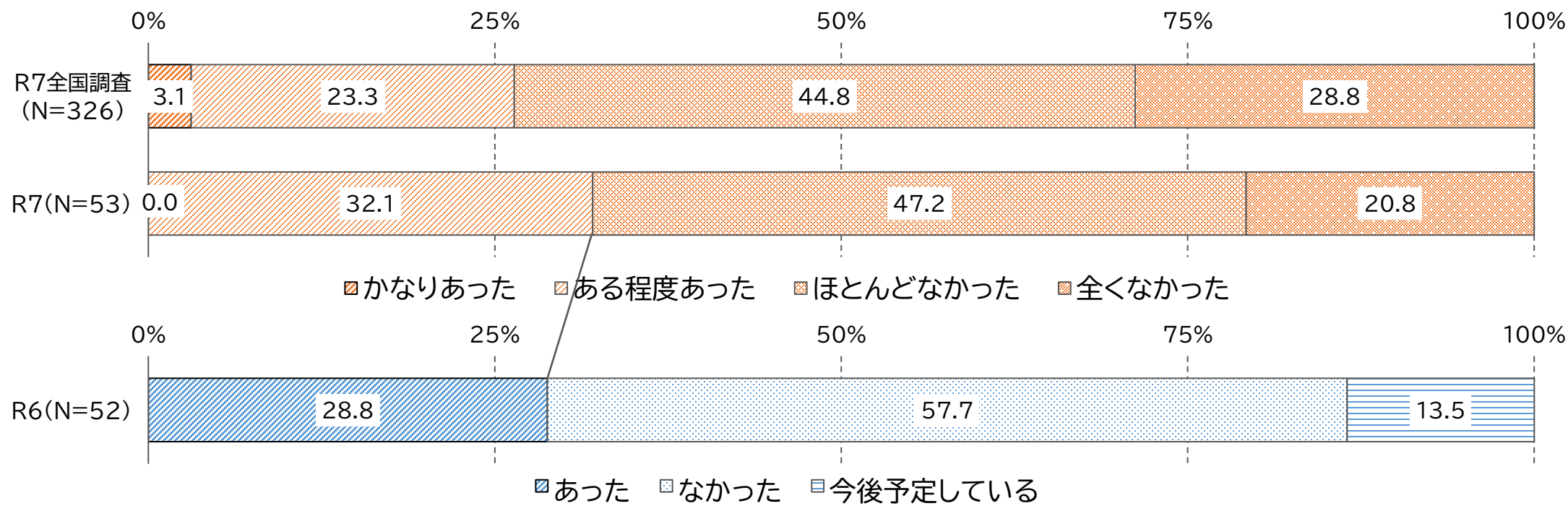
学校と産業界が対等な立場で議論する機会(単一選択式)



学校と産業界の議論の場2(全国Q31、学校Q34)

- 学校と産業界が協力して学校のカリキュラムを検討・改善する場については、全国・MHSともに機会を設けている学校は4割未満だった。

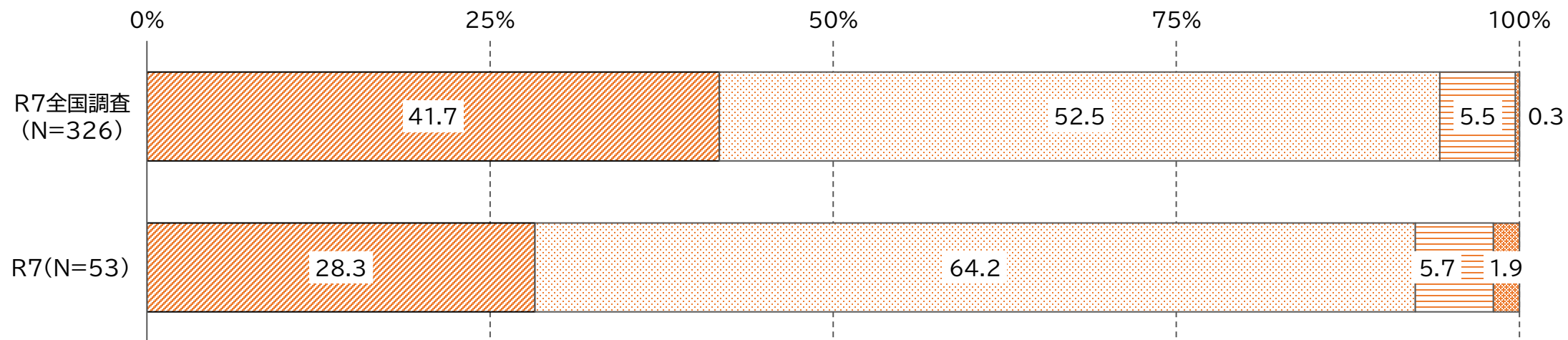
学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会(単一選択式)



負担に見合う成果(全国Q32、学校Q35)

- 負担に見合う成果については、MHSと全国ともに9割以上の学校が肯定的に評価した。

貴校で行っている産学連携は、負担に見合った成果を得ていますか。(単一選択式)

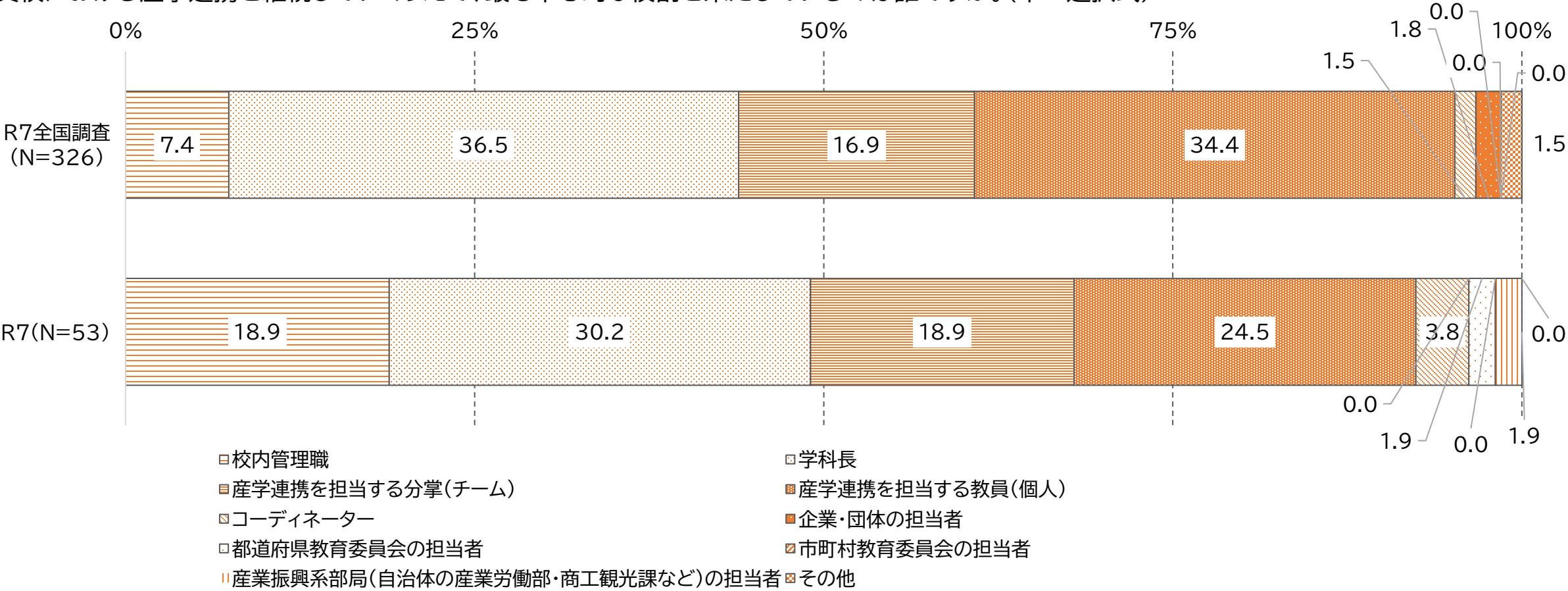


■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

継続推進のキーパーソン(全国Q33、学校Q36)

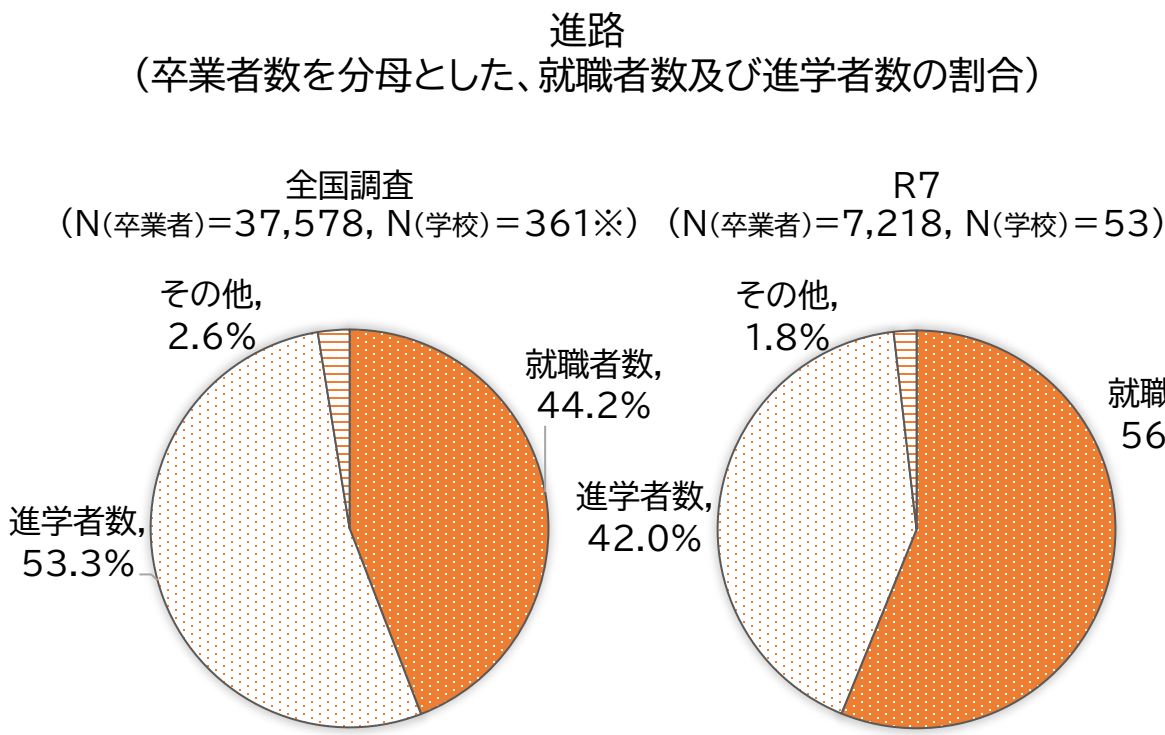
- 継続推進のキーパーソンについては、MHSと全国ともに最頻値は学科長、次いで産学連携を担当する教員(個人)だった。

貴校における産学連携を継続していくうえで、最も中心的な役割を果たしているのは誰ですか。(単一選択式)

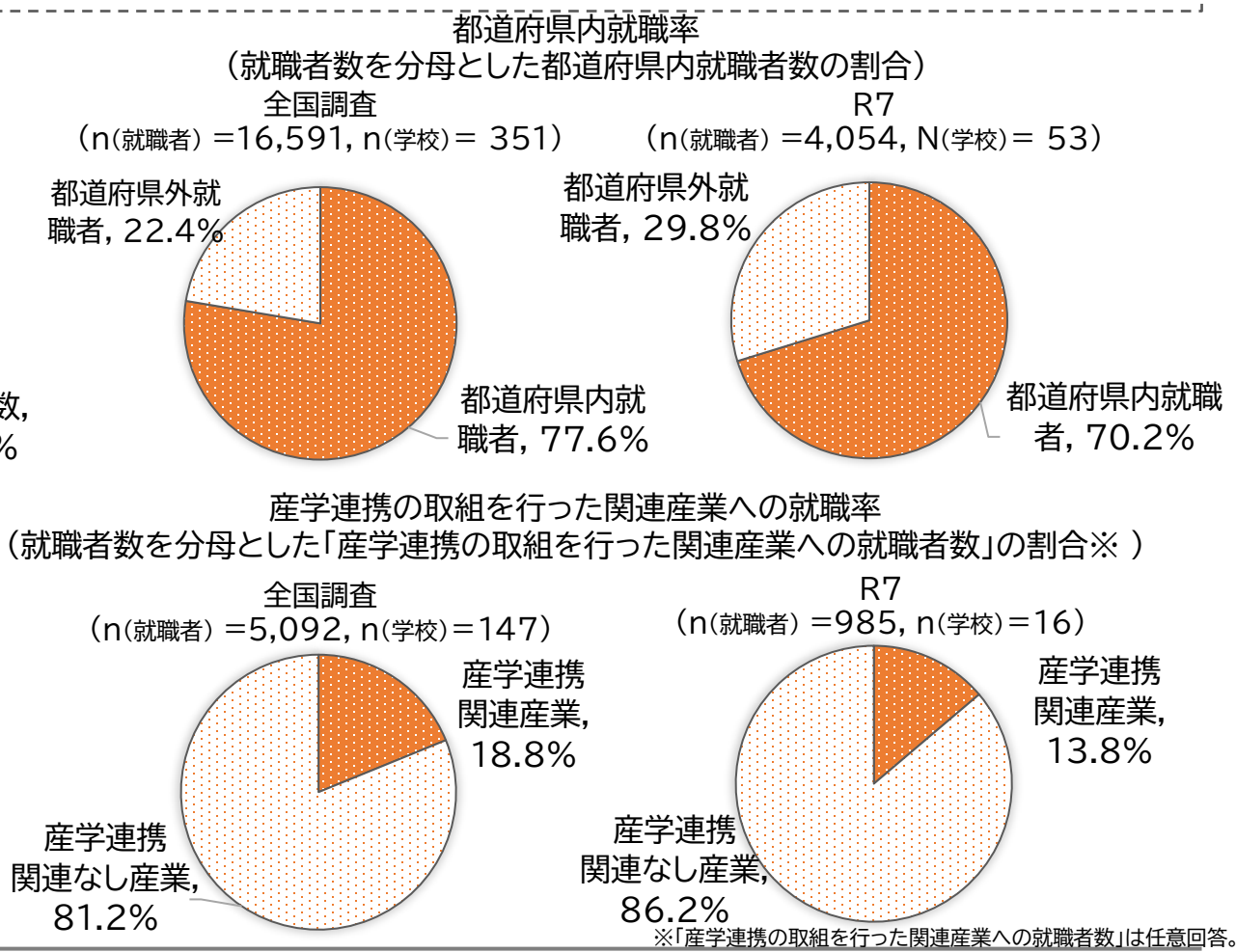


進路(全国Q34、学校Q37)

- 進路については、概ねMHSと全国で類似の傾向だが、卒業者に占める就職者数についてはMHSのほうが全国よりも約12ポイント高かった。



※アンケート回答校368校中、以下に該当する学校は集計対象外とした。
外れ値で誤入力の可能性が高い1校、“卒業者数<(就職者数+進学者数)”である5校、
卒業者数が“0人”の1校。



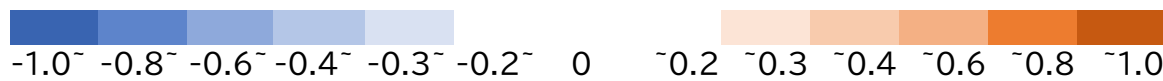
結果(相関分析(成果検証))

- 当事業の成果の要因を検討するため、相関分析を実施した。
 - 内訳: アンケート内分析、アンケート間分析(例: 学校×生徒)
 - 産学連携やマイスターハイスクール事業の成果に相当すると考えられる項目: 黄色セル
- 成果に相当する項目複数と相関関係がみられた項目ペア※や比較的強い相関関係がみられた項目ペアを中心に、以降言及する。

※相関係数は最大1、最小-1の値をとる。

最大値1に近いほど正の関係が強く、0に近いほど関係がなく、最小値-1に近いほど負の相関が強いことを示す。

本研究では、絶対値0.2以上を「相関があった」とみなすとともに、表には以下のように着色を施す。

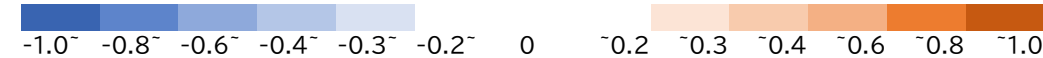


※単純集計結果は、「マイスター・ハイスクール事業、マイスター・ハイスクール普及促進事業 事業実施校における産学連携に関する実態調査、及び成果検証(マイスター事業アンケート調査 (1. 単純集計))」ご参照。

結果(相関分析(アンケート内分析に基づく成果検証))

生徒用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			生徒用アンケート																								
			社会人基礎力以外の成果項目												社会人基礎力												
			Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31	Q32	Q33	Q34	Q35	Q36	Q37	
生徒用 アン ケ ー ト	学年	Q3	0.00	0.09	0.07	0.03	0.01	0.13	0.14	0.13	0.09	0.11	0.07	0.02	0.12	0.13	0.14	0.14	0.13	0.15	0.13	0.09	0.09	0.13	0.07	0.14	
	産学連携の取組頻度(授業・実習)	Q6	0.11	0.12	0.09	0.09	0.14	0.10	0.01	0.06	0.12	0.09	0.07	0.10	0.12	0.13	0.06	0.10	0.06	0.07	0.07	0.11	0.14	0.10	0.13	0.07	
	産学連携の取組頻度 (学校行事・イベント)	Q7	0.12	0.14	0.13	0.13	0.13	0.16	0.11	0.15	0.12	0.13	0.17	0.16	0.13	0.12	0.14	0.14	0.12	0.16	0.13	0.15	0.11	0.14	0.09	0.14	
	産学連携の経験 (課題研究やグループワーク)	Q8	0.13	0.19	0.16	0.12	0.10	0.16	0.14	0.19	0.15	0.15	0.19	0.16	0.17	0.18	0.18	0.19	0.17	0.21	0.20	0.16	0.14	0.18	0.11	0.16	
	産学連携の経験 (企業見学・インターンシップ等)	Q9	0.11	0.16	0.13	0.09	0.16	0.17	0.12	0.09	0.10	0.10	0.09	0.13	0.16	0.17	0.12	0.11	0.11	0.10	0.12	0.16	0.16	0.14	0.15	0.14	
	産学連携の評価1	Q10	0.49	0.43	0.41	0.42	0.47	0.44	0.33	0.39	0.39	0.41	0.44	0.47	0.41	0.40	0.34	0.39	0.37	0.36	0.36	0.38	0.37	0.37	0.37	0.40	
	産学連携の評価2	Q11	0.42	0.42	0.44	0.45	0.50	0.43	0.24	0.36	0.44	0.40	0.38	0.44	0.40	0.42	0.30	0.38	0.34	0.31	0.32	0.41	0.45	0.35	0.42	0.40	
	将来の進路に関する見通し1	Q12	0.01	0.02	0.06	0.05	0.11	0.04	-0.08	-0.01	0.08	0.06	0.00	0.03	0.05	0.07	-0.02	0.03	0.00	-0.02	-0.02	0.03	0.08	0.02	0.08	0.05	
	将来の進路に関する見通し2	Q13	0.50	0.50	0.49	0.54	0.50	0.49	0.33	0.40	0.45	0.44	0.42	0.44	0.43	0.43	0.36	0.42	0.39	0.37	0.37	0.43	0.43	0.41	0.44	0.43	

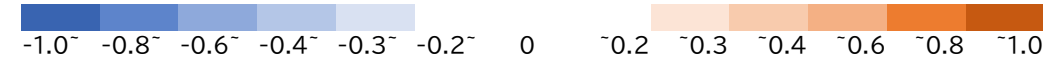
- 取組頻度(Q6,7)や経験(Q8,9)は、成果項目とほとんど関連がみられなかったが、産学連携の評価や将来の進路に関する見通しは、すべての成果項目と関連がみられた(Q10.企業や地域の人が提供した学びの機会(授業・実習・イベント等)は、自分の興味関心に合っていましたか。／Q11.企業や地域の人が提供した学びの機会(授業・実習・イベント等)からは、大人たちの熱意が伝わってきましたか。／Q13.学校は、仕事に役立つことを教えてくれた。).
- 得られる示唆の例:産学連携の成果を期待するには、単純に取組頻度を増やすだけでなく、質の側面から高める必要がある。

※いずれもポリコリック相関係数として算出。
※黄色:成果に相当する項目

※Q12は逆転項目につき、逆転後に算出。

教員用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



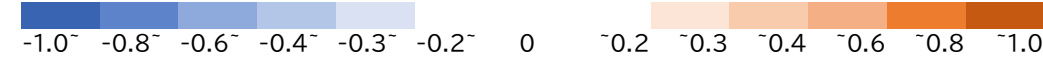
				教員用アンケート																											
				回答対象：全教員													回答対象：事業関係者のみ														
				生徒評価項目													学習機会の提供	自己評価項目												校内体制の改善	
				Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31					
教員用アンケート	回答対象：全教員	産学連携の必要性の理解	Q4	0.50	0.55	0.53	0.51	0.45	0.50	0.50	0.49	0.46	0.40	0.46	0.41	0.60	0.59	0.46	0.30	0.47	0.31	0.40	0.53	0.66	0.52	0.36					
		学校目標との整合性	Q5	0.47	0.52	0.50	0.49	0.47	0.49	0.45	0.45	0.40	0.29	0.36	0.40	0.59	0.57	0.43	0.32	0.39	0.35	0.44	0.49	0.60	0.49	0.40					
		地域産業・企業への理解	Q18	0.45	0.39	0.45	0.39	0.35	0.35	0.46	0.28	0.39	0.31	0.41	0.41	0.39	0.50	0.42	0.33	0.40	0.28	0.42	0.43	0.50	0.48	0.31					
		関心に合った学習機会の提供	Q19	0.52	0.43	0.56	0.52	0.50	0.46	0.47	0.43	0.48	0.37	0.48	0.37	0.44	0.56	0.43	0.22	0.41	0.29	0.39	0.49	0.52	0.44	0.21					
	管理職対象のみ	教員の心理的安全性の確保	Q32	0.36	0.22	0.45	0.25	0.76	0.51	0.25	0.37	0.10	0.48	0.43	0.41	0.56	-0.13	0.40	0.33	0.52	0.55	0.38	0.38	0.45	0.67	0.33					
	担当者対象のみ		Q33	0.31	0.34	0.18	0.40	0.46	0.49	0.53	0.41	0.37	0.44	0.41	0.42	0.44	0.51	0.36	0.28	0.68	0.30	0.57	0.51	0.50	0.58	0.31					

- 上の表で示された実態項目と成果項目は、概ねいずれのペアにおいても関連がみられた。
 - R6調査結果と異なり、産学連携担当教員が心理的安全性が確保されているほど成果も高く評定される傾向が多く、成果指標とのペアでみられた(Q33行)。
 - 得られる示唆の例：R6よりも取組が深まり、産学連携担当教員の働きやすさを周囲でサポートしながら成果に結びつけることができている。

※いずれもポリコリック相関係数として算出。
※黄色: 成果に相当する項目
※Q21～31は事業関係者のみ、さらにQ32は管理職、Q33は事業担当者のみが回答しているため、当該項目を用いた相関係数には当該項目回答者以外のデータは使用していない。
また、Q32は標本数が少なく(n=22)、推定が安定しないため、解釈は慎重に行う必要がある。

学校用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			学校用アンケート	
			目産 への 学連 貢ビ 献ジ 度ヨ ン校	負 担 度 合 い
			Q15	Q35
学校 用 ア ン ケ ー ト	産学連携歴	Q3	-0.12	0.06
	産学連携に関わる企業・団体数	Q10	0.24	0.28
	基礎自治体との連携の深さ	Q19	0.16	0.30
	基礎自治体からの資源提供	Q20	0.33	0.13
	連携先の理解1	Q21	0.51	0.74
	連携先の理解2	Q22	0.58	0.64
	連携先からの理解	Q23	0.69	0.77
	課題感の反映	Q24	0.47	0.75
	共通ビジョンの検討	Q25	0.44	0.44
	企業の貢献度	Q26	0.52	0.72
	継続性(学校側)	Q27	0.52	0.38
	継続性(連携先側)	Q28	0.55	0.41
	産学関係の深まり	Q29	0.45	0.44
	産業界との連携の必要性検討	Q30	0.20	0.26
	課題の産業界への共有	Q31	0.09	0.19
	産業界の目的や必要性の理解	Q32	0.40	0.52
	学校と産業界の議論の場1	Q33	0.21	0.40
	学校と産業界の議論の場2	Q34	0.26	0.17

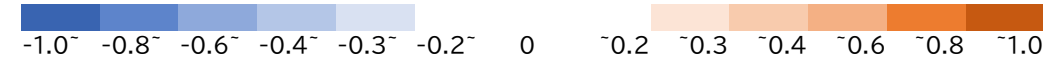
- 成果項目と関連している実態項目は、全体の7割以上 あった。
 - 具体例
 - 数多くの企業・団体によって支えられていること。(Q10)
 - 連携先と相互理解ができていること。(Q21～23)
 - 産学連携に際して、課題感を反映できていること。連携先と共通ビジョンを持てていること。(Q24, 25)
 - 企業が貢献していること。(Q26)
 - 学校・連携先双方に継続性が見込まれる体制となっていること。(Q27, 28)
 - 産学の関係が深まっていること。(Q29)
 - 産学連携に際して重要と考えられる様々なプロセスを着実に踏んでいること(Q32～33)
- 産学連携歴(Q3)は、成果項目と関連していなかった。
 - 得られる示唆の例: 時間の長さ(量)が産学連携の成果を決定づけるわけではない。(この点は、生徒用アンケートで取組頻度(生徒Q6, 7)がいずれの成果項目とも関連していなかったことと整合性がある)

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色: 成果に相当する項目

参考:全国アンケート相関分析との対比

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			学校用アンケート					全国アンケート	
			産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	負担に見合う成果				産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	負担に見合う成果
			Q15	Q35				Q9	Q32
学校用アンケート	産学連携歴	Q3	-0.12	0.06	全国アンケート	産学連携歴	Q4	0.14	0.11
	基礎自治体からの資源提供	Q20	0.33	0.13		基礎自治体からの資源提供	Q16	0.14	0.13
	連携先の理解1	Q21	0.51	0.74		連携先の理解1	Q19	0.57	0.6
	連携先の理解2	Q22	0.58	0.64		連携先の理解2	Q20	0.56	0.6
	連携先からの理解	Q23	0.69	0.77		連携先からの理解	Q21	0.54	0.73
	課題感の反映	Q24	0.47	0.75		課題感の反映	Q22	0.53	0.52
	共通ビジョンの検討	Q25	0.44	0.44		共通ビジョンの検討	Q23	0.46	0.5
	企業の貢献度	Q26	0.52	0.72		企業の貢献度	Q24	0.60	0.71
	継続性(学校側)	Q27	0.52	0.38		継続性(学校側)	Q25	0.35	0.53
	継続性(連携先側)	Q28	0.55	0.41		継続性(連携先側)	Q26	0.34	0.52
	産学関係の深まり	Q29	0.45	0.44		産学関係の深まり	Q10	0.29	0.33
	産業界との連携の必要性検討	Q30	0.20	0.26		産業界との連携の必要性検討	Q27	0.41	0.45
	課題の産業界への共有	Q31	0.09	0.19		課題の産業界への共有	Q28	0.43	0.44
	産業界の目的や必要性の理解	Q32	0.40	0.52		産業界の目的や必要性の理解	Q29	0.39	0.39
	学校と産業界の議論の場1	Q33	0.21	0.40		学校と産業界の議論の場1	Q30	0.33	0.39
	学校と産業界の議論の場2	Q34	0.26	0.17		学校と産業界の議論の場2	Q31	0.20	0.05

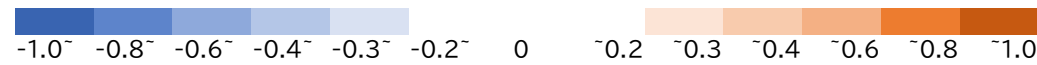
※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色:成果に相当する項目

・ 全国アンケートと当事業学校用アンケートを比較すると、概ね結果の傾向は一致する。

産業界用アンケート 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			産業界用アンケート			
			産学連携による企業・団体の目標やビジョンへの貢献度	採用活動のしやすさ	産学連携の継続意欲	産学連携意義・必要性の認識
			Q7	Q9	Q10	Q11
産業界用アンケート	産学連携歴	Q4	0.01	0.04	0.29	0.20
	産学連携目的の重要性	Q6	0.59	0.24	0.45	0.37
	互恵関係の成立	Q13	0.16	0.25	0.12	0.13
	連携意義・必要性の認識	Q14	0.44	0.39	0.59	0.39
	連携先への理解	Q15	0.57	0.43	0.56	0.60
	連携先からの理解	Q16	0.53	0.50	0.54	0.63
	良好な関係性	Q17	0.57	0.35	0.52	0.65
	課題感の反映	Q18	0.50	0.47	0.56	0.61
	双方の課題を踏まえたビジョン協議	Q19	0.56	0.39	0.52	0.57
	適切な役割分担	Q20	0.65	0.30	0.68	0.54
	継続性(企業・団体側)	Q21	0.13	0.20	0.35	0.31
	継続性(学校側)	Q22	0.03	0.18	0.24	0.05

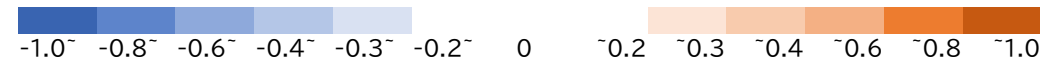
- 左の表で示された実態項目と成果項目は、概ねいずれのペアにおいても関連がみられた。
- 互恵関係の成立(Q13)や継続性(学校側)(Q22)は、他の実態項目と異なり、成果項目とあまり関連していなかった。

※いずれもポリコリック相関係数として算出。
※黄色:成果に相当する項目

自治体用アンケート 相関分析

※自治体用アンケートは比較的回答数が少ない(N=34)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			自治体用アンケート			
			産学連携の自治体目標・ビジョンへの貢献度	産学連携の継続意欲	産学連携意義・必要性の認識	議会等からの理解
			Q7	Q9	Q10	Q11
自治体用アンケート	産学連携歴	Q4	0.47	0.49	0.19	0.39
	産学連携目的の重要性	Q6	0.30	0.40	0.17	0.16
	連携先(学校)からの理解	Q12	0.50	0.20	0.30	0.37
	連携先(学校)への理解	Q13	0.56	0.52	0.39	0.28
	連携先(産業界)への理解	Q14	0.44	0.23	0.11	0.25
	連携先(産学)への理解	Q15	0.47	0.40	0.26	0.16
	学校への積極提案	Q16	0.40	0.27	0.11	0.15
	課題感の反映	Q17	0.42	0.35	0.34	0.15
	共通ビジョンの検討	Q18	0.41	0.39	0.41	0.12
	適切な役割分担	Q19	0.56	0.58	0.16	0.23
	継続性(自治体側)	Q20	0.51	0.22	0.35	0.20
	継続性(連携先側)	Q21	0.39	0.31	-0.02	0.15

- 左の表で示された実態項目と成果項目は、概ねいずれのペアにおいても関連がみられた。
 - 得られる示唆の例: 前ページの結果も踏まえると、産学連携の体制整備によって、教育現場にとってのメリットだけでなく、企業・団体や自治体にとってのメリットも実現しうる

※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色: 成果に相当しうる項目

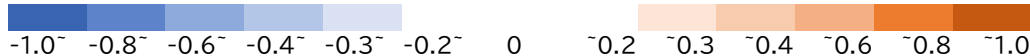
※Q10は回答の分散が極めて小さく(N=34のうち33名が同一回答)、推定が安定しないため、参考値扱い。

結果(相関分析(アンケート間分析に基づく成果検証))

※学校による回答データを、在籍生徒・教員・連携先の回答データに紐づけて分析実施

生徒×学校 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			生徒アンケート																								
			社会人基礎力以外の成果項目										内発的動機付け		社会人基礎力												
			知識・意欲を学ぶ	知識・技術の理解	知識・技術の活用	知識・技術と実社会の関連付け	知識・技術とキャリアの関連付け	地元企業の理解	地元就職への意欲	地元貢献への意欲	将来の目標	将来の展望	内発的動機付け	内発的動機付け	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	規律性	ストレスコントロール	
			Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31	Q32	Q33	Q34	Q35	Q36	Q37	
学校用アンケート	産学連携歴	Q3	-0.03	0.03	0.03	-0.02	-0.03	0.02	0.05	0.07	-0.03	0.00	0.05	0.01	0.02	0.00	0.01	0.05	0.03	0.06	0.05	0.02	-0.01	0.07	-0.01	0.02	
	産学連携に関わる企業・団体数	Q10	0.04	0.05	0.04	0.05	0.00	0.04	0.05	0.03	-0.01	0.03	0.03	0.01	0.06	0.08	0.04	0.06	0.07	0.07	0.07	0.05	0.02	0.04	0.03	0.04	
	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	Q15	-0.04	-0.03	-0.01	0.00	0.00	0.01	-0.05	-0.06	-0.02	-0.04	-0.03	-0.05	0.01	0.04	0.01	0.01	0.04	0.01	0.02	0.00	-0.01	9.3121	0.00	0.01	
	基礎自治体との連携の深さ	Q19	0.01	0.04	0.02	0.01	-0.01	0.02	0.01	0.01	-0.02	0.00	0.00	-0.01	0.07	0.07	0.06	0.07	0.06	0.08	0.08	0.05	0.04	0.06	0.04	0.04	
	基礎自治体からの資源提供	Q20	-0.07	-0.02	-0.04	-0.03	-0.03	-0.02	-0.06	-0.02	-0.04	-0.02	-0.02	-0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	-0.01	-0.01	
	連携先の理解1	Q21	-0.04	-0.03	0.00	-0.03	0.04	0.01	-0.04	-0.01	0.01	-0.01	0.00	-0.02	-0.01	0.02	-0.05	-0.01	0.00	-0.02	-0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	
	連携先の理解2	Q22	-0.02	-0.03	-0.02	-0.02	0.03	0.00	-0.09	-0.04	-0.01	-0.02	-0.02	-0.02	0.00	0.02	-0.04	-0.02	-0.01	-0.04	-0.01	0.00	0.01	-0.02	0.00	-0.01	
	連携先からの理解	Q23	-0.08	-0.07	-0.04	-0.05	0.00	-0.01	-0.14	-0.08	-0.02	-0.04	-0.04	-0.06	-0.04	0.00	-0.05	-0.05	-0.04	-0.08	-0.05	-0.03	-0.01	-0.05	-0.01	-0.04	
	課題感の反映	Q24	-0.03	-0.03	-0.02	-0.01	0.04	0.01	-0.11	-0.07	0.01	-0.03	-0.02	-0.01	0.00	0.05	-0.05	-0.01	0.01	-0.03	-0.03	0.00	0.01	0.00	0.02	0.01	
	共通ビジョンの検討	Q25	-0.03	0.00	0.02	-0.01	0.06	0.02	0.03	0.05	0.03	-0.01	0.02	0.00	0.00	0.02	-0.02	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02	0.01	0.03	0.02	0.00	
	企業の貢献度	Q26	-0.06	-0.04	-0.01	-0.03	0.04	-0.02	-0.08	-0.03	0.03	-0.02	-0.02	-0.01	-0.01	0.02	-0.05	0.00	-0.03	-0.05	-0.03	0.01	0.04	0.02	0.04	0.00	
	継続性(学校側)	Q27	-0.02	0.00	0.04	0.02	0.04	0.03	0.01	0.03	0.01	-0.01	0.03	0.01	0.01	0.04	0.01	0.03	0.03	0.04	0.04	0.03	0.02	0.06	0.03	0.04	
	継続性(連携先側)	Q28	0.00	0.02	0.04	0.03	0.06	0.05	0.02	0.03	0.02	0.00	0.05	0.03	0.02	0.05	0.02	0.05	0.05	0.06	0.05	0.04	0.01	0.08	0.02	0.05	
	産学関係の深まり	Q29	-0.02	0.00	0.00	0.01	0.00	0.03	0.00	0.00	-0.02	0.00	0.01	-0.02	0.01	0.04	0.00	0.01	0.02	0.02	0.01	-0.01	-0.01	0.00	-0.01	0.01	
	産業界との連携の必要性検討	Q30	0.00	0.01	0.00	-0.01	-0.01	0.03	0.13	0.04	-0.01	-0.01	0.01	-0.01	-0.02	-0.01	0.01	-0.01	0.01	0.03	5.2658	-0.04	-0.04	-0.03	-0.04	-0.01	
	課題の産業界への共有	Q31	0.00	0.00	-0.02	0.01	0.00	0.00	0.05	0.03	-0.01	-0.03	0.00	0.00	-0.02	0.00	-0.02	-0.02	0.00	-0.02	-0.03	-0.02	-0.01	-0.02	-0.03	-0.02	
	産業界の目的や必要性の理解	Q32	-0.05	-0.05	-0.06	-0.03	-0.03	-0.05	-0.05	-0.07	-0.03	-0.06	-0.06	-0.06	-0.05	-0.03	-0.08	-0.06	-0.05	-0.07	-0.07	-0.05	-0.02	-0.05	-0.04	-0.05	
	学校と産業界の議論の場1	Q33	0.02	0.05	0.03	0.02	0.01	0.03	0.18	0.09	0.00	-0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.04	0.03	0.02	0.01	0.03	0.00	0.01	
	学校と産業界の議論の場2	Q34	0.03	0.04	0.04	0.03	0.03	0.06	0.05	0.03	-0.01	0.00	0.02	0.02	0.07	0.08	0.03	0.05	0.07	0.07	0.05	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	
	負担に見合う成果	Q35	-0.07	-0.06	-0.03	-0.05	0.00	-0.02	-0.09	-0.05	-0.03	-0.04	-0.02	-0.04	-0.03	0.02	-0.06	-0.04	-0.05	-0.07	-0.04	-0.03	-0.01	-0.04	-0.01	-0.03	

・ 学校の取組状況と生徒用アンケートにおける成果項目は、関連がみられなかった。

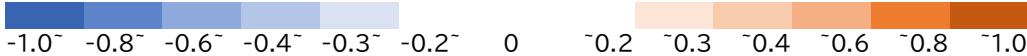
※いずれもポリコリック相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目

- ところどころではあるが、実態項目と成果項目が関連していた。
 - 具体例(対 負担に見合う成果(学校Q35)):
 - 教員の心理的安全性が確保されていること(教員Q33)、学校目標との整合性があること(教員Q5)
 - 具体例(対 校内の組織化(教員Q30)):
 - 連携先から理解されていること(学校Q23)ほか、学校と産業界の関係構築プロセスに関わるもの複数

53

教員×学校 相関分析(2/2)

相関係数(絶対値0.2以上で着色)

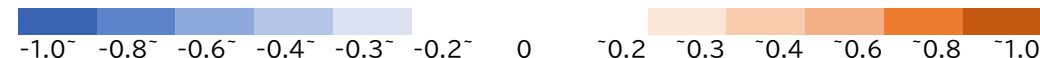


			教員用アンケート																														
			回答対象:全教員															回答対象:事業関係者のみ												回答対象:管理職のみ	回答対象:担当者のみ		
			産学連携の必要性の理解	学校目標との整合性	生徒評価項目												学習機会の提供	地域産業・企業への理解	提供	自己評価項目												校内体制の改善	
判（生徒評価）思考力・ 断力・表現力1	判（生徒評価）思考力・ 断力・表現力2	判（生徒評価）思考力・ 断力・表現力3			術（生徒評価）知識・技 術を学ぶ意欲	術（生徒評価）知識・技 術の理解	術（生徒評価）知識・技 術の活用意欲	術（生徒評価）知識・技 術と実社会の関連付け	術（生徒評価）知識・技 術とキャリアの関連付け	の（生徒評価）地元企業 の理解	への（生徒評価）地元就 意欲1職	への（生徒評価）地元貢 意欲2献	目指す生徒像の再考	専門性の向上	地元産業の理解	ム改善				指導方法・カリキュラ の検討	生徒に必要な資質能力 の検討	授業・単元計画の検討	善 学びの評価に基づく改	活動の実施	創造的で効率的な教育	動の活性化・教育活	学校の魅力化・教育活	校内の組織化	学校外の相談先の存在				
		Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	Q29	Q30	Q31	Q32	Q33			
学校用アンケート	連携先の理解1	Q21	0.17	0.28	0.05	0.08	0.02	0.02	0.05	0.12	0.11	0.19	0.21	0.14	0.10	0.03	0.02	0.08	0.12	-0.02	0.27	0.11	0.11	0.05	0.06	0.05	0.03	0.21	0.02	0.06	0.09		
	連携先の理解2	Q22	0.18	0.30	-0.01	0.01	0.00	0.04	0.07	0.10	0.12	0.18	0.25	0.02	0.04	-0.01	0.03	0.12	0.12	0.06	0.27	0.20	0.14	0.12	0.04	-0.02	0.04	0.20	-0.02	0.14	0.42		
	連携先からの理解	Q23	0.18	0.35	0.08	0.13	0.00	0.05	0.10	0.06	0.05	0.17	0.18	0.07	0.02	0.10	0.18	0.11	0.10	0.19	0.32	0.15	0.20	0.16	0.13	0.18	0.25	0.31	0.11	0.37	0.46		
	課題感の反映	Q24	0.11	0.23	0.14	0.21	0.03	0.23	0.25	0.16	0.12	0.21	0.18	0.04	-0.01	-0.06	0.05	0.11	-0.01	0.09	0.15	-0.01	0.14	0.07	0.07	0.15	0.11	0.21	0.09	0.25	0.37		
	共通ビジョンの検討	Q25	-0.13	-0.07	-0.07	-0.05	-0.06	-0.13	-0.07	-0.10	-0.12	-0.01	0.04	0.11	0.06	-0.06	-0.03	-0.02	-0.13	-0.09	0.00	0.00	-0.02	-0.01	-0.02	0.00	-0.08	0.06	0.00	0.24	-0.03		
	企業の貢献度	Q26	0.18	0.21	0.27	0.32	0.14	0.18	0.15	0.25	0.18	0.22	0.15	0.17	0.10	0.04	0.23	0.17	0.05	0.06	0.14	0.02	0.04	0.03	0.04	0.17	0.15	0.15	0.12	0.07	0.25		
	継続性(学校側)	Q27	0.07	0.16	0.02	0.10	-0.04	0.02	0.08	0.03	-0.03	0.07	0.09	0.06	-0.04	-0.08	0.04	0.05	-0.03	-0.09	0.11	-0.07	0.03	0.00	0.01	0.07	0.00	0.08	-0.01	-0.01	0.12		
	継続性(連携先側)	Q28	0.00	0.06	-0.07	0.03	-0.05	-0.07	0.00	-0.04	-0.07	-0.02	-0.02	-0.02	-0.06	-0.16	-0.02	0.01	-0.10	-0.17	-0.04	-0.13	-0.07	-0.07	-0.10	-0.09	-0.17	-0.04	-0.11	-0.07	-0.05		
	産学関係の深まり	Q29	0.13	0.27	0.04	0.07	0.07	0.03	0.07	0.07	0.11	0.13	0.11	0.04	0.09	0.13	0.05	0.01	0.12	0.16	0.19	0.09	0.12	0.11	0.07	0.08	0.20	0.29	0.08	0.08	0.22		
	産業界との連携の必要性検討	Q30	-0.02	0.04	-0.07	-0.13	-0.08	-0.08	-0.07	-0.01	-0.03	0.05	-0.02	0.18	0.13	-0.01	-0.08	0.02	0.10	-0.04	0.06	0.03	-0.07	0.00	0.07	0.00	-0.01	0.08	0.01	0.60	-0.20		
	課題の産業界への共有	Q31	0.07	-0.03	0.03	-0.04	0.06	-0.03	0.01	0.10	0.08	-0.04	-0.09	0.00	0.02	0.00	0.03	0.06	0.10	-0.08	-0.09	-0.02	-0.15	-0.13	-0.13	-0.18	-0.14	-0.20	-0.15	-0.54	-0.23		
	産業界の目的や必要性の理解	Q32	0.21	0.35	0.14	0.18	0.09	0.04	0.07	0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.02	0.09	0.14	0.04	0.17	0.13	0.17	0.01	0.07	0.07	-0.01	0.09	0.18	0.20	0.06	-0.14	0.12		
学校と産業界の議論の場1	Q33	0.04	0.05	-0.05	-0.05	-0.11	-0.20	-0.18	-0.05	-0.15	0.00	0.00	0.29	0.11	0.05	0.07	-0.05	0.09	-0.02	0.07	-0.01	0.02	0.01	0.03	0.06	0.01	0.00	0.03	0.46	-0.06			
学校と産業界の議論の場2	Q34	-0.05	0.04	-0.10	-0.05	-0.19	-0.06	0.01	-0.06	-0.09	0.06	0.14	0.08	-0.03	-0.17	-0.05	0.01	-0.08	-0.12	0.08	0.03	0.00	0.06	0.04	0.01	-0.07	0.10	-0.01	0.16	0.01			
負担に見合う成果	Q35	0.11	0.30	0.01	0.09	-0.02	0.04	0.10	0.00	0.07	0.13	0.13	0.06	0.01	0.01	0.09	0.08	0.06	0.14	0.30	0.03	0.17	0.06	0.13	0.12	0.21	0.29	0.02	0.54	0.46			

※いずれもポリコリック相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目
※Q32は管理職、Q33は事業担当者のみが回答いるため、当該項目を用いた相関係数には当該項目回答者以外のデータは使用していない。
また、Q32は標本数が少なく(n=22)、推定が安定しないため、解釈は慎重に行う必要がある。

産業界×学校 相関分析

相関係数(絶対値0.2以上で着色)



			産業界用アンケート															
			産学連携歴	産学連携目的の重要性	産学連携の目標・ビジョンへの貢献度	採用活動のしやすさ	産学連携の継続意欲	産学連携の必要性認識	互恵関係の成立	連携意義・必要性の認識	連携先への理解	連携先からの理解	良好な関係性	課題感の反映	双方の課題を協議するためのビジョン	適切な役割分担	継続性（企業・団体側）	継続性（学校側）
			Q4	Q6	Q7	Q9	Q10	Q11	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20	Q21	Q22
学校用アンケート	産学連携歴	Q3	0.29	-0.16	-0.08	0.15	0.19	0.18	0.11	-0.18	-0.14	-0.11	-0.08	0.05	-0.01	-0.14	-0.02	-0.11
	産学連携に関わる企業・団体数	Q10	0.30	-0.16	-0.07	0.08	-0.19	0.12	0.23	0.08	0.07	0.15	0.16	0.11	0.10	-0.08	-0.11	-0.09
	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	Q15	-0.30	-0.05	0.19	0.08	-0.05	0.11	0.19	-0.05	0.14	0.18	0.21	0.17	0.10	-0.05	-0.02	-0.27
	基礎自治体との連携の深さ	Q19	-0.05	-0.02	0.11	0.05	-0.17	0.06	0.36	-0.40	-0.11	-0.09	0.10	0.02	0.06	-0.14	-0.20	-0.31
	基礎自治体からの資源提供	Q20	0.12	-0.24	-0.17	0.06	-0.19	-0.04	0.22	-0.21	-0.27	-0.21	0.03	-0.02	-0.02	-0.34	-0.18	-0.25
	連携先の理解1	Q21	0.25	-0.18	-0.20	0.20	0.12	0.40	0.08	0.11	0.10	0.10	-0.10	0.02	0.03	-0.20	-0.02	-0.07
	連携先の理解2	Q22	0.27	-0.22	-0.17	0.19	0.16	0.39	0.06	0.20	0.16	0.15	-0.06	0.06	0.08	-0.13	0.00	-0.06
	連携先からの理解	Q23	0.12	-0.19	-0.04	0.26	0.08	0.25	0.14	0.07	0.11	0.12	0.05	0.14	0.12	-0.16	0.01	-0.15
	課題感の反映	Q24	-0.01	0.02	0.08	0.32	0.24	0.38	0.18	0.07	0.26	0.23	0.09	0.27	0.17	0.07	0.10	-0.08
	共通ビジョンの検討	Q25	-0.05	-0.14	-0.19	0.30	0.03	0.16	-0.13	0.09	0.09	0.21	-0.15	0.08	-0.08	-0.26	0.08	0.10
	企業の貢献度	Q26	0.15	-0.12	-0.14	0.19	0.12	-0.04	-0.02	0.09	-0.04	-0.03	-0.08	0.13	-0.13	-0.04	0.19	0.10
	継続性(学校側)	Q27	0.00	-0.17	-0.25	-0.01	-0.13	-0.11	0.20	-0.01	0.02	-0.08	-0.14	0.07	-0.16	-0.17	0.20	-0.05
	継続性(連携先側)	Q28	-0.05	-0.25	-0.24	0.00	-0.13	-0.13	0.06	-0.09	-0.07	-0.07	-0.16	0.02	-0.28	-0.20	0.18	-0.08
	産学関係の深まり	Q29	0.12	-0.20	-0.02	0.23	0.14	0.42	0.05	0.18	0.13	0.30	0.10	0.10	0.26	-0.18	0.01	-0.12
	産業界との連携の必要性検討	Q30	-0.04	0.09	0.16	-0.04	0.12	0.22	-0.09	0.14	0.17	0.27	0.15	0.03	0.20	0.11	0.01	0.07
	課題の産業界への共有	Q31	0.31	-0.05	-0.25	-0.04	0.13	-0.05	-0.25	0.41	-0.03	0.03	-0.08	-0.01	-0.13	0.08	0.17	0.26
	産業界の目的や必要性の理解	Q32	0.16	0.07	0.05	0.20	0.11	0.24	-0.14	0.37	0.29	0.34	0.11	0.13	0.19	0.09	0.19	0.21
	学校と産業界の議論の場1	Q33	0.11	0.08	-0.10	0.06	0.00	0.17	-0.29	0.11	0.10	0.08	0.01	-0.02	-0.07	0.08	0.13	0.25
	学校と産業界の議論の場2	Q34	-0.04	0.02	0.02	0.20	0.12	0.32	0.00	0.26	0.34	0.32	-0.07	0.09	0.13	-0.06	-0.01	0.06
	負担に見合う成果	Q35	0.15	-0.19	0.08	0.20	0.02	0.28	0.22	0.20	0.25	0.41	0.27	0.24	0.23	-0.05	0.13	-0.06

- 産業界用アンケートにおける成果項目は2割程度の学校実態項目と、学校用アンケートにおける成果項目は3割程度の産業実態項目と関連していた。
 - 具体例(対 産業界用アンケートQ9～11): 取組に学校と企業双方の課題感を反映できていること。(学校Q24)
- 一方で、学校や連携先における継続性等(学校Q21, 27, 28, 31)は、産学連携による企業・団体目標やビジョンへの貢献度(産業Q7)との間に負の相関がみられた。
 - 得られる示唆の例: 目標やビジョンへの貢献度の高い取組であっても、その継続性は低い可能性がある。(例: 教員に求められる専門性が高いなど)

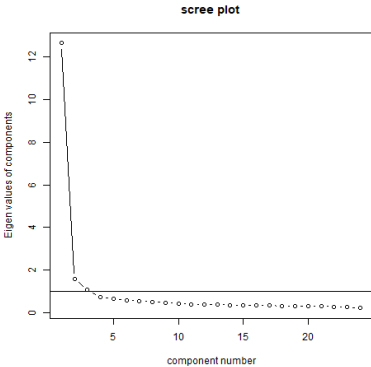
※いずれもポリコリック相関係数として算出。

※黄色: 成果に相当する項目

結果(相関分析(因子分析結果を活用した成果検証))

生徒用アンケート成果項目の精査(1/2)

- 成果項目の背後にある因子を確認するため、探索的因子分析を実施した
 - 手順:ポリコリック相関行列を作成後、スクリーンプロットや平行分析結果を用いて因子数を読み取った。因子数をもとに、探索的因子分析を実施。(重みつき最小二乗法、プロマックス回転使用)
- 結果:スクリーンプロット、及び解釈の妥当性から2因子構造と読み取った。また、各因子に命名した。
 - いずれの項目も、いずれかの因子に対する因子負荷量の絶対値が0.35以上となった。また、各因子のまとまりは概ね想定通りで、且つ α 係数も.92以上で、信頼性のある尺度であると判断した。



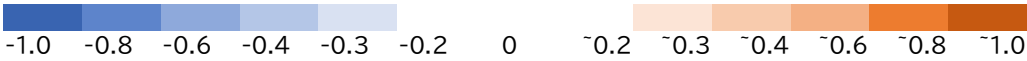
			因子1	因子2	共通性	独自性	複雑性	因子名	α 係数
グループで活動するとき、何をすればよいか、自分の役割を理解できた。	Q35	情況把握力	.84	.02	.72	.28	1.00	社会人基礎力	.95
話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができた。	Q33	傾聴力	.83	.02	.73	.27	1.00		
やるべきことに対して、積極的に取り組むことができた。	Q26	主体性	.83	.02	.72	.28	1.00		
何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められた。	Q30	計画力	.83	.01	.70	.30	1.00		
困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組むことができた。	Q37	ストレスコントロール力	.82	.05	.75	.25	1.01		
目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができた。	Q27	働きかけ力	.82	.04	.71	.29	1.00		
集団や社会生活の規則やルールを守ることができた。	Q36	規律性	.81	.00	.66	.34	1.00		
話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができた。	Q32	発信力	.80	.02	.67	.33	1.00		
相手の立場や意見を尊重することができた。	Q34	柔軟性	.80	.03	.68	.32	1.00		
失敗を恐れず、行動に移すことができた。	Q28	実行力	.80	.01	.64	.36	1.00		
目標を達成するために、解決すべき問題を見つけることができた。	Q29	課題発見力	.79	.08	.73	.27	1.02	社会人基礎力 以外の成果項目	.92
何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつか挙げて検討することができた。	Q31	創造力	.74	.09	.66	.34	1.03		
もっと地域の活性化について考える授業を受けたいと思った。	Q24	内発的動機付け	-.03	.87	.72	.28	1.00		
地元の発展に貢献したいと思った。	Q21	地元貢献への意欲	-.09	.87	.64	.36	1.02		
地元の企業に就職したいと思った(進学する場合は卒業後に)。	Q20	地元就職への意欲	-.19	.80	.44	.56	1.11		
もっと企業や地域の人の話を聞きたいと思った。	Q25	内発的動機付け	.05	.77	.66	.34	1.01		
授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思った。	Q14	知識・技術を学ぶ意欲	.17	.65	.62	.38	1.14		
地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた。	Q19	地元企業の理解	.22	.62	.65	.35	1.25		
仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった。	Q17	知識・技術と実社会の関連付け	.24	.59	.63	.37	1.34		
仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思った。	Q16	知識・技術の活用意欲	.27	.58	.65	.35	1.40		
企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思った。	Q18	知識・技術とキャリアの関連付け	.25	.57	.61	.39	1.36		
仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解できた。	Q15	知識・技術の理解	.38	.49	.66	.34	1.89		
将来に対して希望を持てた。	Q23	将来の展望	.33	.48	.58	.42	1.79		
将来の目標を考え、それを実現するために努力したいと思った。	Q22	将来の目標	.40	.42	.60	.40	1.99		
寄与			9.60	6.25					
寄与率			0.40	0.26					
累積寄与率			0.40	0.66					
因子間相関			1.00						
			.78	1.00					

※Q26～Q37は、職場や地域社会の中で多くの人々と接触しながら仕事をしていくために必要な能力として2006年に経済産業省によって提唱された「社会人基礎力」を参考に作成した。「社会人基礎力」は3つの能力、12の能力要素で構成される。

(<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

生徒用アンケート成果項目の精査(2/2)

			生徒用アンケート			
			因子1 社会人基礎力	因子2 社会人基礎力以外の成果 項目	参考) 社会人基礎力 平均尺度得点	参考) 社会人基礎力以外の成果 項目 平均尺度得点
生徒用 アンケート	学年	Q3	0.13	0.09	0.14	0.09
	産学連携の取組頻度(授業・実習)	Q6	0.12	0.11	0.11	0.11
	産学連携の取組頻度(学校行事・イベント)	Q7	0.15	0.17	0.15	0.17
	産学連携の経験(課題研究やグループワーク)	Q8	0.19	0.19	0.19	0.19
	産学連携の経験(企業見学・インターンシップ等)	Q9	0.16	0.15	0.15	0.15
	産学連携の評価1	Q10	0.45	0.51	0.42	0.51
	産学連携の評価2	Q11	0.45	0.48	0.41	0.48
	将来の進路に関する見通し	Q12	0.04	0.03	0.03	0.03
	将来の進路に関する見通し	Q13	0.49	0.54	0.45	0.54
学校用 アンケート	産学連携歴	Q3	0.02	0.02	0.03	0.02
	産学連携に関わる企業・団体数	Q10	0.05	0.04	0.06	0.04
	産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	Q15	0.00	-0.03	0.01	-0.04
	基礎自治体との連携の深さ	Q19	0.06	0.01	0.07	0.01
	基礎自治体からの資源提供	Q20	-0.01	-0.04	0.00	-0.04
	連携先の理解1	Q21	0.00	-0.01	-0.01	-0.01
	連携先の理解2	Q22	-0.01	-0.03	-0.01	-0.03
	連携先からの理解	Q23	-0.04	-0.07	-0.04	-0.07
	課題感の反映	Q24	-0.01	-0.03	-0.01	-0.03
	共通ビジョンの検討	Q25	0.01	0.02	0.01	0.02
	企業の貢献度	Q26	0.00	-0.03	-0.01	-0.03
	継続性(学校側)	Q27	0.03	0.02	0.04	0.02
	継続性(連携先側)	Q28	0.04	0.04	0.05	0.04
	産学関係の深まり	Q29	0.01	0.00	0.01	0.00
	産業界との連携の必要性検討	Q30	-0.01	0.02	-0.01	0.02
	課題の産業界への共有	Q31	-0.02	0.00	-0.02	0.00
	産業界の目的や必要性の理解	Q32	-0.06	-0.07	-0.06	-0.06
	学校と産業界の議論の場1	Q33	0.02	0.05	0.02	0.05
	学校と産業界の議論の場2	Q34	0.05	0.04	0.05	0.04
	負担に見合う成果	Q35	-0.04	-0.05	-0.03	-0.05



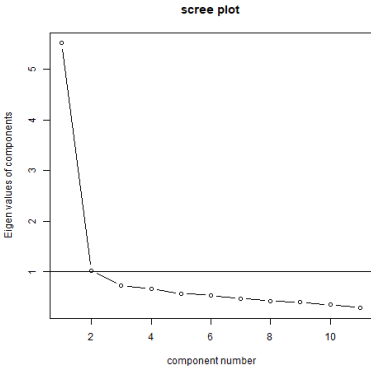
- 生徒の成果項目を因子にまとめた結果は、単項目を用いた分析と同様で、
取組頻度(Q6,7)や経験(Q8,9)は、成果項目とほとんど関連がみられなかったが、
産学連携の評価や将来の進路に関する見通しは、すべての成果項目と関連がみられた(Q10.企業や地域の人が提供した学びの機会(授業・実習・イベント等)は、自分の興味関心に合っていましたか。／Q11.企業や地域の人が提供した学びの機会(授業・実習・イベント等)からは、大人たちの熱意が伝わってきましたか。／Q13.学校は、仕事に役立つことを教えてくれた。)
・ 得られる示唆の例:産学連携の成果を期待するには、単純に取組頻度を増やすだけでなく、質の側面から高める必要がある。
- 同様に、学校用アンケートとの関連については、生徒用アンケートにおける成果項目と学校の取組状況とに関連はみられなかった。
・ 得られる示唆の例:学校における取組を在校生全体の資質・能力等に波及させることは容易ではない可能性がある。

※ポリシリアル相関係数として算出。

※黄色:成果に相当しうる項目

教員用アンケート成果項目の精査(1/3)

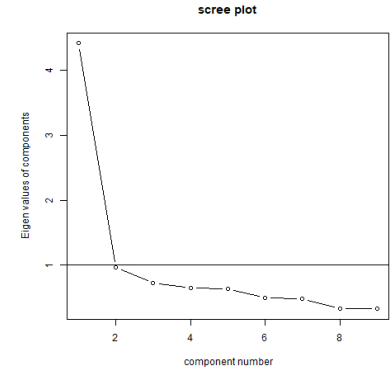
- 成果項目(生徒評価項目)の背後にある因子を確認するため、探索的因子分析を実施した
 - 手順:ポリコリック相関行列を作成後、スクリープロットや平行分析結果を用いて因子数を読み取った。
因子数をもとに、探索的因子分析を実施。(重みつき最小二乗法、プロマックス回転使用)
- 結果:スクリープロット、及び解釈の妥当性から2因子構造と読み取った。また、各因子に命名した。
 - いずれの項目も、いずれかの因子に対する因子負荷量の絶対値が0.35以上となった。
また、各因子のまとまりは概ね想定通りで、且つ α 係数も.74以上で、ある程度信頼性のある尺度であると判断した。



			因子1	因子2	共通性	独自性	複雑性	因子名	α 係数
生徒は、課題に対して粘り強く考えることができた。	Q6	〈生徒評価〉思考力・判断力・表現力1	1.04	-.18	.84	.16	1.06	生徒の資 質・能力	.89
生徒は、課題に対して他者と協力することができた。	Q7	〈生徒評価〉思考力・判断力・表現力2	.90	-.12	.67	.33	1.04		
生徒は、授業で学んでいる知識や技術に興味を持っていた。	Q9	〈生徒評価〉知識・技術を学ぶ意欲	.77	.05	.64	.36	1.01		
生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術について理解できた。	Q10	〈生徒評価〉知識・技術の理解	.71	.13	.66	.34	1.07		
生徒は、自分の意見や考えを分かりやすく伝えることができた。	Q8	〈生徒評価〉思考力・判断力・表現力3	.70	.03	.53	.47	1.00		
生徒は、普段の生活の中で、仕事や社会で使われている知識や技術を役立てたいと思っていた。	Q11	〈生徒評価〉知識・技術の活用意欲	.64	.22	.66	.34	1.24		
生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業の大切さを理解していた。	Q12	〈生徒評価〉知識・技術と実社会の関連付け	.52	.29	.59	.41	1.57		
生徒は、企業や地域の人から学ぶことが、将来の進路を考えるのに役立つと思っていた。	Q13	〈生徒評価〉知識・技術とキャリアの関連付け	.46	.35	.57	.43	1.88	生徒の進 路意識	.74
生徒は、地元の企業への就職(進学する場合は卒業後に)について前向きに考えていた。	Q15	〈生徒評価〉地元就職への意欲1	-.22	.98	.70	.30	1.10		
生徒は、地元への貢献意識を高めていた。	Q16	〈生徒評価〉地元貢献への意欲2	.07	.72	.59	.41	1.02		
生徒は、地域の企業や産業について、進路を考えるための十分な情報を得ていた。	Q14	〈生徒評価〉地元企業の理解	.27	.52	.55	.45	1.51		
寄与			4.71	2.28					
寄与率			0.43	0.21					
累積寄与率			0.43	0.64					
因子間相関			1.00						
			.74	1.00					

教員用アンケート成果項目の精査(2/3)

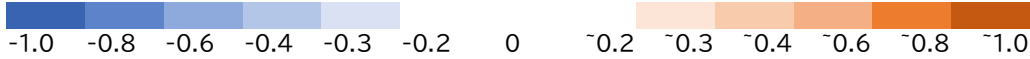
- 当事業関係者(316/411人)のみが回答した成果項目についても同様に、背後にある因子を確認するため、探索的因子分析を実施した
 - 手順:ポリコリック相関行列を作成後、スクリーンプロットや平行分析結果を用いて因子数を読み取った。因子数をもとに、探索的因子分析を実施。(重みつき最小二乗法、プロマックス回転使用)
- 結果:スクリーンプロット、及び解釈の妥当性から2因子構造と読み取った。また、各因子に命名した。
 - いずれの項目も、いずれかの因子に対する因子負荷量の絶対値が0.35以上となった。また、各因子のまとまりは概ね想定通りで、且つ α 係数も.79以上で、ある程度信頼性のある尺度であると判断した。



			因子1	因子2	共通性	独自性	複雑性	因子名	α 係数
産業界や地域社会との連携が、学校の魅力向上や教育活動の活性化につながった。	Q29	学校の魅力化・教育活動の活性化	1.00	-.17	.78	.22	1.06	指導力や 教育活動	.81
産業界や地域社会との連携により、創造的で効率的な教育活動が展開された。	Q28	創造的で効率的な教育活動の実施	.77	.05	.66	.34	1.01		
産業界や地域社会との連携により、自身の専門性や指導力が高まった。	Q22	専門性の向上	.67	.07	.52	.48	1.02		
産業界や地域社会との連携が、学校として目指す生徒像を再考するきっかけになった。	Q21	目指す生徒像の再考	.64	.11	.53	.47	1.06		
産業界や地域社会との連携により、地域を支える産業や職業について、進路指導を行うに十分な理解が深まった。	Q23	地元産業の理解	.41	.28	.42	.58	1.78		
産業界や地域社会と連携して、授業や単元の計画を検討するようになった。	Q26	授業・単元計画の検討	-.23	1.06	.80	.20	1.09	教育活動 の 検討過程	.79
産業界や地域社会と協働して取り組んだ学びの評価を共有し、それを基に改善に取り組んだ。	Q27	学びの評価に基づく改善	.17	.70	.70	.30	1.12		
生徒に必要な資質や能力について、産業界や地域社会と対話しながら決定するようになった。	Q25	生徒に必要な資質能力の検討	.22	.62	.63	.37	1.24		
産業界や地域社会との連携により、授業の指導方法やカリキュラムを改善する必要性を感じた。	Q24	指導方法・カリキュラム改善	.12	.49	.34	.66	1.11		
寄与			2.90	2.49					
寄与率			0.32	0.28					
累積寄与率			0.32	0.60					
因子間相関			1.00						
			.75	1.00					

教員用アンケート成果項目の精査(3/3)

				教員アンケート			
				回答対象:全教員		回答対象:事業関係者のみ	
				生徒評価項目		自己評価項目	
				因子1 生徒の資質・能力	因子2 生徒の進路意識	因子i 指導力や教育活動	因子ii 教育活動の検討過程
教員用アンケート	回答対象:全教員	産学連携の必要性の理解	Q4	0.58	0.55	0.67	0.50
		学校目標との整合性	Q5	0.56	0.47	0.64	0.50
		地域産業・企業への理解	Q18	0.46	0.43	0.53	0.44
		関心に合った学習機会の提供	Q19	0.57	0.54	0.56	0.44
	回答対象:事業関係者のみ	指導力や教育活動	因子i	0.72	0.71	1.00	0.84
		教育活動の検討過程	因子ii	0.65	0.65	0.84	1.00
	管理職の回答対象のみ	教員の心理的安全性の確保	Q32	0.52	0.57	0.64	0.63
		教員の心理的安全性の状況	Q33	0.50	0.58	0.66	0.57
	学校用アンケート	産学連携歴	Q3	0.15	0.12	0.13	0.14
		産学連携に関わる企業・団体数	Q10	-0.09	-0.05	0.07	0.08
		産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	Q15	-0.05	-0.05	-0.05	0.04
		基礎自治体との連携の深さ	Q19	0.12	0.08	0.07	0.12
		基礎自治体からの資源提供	Q20	0.09	0.09	0.06	0.12
		連携先の理解1	Q21	0.10	0.16	0.09	0.11
		連携先の理解2	Q22	0.08	0.11	0.10	0.15
		連携先からの理解	Q23	0.10	0.10	0.24	0.21
		課題感の反映	Q24	0.19	0.13	0.11	0.10
		共通ビジョンの検討	Q25	-0.07	0.02	-0.06	-0.03
		企業の貢献度	Q26	0.26	0.21	0.13	0.07
		継続性(学校側)	Q27	0.04	0.04	0.01	0.01
		継続性(連携先側)	Q28	-0.04	-0.04	-0.15	-0.11
		産学関係の深まり	Q29	0.09	0.10	0.17	0.15
		産業界との連携の必要性検討	Q30	-0.06	0.08	0.02	0.02
		課題の産業界への共有	Q31	0.01	0.00	-0.12	-0.13
		産業界の目的や必要性の理解	Q32	0.12	0.07	0.15	0.09
		学校と産業界の議論の場1	Q33	-0.10	0.07	0.04	0.03
		学校と産業界の議論の場2	Q34	-0.06	0.03	-0.04	0.03
		負担に見合う成果	Q35	0.06	0.07	0.19	0.14



- 教員の成果項目を因子にまとめた結果は、単項目を用いた分析と同様で、上の表で示された実態項目と成果項目は、いずれのペアにおいても関連がみられた。
 - 得られる示唆の例:教育活動の検討過程が着実であること(因子ii)や教員指導や教育活動の質が高まっていること(因子i)と、受け手の生徒の資質・能力(因子1)や進路意識(因子2)の高さは関連している。
- 同様に、学校用アンケートとの関連については、ところどころではあるが取組状況と成果項目が関連していた。
 - 具体例(対 生徒評価項目(教員 因子1・2):企業の貢献度が高いこと(学校Q26) / (対 自己評価項目(教員 因子i・ii):自校の産学連携目的が連携先企業等に理解されていること(学校Q23))

※順序変数×連続変数はポリシリアル相関係数、連続変数×連続変数はピアソン相関係数として算出。
※黄色:成果に相当しうる項目
※Q21～31は事業関係者のみ、さらにQ32は管理職、Q33は事業担当者のみが回答しているため、当該項目を用いた相関係数には当該項目回答者以外のデータは使用していない。
また、Q32は標本数が少なく(n=22)、推定が安定しないため、解釈は慎重に行う必要がある。

結果(自由記述整理)

授業や実習等において感じたこと (生徒Q38)

※文意を損なわない範囲で表記を整えています。

- 成果把握の質的な分析として、生徒用アンケートQ38「授業や実習等において感じたこと」※の結果を整理した。
※Q38.企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等について、どのように感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)(自由記述式)
- 結果、回答者(N=6698)のうち約6割の生徒から記述が得られ、概ねすべての記述内容が産学連携に対する肯定的評価であった。
- 記述内容からみられた、産学連携の意義、及びその他コメントの分類結果を以下に示す。

	トピックス	具体例
1	地域社会との関わり	• 地域の実態などを詳しく知ることができ、考えが深まった。 • 皆さんから社会に出てからの大変さや厳しさをしっかりと教えてもらった。もっと高校生のうちから頑張ろうと思った。
2	企業との連携	• 企業の多くの情報を得られていい経験になった。 • 企業の人のリアルな悩みや課題などを知ることができた。また、それに対して一緒に考えていくことで、力が身につく授業だと思った。
3	学びの拡張／実習の意義	• 学校では学べないことを知ることができ、新鮮さにワクワクした。 • 授業で習った言葉を実際に見ることで、より深く理解することができた。また、現場でしかわからないようなことをたくさん知れてとても良かった。
4	将来の進路選択	• 貴重な体験で、将来へのイメージを持つために役だった。 • 進路選択の幅が広がるし、社会に出たときにも役立つと思った。
5	主体性・学習意欲の変化	• 企業に就職してもそのために必要な検定を受けなくてはならないと聞き、普段の勉強の大切さがわかった。 • メモを必ず取るくらいの貴重な体験だった。将来に向かう僕らへのエールとも感じることができた体験だった。
6	コミュニケーション能力の変化	• 学校にいただけでは分からない社会のマナーについて知れた点が良かったと感じている。 • 何かの課題に対して、グループでよく話し合って意見を出し合い、考えるという経験により、将来働く上で必要なスキルを磨くことができた。
7	その他	■有用性 もともとの自分の興味の有無に関わらず、毎回すごく勉強になった。 ■要望 企業や地域社会から学ぶ授業をもっと増やしてほしい。 ■謝意 就職にむけた面接の指導など、色々役立つことを教えてもらい感謝しています。 ■具体的なエピソードや印象 そうめん工場で見学+体験(実習)を行い、そうめんは今では機械を用いて作っているが、昔は手作業だったり機械を使用しても時間がかかったりと食品を作る際の大変さや所要時間の多さを学んだ。 ドローンの操作をしたり、光ファイバーケーブルやLANケーブルを作ったりして、とても楽しかった。

産業界と生徒の協働の魅力・可能性 (教員Q34)

※文意を損なわない範囲で表記を整えています。

- 成果把握の質的な分析として、教員用アンケートQ34「産業界と生徒の協働の魅力・可能性」※の結果を整理した。
※Q34.産業界と生徒の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)(自由記述式)
※回答者(N=411)のうち約5割の教員から記述が得られていた。
- 産学連携の魅力・可能性、及びその他コメントの分類結果を以下に示す。(生徒自由記述の分類結果と概ね内容が合致するが、**橙セル**は特に教員回答ならではの内容。)

	トピックス	具体例
1	地域理解・地域貢献等	- 地域の産業を知るとともに産業の歴史や成り立ちに携わることができる。 - 地場産業や地域の人との連携が生徒の責任感や地域のことを考える機会を引き出す。
2	専門性・技術理解等	- 産業界の生の情報や技術に直接触れる機会が得られ、鮮度の高い(今まさに取り組まれている内容)学習を行うことができる。 - プロの方々と直接関わる中で、単なる知識の伝授に留まらず、プロの厳しさや「品質へのこだわり」、そして失敗から立ち上がる姿勢を肌で学べた。
3	学びの拡張／実習の意義	- 学校の授業で学ぶ以上の専門的な技術や知識の習得ができ、生徒自身の深い学びに繋がると感じた。 - 授業で学んでいることが、実際の社会においてどのように役立つのかをリアルに知ることができる。 - 企業の生の話を聞くことは、新たな学びを与えるだけでなく、これまで学んできたことを考えとして活かせる(アウトプット)する場でもある。
4	進路・職業観の形成	- 地域産業を知ることによって理解が深まるとともに、自分の目標や進路に関心を持つことができる。 - 仕事内容を知る機会があることで、職業選択のミスマッチを防ぐことにつながる。
5	主体性・学習意欲の変化・発現	- 生徒は社会で実際に使われている知識や技術に触れることができ、また、学校での基本的な学びが大切だと認識できる。 - 産学連携により、生徒たちの持つ隠された力を引き出していただけた。授業では見せない積極的な行動や気づきがみられた。
6	コミュニケーション能力の変化	- 地域の大人と接する機会が増え、コミュニケーションや発表する力が高まっているように感じる。 - アウトプットを多く経験する事で、自らの考えをしっかりと相手に伝える力が身についてきている。
7	教員の学び	- 産学連携を通して、教師は科目の目標や内容を整理し、カリキュラムや授業改善について再考することができた。 - 学校・生徒は産業界を、産業界は学校・生徒を知るきっかけとなり、これまでの一方向から双方向での対話ができるようになる。
8	課題・懸念	■授業のありかた - 産学連携の意義を実感しているが、年間学習指導計画の授業内容の保障の心配と時間割の調整の負担がある。 - 生徒が一つひとつの行事をしっかりと振り返る時間を作ることができなかったという反省がある。 - 教員には理解を深める内容だが生徒にとって内容が難しい講義もあった。産業界との協議が必要。 - 世の中が進化したとしても、基礎・基本が身に付いていないと何が正しい／間違っているのかを考えることができない。技術面での基礎・基本をしっかりと教える必要がある。 ■運営のありかた - 校内組織や教員の意識等が追いつかないまま協働を進めてしまい、企業の方々にご迷惑をかけてしまった。 - 連携にあたって原材料費や人件費等を使わないようにしていても、やはり企業側から持ち出していただいている現状がある。 - 教育委員会の関与がもう少し欲しかった。
9	その他	■有用性 産業界の技術者の方が、生徒との交流を通して「高校生」のイメージを大きく変え、魅力を実感して下さった。

参考)産業界と生徒の協働の魅力・可能性(学校Q38)

※文意を損なわない範囲で表記を整えています。

- 成果把握の質的な分析として、学校用アンケートQ38, 39「産業界と生徒の協働の魅力・可能性」、「産業界と教員の協働の魅力・可能性」※の結果を整理した。
 ※Q38.産業界と生徒の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)(自由記述式)
 Q39.産業界と教員の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)(自由記述式)
 ※回答者(N=53)のうち約7割の教員から記述が得られていた。
- 産学連携の魅力・可能性、及びその他コメントの分類結果を以下に示す。(教員自由記述の分類結果と概ね内容は合致)

	トピックス	具体例
1	地域理解・地域貢献等	・ 地元企業との関りを通じて地域の魅力を知り、地域産業の活性化等に興味を持つようになり、地元就職・定着のきっかけとなる。
2	専門性・技術理解等	・ 高度な知識と技術を持たれている企業の方に直接指導をしていただき、生徒にとって貴重な経験となっている。
3	学びの拡張／実習の意義	・ 学校の施設・設備では体験できない機材を使って実習を行うことで、教科書のみでは学べない実際の仕事をリアルに疑似体験できる。
4	進路・職業観の形成	・ 研修を通じて、生徒は企業のマインドに触れる貴重な機会を得ることができ、社会人としての資質を考えるきっかけとなった。
5	主体性・学習意欲の変化・発現	・ 連携がうまくいくと、生徒の学習意欲が高まる。
6	コミュニケーション能力の変化	・ 学校外の多様な価値観を持つ大人や仲間との協働を通じて、コミュニケーション能力など学力以外の能力を伸ばすことができた。
7	その他	■有用性 地域・産業界と連携した学校づくりが可能となる。

参考)産業界と教員の協働の魅力・可能性(学校Q39)

	トピックス	具体例
1	教員の学び	■専門性・価値観 ・ 企業との連携は教員自身の専門性向上にも寄与し、学校教育と産業界の橋渡し役としての役割を強化できると感じた。 ・ 産業界での就労経験がない教員にとって、産業界の業務内容の専門性や就労に対する価値観など知見を広げる機会となる。 ■キャリア教育 ・ 教員の視野が広がり、生徒への指導の幅が広がることで、生徒の進路指導に役立てることができている。
2	課題・懸念	・ イベントに対する事務的なやり取りが主であり、教員の資質向上に至っていない。 ・ 地域社会や産業界とのつながりが深まる一方で、直接の担当者の負担が増加している。
3	その他	■有用性 校外から高評価をいただくことによって、教員にも満足感や使命感が生まれ、以前より積極的に外部との連携に取り組むようになっている。

生徒との連携の魅力・可能性 (産業界Q23)

※文意を損なわない範囲で表記を整えています。

- 成果把握の質的な分析として、産業界用アンケートQ23「生徒との連携の魅力・可能性」※の結果を整理した。
※Q23.生徒との連携を通して、どのような魅力・可能性を感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)(自由記述式)
※回答者(N=63)のうち約8割から記述が得られていた。
- 産学連携の魅力・可能性、及びその他コメントの分類結果を以下に示す。(生徒自由記述の分類結果と概ね内容が合致するが、**緑セル**は特に産業界回答ならではの内容。)

	トピックス	具体例
1	地域・産業振興等	・ 積極的に取り組むことで、より地域の産業等の活性化がなされ、明るい未来につながると感じた。 ・ 学校生活と違った視点(自分で動かなければ計画が進まないというような状況での対応方法など問題点の解決策を考える)を学ぶことは、今後の社会人としての実社会に繋がると感じた。
2	専門性・技術理解等	・ 生徒さんたちや先生方が、産業におけるDXの必要性や専門的な基礎知識、機器の理解、ICT・IoTに関する知識を学ぶ機会になったと思われる。
3	進路・職業観の形成	・ 当該産業の認知度を高め、今後の選択肢の一つに含まれる可能性を感じた。。 ・ 連携授業を通して様々な仕事を幅広く学ぶことで、就職後のミスマッチの防止や自分に合った仕事を見つけやすくなると感じている。
4	主体性・学習意欲の変化・発現	・ 生徒参加型の授業では、自身の意見も出しながら知識を深めていた。 ・ 社会人として生徒と接することで、生徒の意識が変化することを実感できた。
5	産業界側の学び	・ 社内のみで仕事をしていると会社の常識・固定観念に囚われがちだが、生徒さんを受け入れることによって刺激を受け、視点を変える良い機会になった。 ・ デジタル技術に幼い頃から触れている世代であるためか、シミュレーションの使い方等、比較的すんなり理解できている点は驚かされた。この後の世代ではプログラミングを義務教育課程の中で学習していると思うので、更に理解力の高い学生が出てくると思っている。
6	課題・懸念	■授業のあり方 ・ 生徒の変化を実感しているが、継続するか、地域の企業にポジティブに働くかまでは不明である。 ・ 生徒たちの成長を左右するのは、一番時間を共有している教員の資質・能力であって、私たち民間が外から関わってもその効果は限定的だろう。 ■運営のあり方 ・ 先生の負担が大きいと思われる。
7	その他	■有用性 今後の日本において異分野間の連携協力は不可欠なので、生徒との連携を切り口に今後も活動に協力していきたい。

産業界と生徒の協働の魅力・可能性 (自治体Q25)

※文意を損なわない範囲で表記を整えています。

- 成果把握の質的な分析として、自治体用アンケートQ25「産業界と生徒の協働の魅力・可能性」※の結果を整理した。
※Q25.産業界と生徒との協働をご覧になり(あるいは実際に接して)、どのような魅力・可能性を感じていますか。(印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)(自由記述式)
※回答者(N=34)のうち約8割から記述が得られていた。
- 産学連携の魅力・可能性、及びその他コメントの分類結果を以下に示す。(生徒自由記述の分類結果と概ね内容が合致するが、黄色セルは特に自治体回答ならではの内容。)

	トピックス	具体例
1	地域・産業振興等	・ 基)高校教育の範囲を超えた経験が、農業の担い手確保につながる可能性があると感じている。現場の作業を生徒が実際に体験出来たり、研究テーマにそったアドバイスを企業側からもらえたり、企業は地元で人材を確保できる可能性が生まれていると感じた。 ・ 基)現場の作業を生徒が実際に体験できたり、研究テーマにそったアドバイスを企業側からもらえたり、企業は地元で人材を確保できる可能性が生まれていると感じた。
2	専門性・技術理解等	・ 管)産業界等との連携により、学校現場だけでは教えることが難しい、実際に産業界で必要とされる実践的・専門的な学びを行うことができている。
	学びの拡張／実習の意義	・ 基)産業界と協同することで、高校教育の範囲を超えた経験が、農業の担い手確保につながる可能性があると感じている
3	進路・職業観の形成	・ 管)生徒の主体的な進路選択と充実したキャリア形成に資する素晴らしい取り組みだと感じている。 ・ 管)生徒が、地域の人々の生き方や産業などに触れることを通して、地域の理解を深め、自らの生き方について考える体験的機会となっている。
6	課題・懸念	・ 管)持続性を担保しようとするほど(両者にメリットがあり、同じ温度感で負担感なく(むしろ必要性を感じて)できる取組であること等が成立条件になると考える)難しいと感じる。しかしながら、めまぐるしく変わる産業構造や進む技術革新に対応するには、今後産業界等との連携は必要不可欠と考える。
7	その他	■有用性 管)本事業での学びを、実際の実習先で生徒が利用者とのかかわりの中で生かすことができた聞き、実体験からの学びの重要性を改めて感じた。 ■互惠性 管)地域や産業界との連携により、学校と産業界等が対等な立場でWin-Winの関係になること。

結果(リサーチクエスチョン(RQ)に基づく分析)

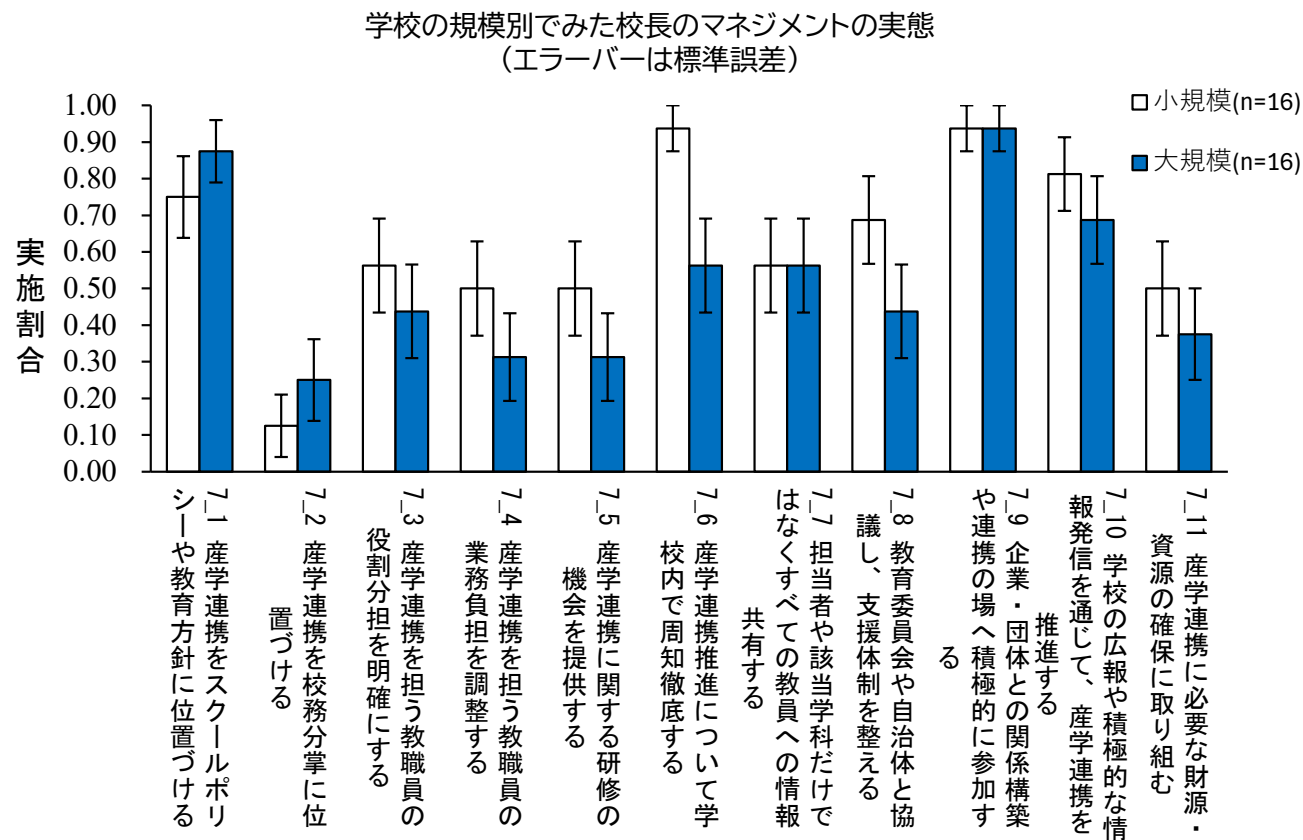
※自治体用アンケートについては回答数が26件であり、クロス集計・分析をすることによって1セル当たりの回答数が0～3件のセルが多数発生してしまうことから、掲載見送りとした

	内容
学校用アンケート	学校規模によって校長のマネジメントの実態は異なるか (学校Q6×Q7)
	目標・ビジョンへの貢献度の実態は、産学官において異なるか (全国Q9×学校Q15×産業界Q7×自治体Q7)
	基礎自治体からの資源提供は成果と結びついているか (学校Q20×Q15、Q16)
	関係構築の実態は、産学官それぞれに特徴があるか。 (学校Q21～28×産業界Q14～22×自治体Q12～21)
	産学の関係が深まっている学校ほど、生徒の資質能力も高いか。 (学校Q28×生徒Q14～23、26～37)
生徒・教員用 アンケート	成果に関する評価は、教員・生徒それぞれに特徴があるか。 (教員Q9～16×生徒Q14～21)

結果(リサーチクエスチョン(RQ)に基づく分析)
学校用アンケート中心

RQ:学校規模によって校長のマネジメントの実態は異なるか (学校Q6×Q7)

- Q6の回答をもとに、生徒数が少ない3割の学校と、生徒数が多い3割の学校の回答を抽出したうえで、校長のマネジメント(計11項目)の実施割合を算出した。
- 統計的検定(t検定)を実施した結果、小規模校・大規模校との間で有意な差がみられたのは「Q7_6産学連携推進について学校内で周知徹底する」で、小規模校のほうが実施率が高かった($t(22) = 2.63, p < .05, d = .93$)。大規模校のほうが産学連携推進の校内周知という側面で校長のリーダーシップがとられていないことが示唆された。(ただし、標準化平均値差(d)に着目すると、Q7_7, 9を除くすべての項目で小さな効果(.20)以上の効果が確認された。)

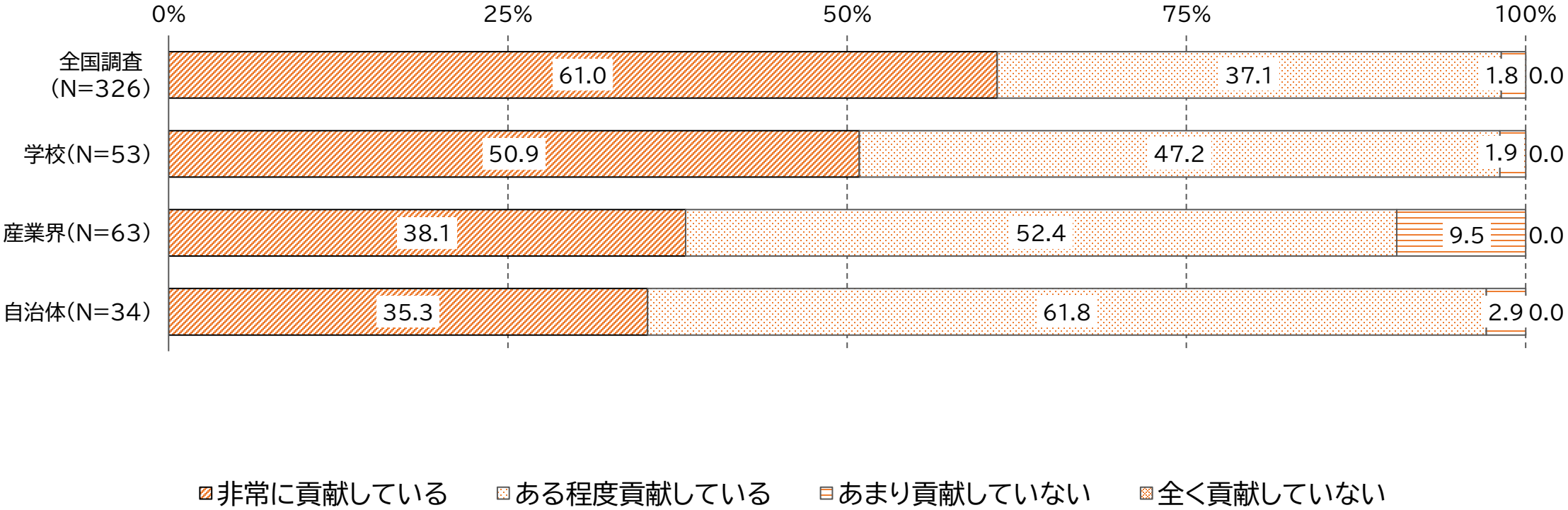


※小規模校群は生徒数59人以上256人以下、大規模校群は生徒数586人以上1128人以下だった。

RQ:目標・ビジョンへの貢献度の実態は、産学官において異なるか (全国Q9×学校Q15×産業界Q7×自治体Q7)

- 全国の専門高校、及びMHSの学校・産業界・自治体において、9割以上が学校目標やビジョンに対する産学連携の貢献度を実感していた。

産学連携の活動が、貴校(貴団体／貴自治体)の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？
(単一選択式)



RQ:基礎自治体からの資源提供は成果と結びついているか (学校Q20×Q15、35、5、16)

- 基礎自治体からの資源提供があると、産学連携による学校目標・ビジョンへの貢献度が高い傾向や、取組種別や効果が豊富である傾向がみられた。
- ただし、基礎自治体からの資源提供は、負担に見合う成果が得られることとは関連していなかった。

			学校用アンケート			
			産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度	負担に見合う成果	産学連携の取組種別	産学連携の効果
			Q15	Q35	Q5	Q16
学校用アンケート	基礎自治体からの資源提供	Q20	0.33	0.13	0.25	0.24

※Q5は取組の種類之和(最小0, 最大15)、Q16は学校として実感しているメリット之和(最小0, 最大9)を算出した上で、相関係数を算出した。

RQ:関係構築の実態は、産学官それぞれに特徴があるか。 (学校Q21~28×産業界Q14~22×自治体Q12~21)1/2

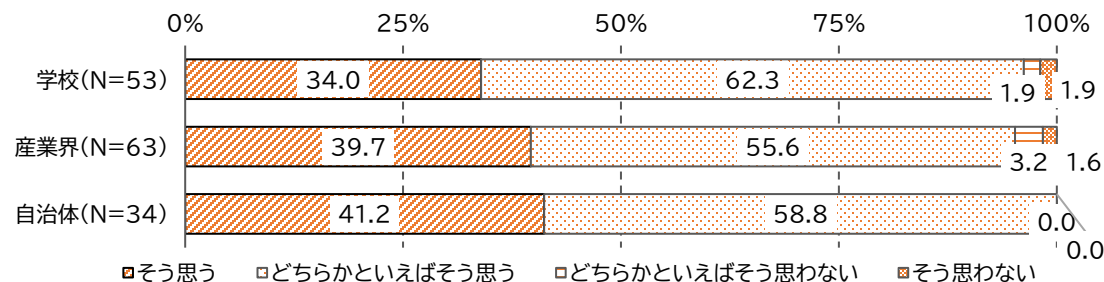
- いずれの項目も、産学官それぞれ8割以上の回答者が肯定的に評価している。
- ただし、「学校の目的は連携先から理解されているか」、「産学(官)の課題は踏まえられているか」については、産・官よりも学において評価が低い傾向がみられた。「(「そう思う」が20ポイント以上低い)」
得られる示唆の例:評価は産官学で必ずしも一致しないので、連携の深化のためには、互いの評価結果や理由に耳を傾けることが望ましい。

RQ:産業界の目的は連携先から理解されているか。

学校Q21.連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。

産業界Q16.貴団体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている。

自治体Q14.産業界としての産学連携の目的を十分に理解している。

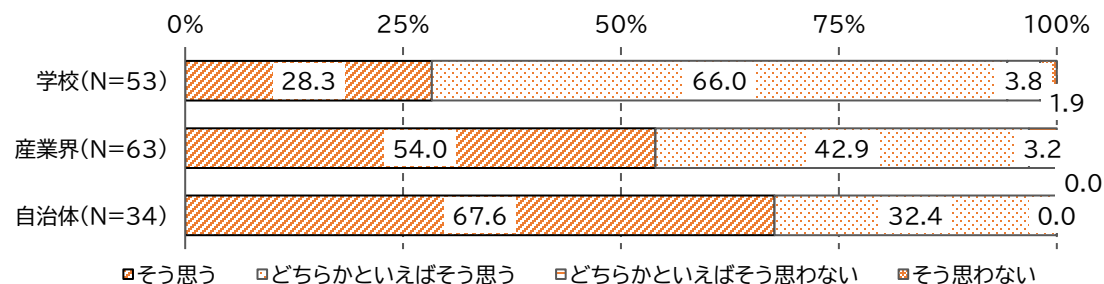


RQ:学校の目的は連携先から理解されているか。

学校Q23.貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。

産業界Q14.連携している学校の産学連携の目的を十分に理解している。

自治体Q13.学校としての産学連携の目的を十分に理解している。

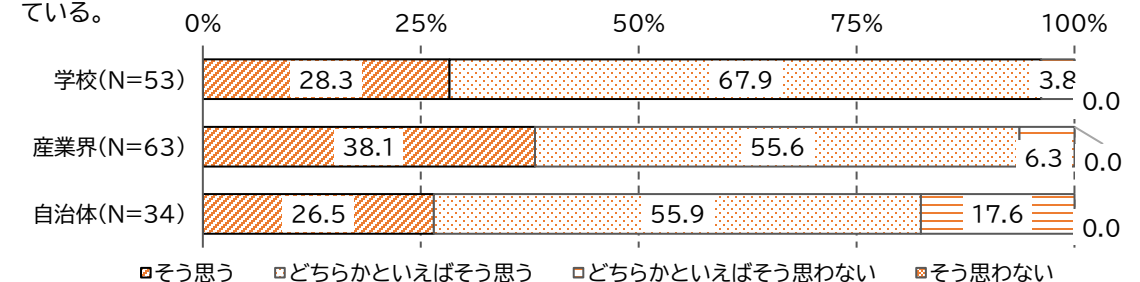


RQ:産学連携の機能は理解されているか。

学校Q22.企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。

産業界Q15.学校と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。

自治体Q15.学校と産業界が連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。

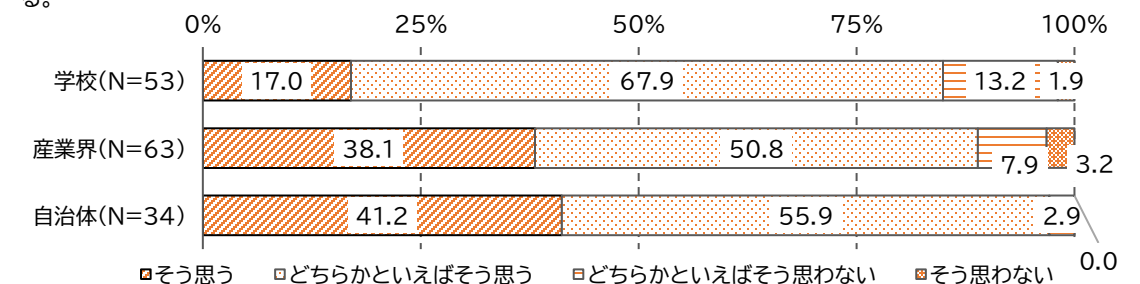


RQ:産学(官)の課題は踏まえられているか。

学校Q24.現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。

産業界Q18.現在の取組は、学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた内容になっている。

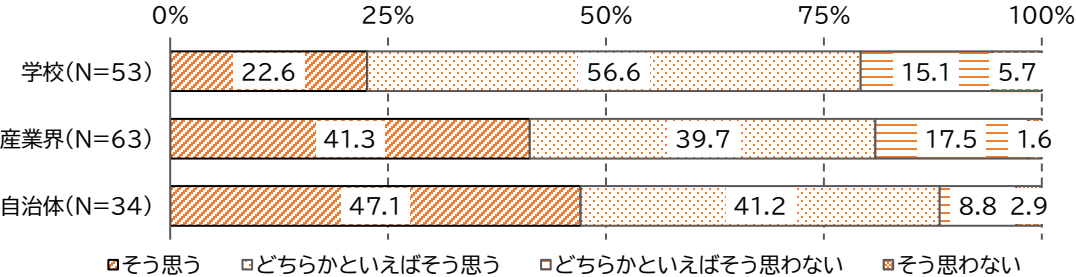
自治体Q17.現在の取組は、学校・産業界・自治体、それぞれの課題を踏まえた内容になっている。



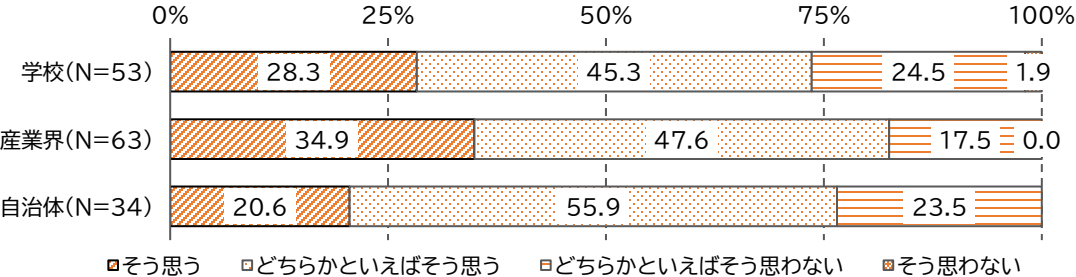
RQ:関係構築の実態は、産学官それぞれに特徴があるか。 (学校Q21~28×産業界Q14~22×自治体Q12~21) 2/2

- いずれの項目も、産学官それぞれ7割以上の回答者が肯定的に評価している。
- ただし、「産学(官)の課題を踏まえたビジョンを協議しようとしたか。」については、産・官よりも学において評価が低い傾向がみられた。('そう思う'が約20ポイント、または20ポイント以上低い)
- 同様に、「持続性の観点で産業界は安定しているか。」については、産よりも学・官において評価が低い傾向がみられた。('そう思う'が約20ポイント、または20ポイント以上低い)

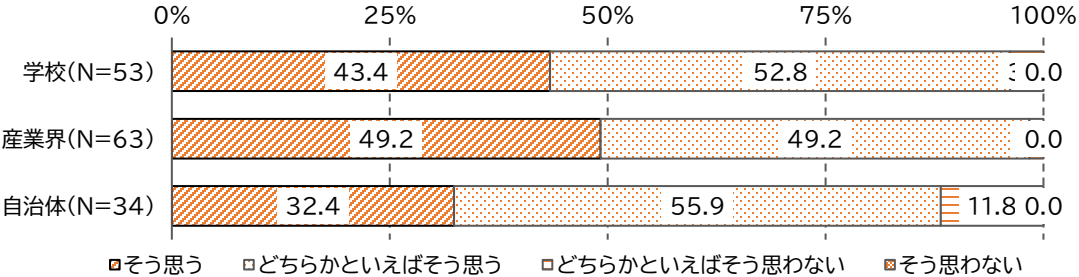
RQ:産学(官)の課題を踏まえたビジョンを協議しようとしたか。
学校Q25.学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
産業界Q19.学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。
自治体Q18.学校と産業界、自治体の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。



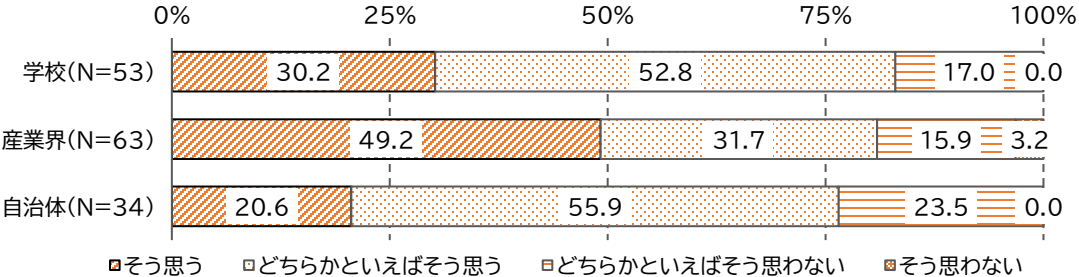
RQ:持続性の観点で学校は安定しているか。
学校Q27.貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
産業界Q22.学校側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
自治体Q21.学校や産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。



RQ:実質的に学校外(企業または自治体)の貢献があったか。
学校Q26.産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。
参考)産業界Q20.産学連携の取組を進める中で、貴団体が担う役割は適切だと思う。
参考)自治体Q19.産学連携の取組を進める中で、貴自治体が担う役割は適切だと思う。

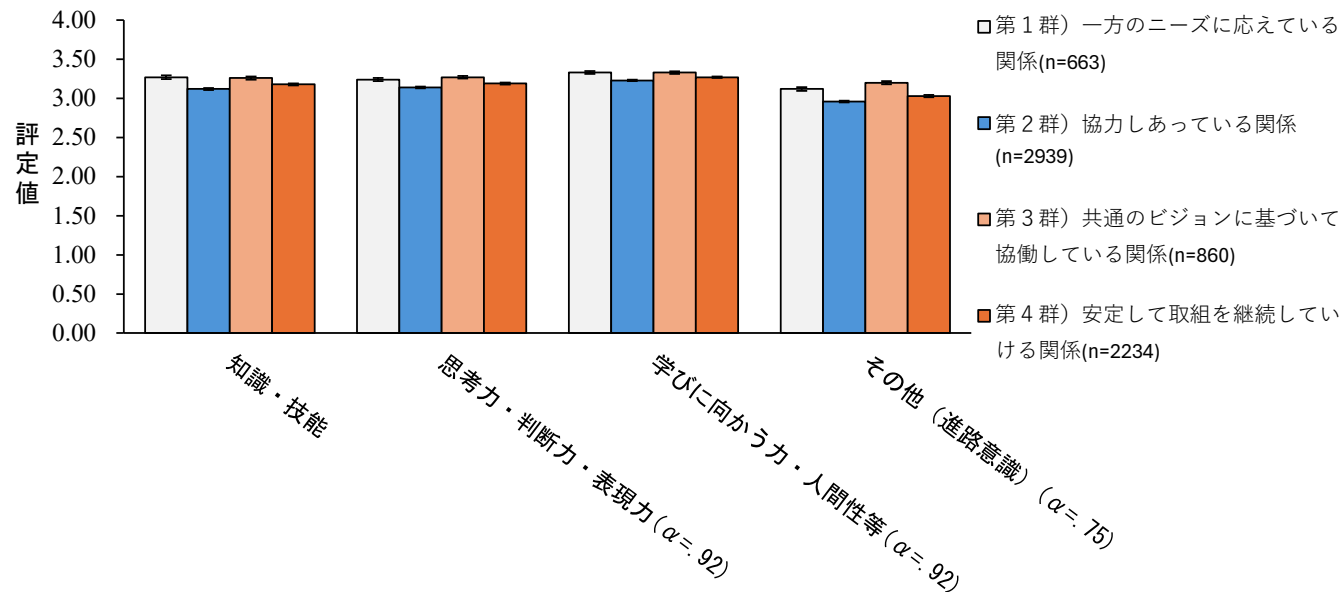


RQ:持続性の観点で産業界は安定しているか。
学校Q28.産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
産業界Q21.貴団体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。
自治体Q21.学校や産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。



産学の関係が深まっている学校ほど、生徒の資質能力も高いか。 (学校Q28×生徒Q14～23、26～37)

- 学校Q29「産学関係の深まり」の回答に基づいて、生徒を4群に分けた。
- 「その他(進路意識)」については、統計的な差がみられた($F(3,6692)=34.66, p<.001, \eta_p^2=.02$)。
- ただし、必ずしも関係性が深まるほど生徒の資質能力が高いわけではなかった(多重比較の結果、第3群≧第1群>第4群>第2群の順で高かった)。
- 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」の評価値について、4群間で統計的に差はみられなかった。
- 得られる示唆の例:産学関係が深まることは、産学連携の運用面とは関連するが(参考:学校用アンケート相関分析 Q15産学連携の学校目標・ビジョンへの貢献度、Q35負担に見合う成果)、生徒の資質能力の高さとは直接関連せず、関係性を土台にしていかに優れた取組を考案・展開できるかが重要である。



※「知識・技能」のみ計1項目。

※参考 項目内容

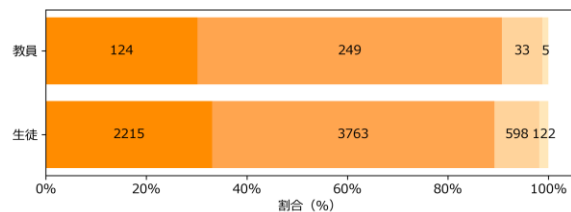
ID	カテゴリ	調査指標	質問項目	
q14	産学連携の成果	知識・技術を学ぶ意欲	授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思った。	学びに向かう力・人間性等
q15		知識・技術の理解	仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解できた。	知識・技能
q16		知識・技術の活用意欲	仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思った。	学びに向かう力・人間性等
q17		知識・技術と実社会の関連付け	仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった。	学びに向かう力・人間性等
q18		知識・技術とキャリアの関連付け	企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思った。	学びに向かう力・人間性等
q19		地元企業の理解	地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた。	その他(進路意識)
q20		地元就職への意欲	地元の企業に就職したいと思った(進学する場合は卒業後に)。	その他(進路意識)
q21		地元貢献への意欲	地元の発展に貢献したいと思った。	その他(進路意識)
q22		将来の目標	将来の目標を考え、それを実現するために努力したいと思った。	学びに向かう力・人間性等
q23		将来の展望	将来に対して希望を持てた。	学びに向かう力・人間性等
q26		主体性	やるべきことに対して、積極的に取り組むことができた。	学びに向かう力・人間性等
q27		働きかけ力	目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができた。	思考力・判断力・表現力
q28		実行力	失敗を恐れず、行動に移すことができた。	学びに向かう力・人間性等
q29		課題発見力	目標を達成するために、解決すべき問題を見つけたことができた。	思考力・判断力・表現力
q30		計画力	何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められた。	思考力・判断力・表現力
q31		創造力	何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつ挙げて検討することができた。	思考力・判断力・表現力
q32		発信力	話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができた。	思考力・判断力・表現力
q33		傾聴力	話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができた。	思考力・判断力・表現力
q34		柔軟性	相手の立場や意見を尊重することができた。	学びに向かう力・人間性等
q35		状況把握力	グループで活動するとき、何をすればよいが、自分の役割を理解できた。	思考力・判断力・表現力
q36		規律性	集団や社会生活の規則やルールを守ることができた。	学びに向かう力・人間性等
q37		ストレスコントロール力	困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組むことができた。	学びに向かう力・人間性等

結果(リサーチクエスション(RQ)に基づく分析)
生徒・教員用アンケート中心

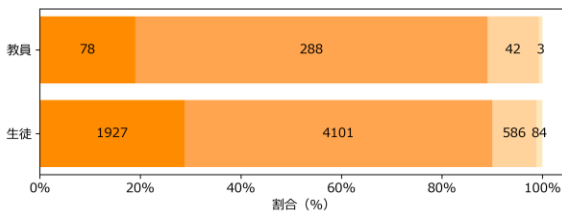
RQ:成果に関する評価は、教員・生徒それぞれに特徴があるか。 (教員Q9～16×生徒Q14～21)

- いずれの項目も、教員・生徒ともに8割以上の回答者が肯定的に評価している。(ただし生徒Q20「地元の企業に就職したいと思った(進学する場合は卒業後に)。」のみ生徒肯定的評価が8割未満。)
- ただし、生徒のほうが教員よりも「そう思う」と評価する傾向がみられた。

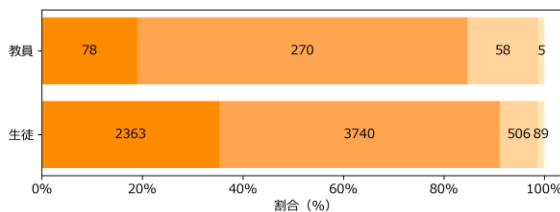
教員Q9.生徒は、授業で学んでいる知識や技術に興味を持っていた。
生徒Q14.授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思った。



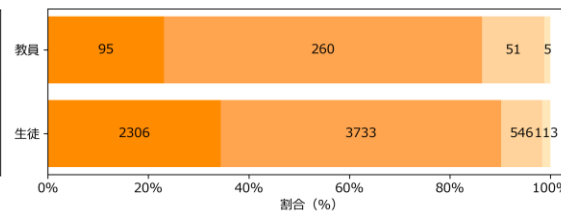
教員Q10.生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術について理解できた。
生徒Q15.仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解できた。



教員Q11.生徒は、普段の生活の中で、仕事や社会で使われている知識や技術を役立てたいと思っていた。
生徒Q16.仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思った。

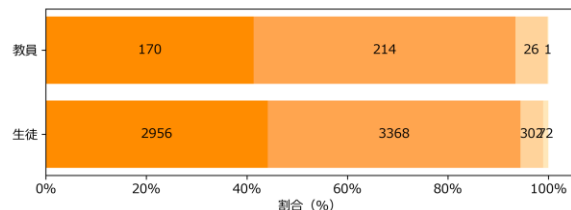


教員Q12.生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業の大切さを理解していた。
生徒Q17.仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった。

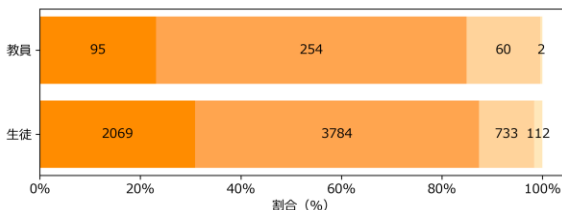


選択肢
 1. そう思う
 2. どちらかといえばそう思う
 3. どちらかといえばそう思わない
 4. そう思わない

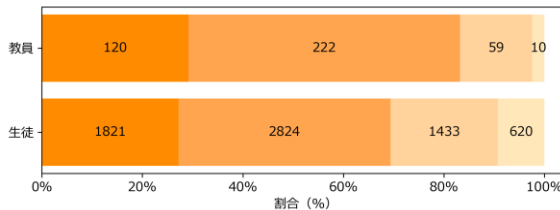
教員Q13.生徒は、企業や地域の人から学ぶことが、将来の進路を考えるのに役立つと思っていた。
生徒Q18.企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思った。



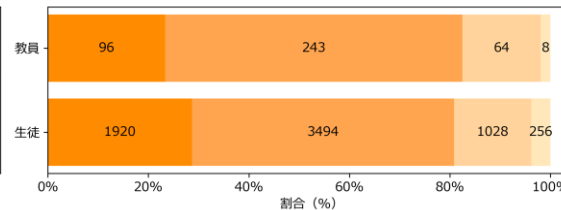
教員Q14.生徒は、地域の企業や産業について、進路を考えるための十分な情報を得ていた。
生徒Q19.地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた。



教員Q15.生徒は、地元の企業への就職(進学する場合は卒業後に)について前向きに考えていた。
生徒Q20.地元の企業に就職したいと思った(進学する場合は卒業後に)。



教員Q16.生徒は、地元への貢献意識を高めていた。
生徒Q21.地元の発展に貢献したいと思った。



選択肢
 1. そう思う
 2. どちらかといえばそう思う
 3. どちらかといえばそう思わない
 4. そう思わない

付録

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	貴校の学校名を教えてください。	単一選択	都道府県順マイスター学校一覧 その他()
q2	貴校で産学連携の取組の計画に関わっている方について、当てはまるものをすべて選択してください。	複数選択	教務に関わる分掌の担当者 進路に関わる分掌の担当者 研究に関わる分掌の担当者 渉外に関わる分掌の担当者 産学連携に関わる分掌の担当者 産学連携に関わる教科の担当者 その他()
q3	貴校では、教育課程の一環として産学連携を継続的に組み込んだ教育活動は、いつから実施していますか？	単一選択	2022年度以降から実施(現在の学習指導要領のもとで開始、1～3年前から)1pt 2018年度～2021年度から実施(現行指導要領施行前に開始、4～6年前から)2pt 2017年度以前から実施(7年以上前から継続して実施)3pt いつからか不明 NA その他()NA
q4	貴校が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。	単一選択	キャリア教育を充実させるため 実践的な知識や技能を習得する学習を充実させるため 課題解決力を育む学習を充実させるため 協働的な学びを充実させるため 入学希望者が増えるよう、学校の魅力を高めるため 地域社会が求める人材を育成するため その他()
q5	今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容を教えてください。当てはまるものを全て選択してください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。	複数選択	産業界と連携して通年で行う教育課程内の取組の実施(学習指導要領に定められた教科・科目、課題研究等) 産業界と連携して通年で行う教育課程内の取組の実施(学校設定科目) 産業界と連携したプロジェクト型・課題探究型学習の実施 産業界と連携した共同研究の実施 短期のインターンシップ・職場体験・現場実習・施設見学の実施 デュアルシステムや長期インターンシップの実施 産業界と連携して継続的に行う課外活動(専門学科に関する部活動など) 産業界による出前授業・講演(年1～数回程度) 産業界と連携した発表会・イベントの実施 産業界による進路相談の支援 産業界による資格・技能検定取得の支援 学校と産業界のビジョン(育てたい生徒像・身につけたい力等)の協議 産業界からの意見・知見を取り入れた教育カリキュラムの検討 産業界からの設備や教材等の提供・貸与の活用 その他()

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q6	貴校の全校生徒数を教えてください。	短答式(半角数字)	
q7	産学連携を推進するにあたり、貴校において校長はどのように推進・管理していますか。当てはまるものを全て選択してください。	複数選択	産学連携をスクールポリシーや教育方針に位置づけている 産学連携を校務分掌に位置づけている 産学連携を担う教職員の役割分担を明確にしている 産学連携を担う教職員の業務負担を調整している 産学連携に関する研修の機会を提供している 産学連携推進について学校内で周知徹底している 担当者や該当学科だけではなくすべての教員への情報共有をしている 教育委員会や自治体と協議し、支援体制を整えている 企業・団体との関係構築や連携の場へ積極的に参加している 学校の広報や積極的な情報発信を通じて、産学連携を推進している 産学連携に必要な財源・資源の確保に取り組んでいる その他()
q8	産学連携において、新たな連携先を開拓しているのは誰ですか。当てはまるものを全て選択してください。	複数選択	コーディネーター 産業団体(例:商工会、農協) 自治体の職員 教育委員会の職員 近隣企業の職員 学校運営協議会の委員 PTA・保護者 学校内のボランティア 管理職 教諭 その他()
q9	産学連携を推進するにあたり、産学連携担当教員の負担軽減のため行っている取組を全て選択してください。	複数選択	コーディネーター(外部人材)の配置 事務職員の配置 産学連携の校務分掌化 授業時数の減免 連携先リスト(人材バンク等)のデータベース化 外部連携窓口の一本化や仕組み化 外部との定期的な意見交換や協議の場の設定 SNS等を活用した円滑な意思疎通 負担軽減はできていない その他()

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q10	今年度実施した産学連携に関わっている企業や団体等の数を教えてください。 ※これから実施予定のものも含めてお答えください。	単一選択	1つの組織のみ 1pt 2 2pt (中略) 9 9pt 10以上の組織 10pt
q11	今年度の産学連携に関わった企業や団体等の種類を全て選択してください。	複数選択	民間企業/協同組合(農業協同組合や漁業共同組合等)/産業団体(商工会、産業連合会等)/教育機関・研究機関/社会教育施設/非営利法人/個人事業主/その他()
q12	連携している企業・団体等について、当てはまるものを全て選択してください。	複数選択	学校近辺に本社や本部がある地元の企業や団体等 本社や本部は遠方にあるが、支社・営業所・工場・事務所などが学校近辺にある企業や団体等 学校近辺に拠点がない企業や団体等
q13	企業や団体等とどのような形で連携していますか？あてはまるものを全て選択してください。	複数選択	個々の企業や団体等と個別に連携している 商工会や農協などの産業団体を通じて、複数の企業や団体等と連携している 学校運営協議会や産学連携協議会に企業や団体等が参画している 学校と企業や団体等でコンソーシアムを構築している その他()
q14	今年度の事業を進める上で、伴走支援事業者(株式会社ソフィア)による伴走支援の中で特に有効だったと思うものを教えてください。	単一選択	計画や進捗の確認、次のステップを整理する支援 取組の目的や方向性を見直し、整理する支援 新たな課題や目標を設定するための示唆や問いかけ 他校や地域とのつながりやネットワークづくりの支援 管理機関や学校が主体的に取り組めるような働きかけ 特になし その他() 伴走支援を受けていない
q15	産学連携の活動が、貴校の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？	単一選択	非常に貢献している 4pt ある程度貢献している 3pt あまり貢献していない 2pt 全く貢献していない 1pt
q16	産学連携の取組を通じて、貴校として実感しているメリットを教えてください。	複数選択	生徒のキャリア意識が高まった 生徒の学習意欲が高まった 生徒が自分で考え、工夫するようになる傾向が見られた 生徒が協働して物事を進めるようになった 学校の魅力が高まった 地域社会や産業界との関係が深まった 教員が自身の研鑽に積極的に取り組むようになった 教員が産業界との連携に主体的に取り組むようになった 特になし 分からない その他()

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q17		産学連携の取組は、主にどの組織が中心となって検討を進めていますか。	単一選択	学校が主体となって検討している 企業や団体等が主体となって検討している 自治体が主体となって検討している 学校と企業・団体等が対等な立場で検討している 学校や企業・団体等が参加する組織(コンソーシアム、協議会、委員会等)で検討している
q18		産学連携において、貴校が抱えている課題があれば教えてください。	複数選択	取組に必要な予算や資金が不足している。 取組が表面的で、十分に深められない。 中長期的なビジョンがない。 産業界の目的や方向性が学校と合わない。 担当者の負担が増えている。 教職員の理解が得られない。 生徒が意欲的でない。 産業界との関係が深まらない。 産学連携の成果が見えない。 特に課題はない。 その他()
q19		学校の所在する基礎自治体と連携した取組を実施していますか。	単一選択	教育課程の一環として基礎自治体との連携を組み込むなど、継続的に実施している。 3pt 年に数回の出前授業やイベント等、単発的な取組を実施している。 2pt 実施していない。 1pt
q20		学校の所在する基礎自治体から、資金や人材の提供(生徒の活動場所の提供も含む)等を受けていますか。	単一選択	かなり受けている 4pt ある程度受けている ほとんど受けていない 全く受けていない
q21	以下の項目について、貴校の考えに最も当てはまるものを選択してください。	連携している企業等の産学連携の目的を十分に理解している。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q22		企業等と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている。		
q23		貴校の産学連携の目的は、連携先の企業等に十分伝わっている。		
q24		現在の取組は、学校と企業の双方の課題を踏まえた内容になっている。		
q25		学校と企業の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。		
q26		産学連携と一緒に取り組んでいる企業は、活動において企業としての役割を十分に果たしていると感じますか。		
q27		貴校の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。		
q28		産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。		

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q29		貴校が連携している企業や団体等との関係について、最も適切なものを選択してください。 ※複数の組織と連携している場合は、最も多く該当する関係をお答えください。 ①一方のニーズに応えている関係 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。 ②協力しあっている関係 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。 ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。 学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。 ④安定して取組を継続していける関係 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働関係が確立されている。 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。 担当者が変わっても、信頼関係や取組が維持できる体制が整っている。	単一選択	①一方のニーズに応えている関係 1pt ②協力しあっている関係 2pt ③共通のビジョンに基づいて協働している関係 3pt ④安定して取組を継続していける関係 4pt
q30	産学連携に取り組む中で、次のような機会がありましたか	学校の中で、産業界との連携の必要性を検討する機会	単一選択	かなりあった 4pt ある程度あった ほとんどなかった 全くなかった
q31		学校が抱える課題を産業界に伝える機会	単一選択	
q32		産業界側の産学連携の目的や連携の必要性について知る機会	単一選択	
q33		学校と産業界が対等な立場で議論する機会	単一選択	
q34		学校と産業界が協力して、学校のカリキュラムを検討・改善する機会	単一選択	

付録:質問項目一覧(学校用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q35		貴校で行っている産学連携は、負担に見合った成果を得ていますか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q36		貴校における産学連携を継続していくうえで、最も中心的な役割を果たしているのは誰ですか。	単一選択	校内管理職 学科長 産学連携を担当する分掌(チーム) 産学連携を担当する教員(個人) コーディネーター 企業・団体の担当者 都道府県教育委員会の担当者 市町村教育委員会の担当者 産業振興系部局(自治体の産業労働部・商工観光課など)の担当者 その他()
q37		貴校における令和6年度卒業生の進路状況を教えてください。 ※産学連携の取組を行った関連産業への就職者数は、産学連携の取組を行っていない場合や、集計等を行っていない場合は回答不要です。 ※進学者数は、大学、短期大学、高等学校専攻科、専修学校・各種学校、公共職業能力開発施設等入学者を含めてください。	短答式(半角数字)	卒業者数: 就職者数: 都道府県内就職者数: 産学連携の取組を行った関連産業への就職者数(回答任意): 進学者数:
q38		産業界と生徒の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)	記述式(任意)	
q39		産業界と教員の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)	記述式(任意)	

付録:質問項目一覧(生徒用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	学校名をお答えください。	単一選択	都道府県順マイスター学校一覧 その他()
q2	所属している学科をお答えください	記述式	
q3	学年を選んでください。	単一選択	1年生/2年生/3年生 1pt~3pt
q4	あなたは、将来の勉強や仕事の種類について知るために、次のようなことをしたことはありますか。	複数選択 (任意)	インターンシップ 職業体験、もしくは職場見学 会社説明会への参加 自分の興味と能力について知るためのアンケート 仕事に関する情報を得るためのインターネット検索 高校や大学のキャンパスツアー参加 高校や大学に関する情報を得るためのインターネット検索
q5	今年度、あなたが経験したことについて教えてください。当てはまるものを全て選択してください。	複数選択 (任意)	授業の中で、企業や地域の人から講義や説明を受けた 実習の中で、企業や地域の人から実技や作業の指導を受けた 会社説明会などの中で、企業や地域の人から仕事や進路について説明を受けたり、相談したりした 工場・会社・研究所などを見学した 短期間の職場体験やインターンシップに参加した(数日～数週間) 長い期間、学校と企業を行き来して学んだ(デュアルシステム・長期インターン) 地域のイベントやお祭りなどで企業や地域の人と一緒に活動した 企業や地域の人と共に、調査研究や探究活動を行った。 企業や地域の人と共に、商品やサービスを考えたり、開発したりした 自分たちの成果を企業や地域の人に発表し、講評やアドバイスを受けた コンテストや発表会に参加し、企業や地域の人から審査された
q6	今年度、学校での授業や実習の中で、企業や地域の人から講義をしたり、手伝ったりしたことは、どれぐらいありましたか。	単一選択	一度もない/月1回未満/月1回から週1回の間/週1回以上 1pt~4pt
q7	今年度、学校行事やイベント(授業や実習以外)で、企業や地域の人から話をしたり一緒に活動したりしたことは、どれぐらいありましたか。	単一選択	
q8	今年度、企業や地域の人に関わっている課題研究やグループワークに参加した経験はありますか。	単一選択	参加したことがある/参加したことはない 2pt~1pt
q9	今年度、企業や地域の施設を訪問する活動(見学やインターンシップなど)に参加した経験はありますか。	単一選択	
q10	企業や地域の人から提供した学びの機会(授業・実習・イベント等)は、自分の興味関心に合っていましたか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q11	企業や地域の人から提供した学びの機会(授業・実習・イベント等)からは大人たちの熱意が伝わってきましたか。	単一選択	

付録:質問項目一覧(生徒用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q12	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでみて、次のようなことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。最もあてはまるものを一つ選んでください。	単一選択	まったくその通りだ その通りだ その通りでない まったくその通りでない 1pt~4pt(逆転項目の位置づけ)
q13	※企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	まったくその通りだ その通りだ その通りでない まったくその通りでない 4pt~1pt
q14	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでみて、あなたの考えについて、最もあてはまるものを一つ選んでください。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q15	※企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q16	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q17	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q18	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q19	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q20	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q21	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q22	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q23	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q24	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	
q25	企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	単一選択	

付録:質問項目一覧(生徒用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q26	企業や地域社会の方からの学が授業や実習等におけるあなた自身に取り組み方について、最もあてはまるものを一つ選んでください。 ※企業や地域社会の方から学が授業や実習等に取り組んでいない場合は、普段の授業全体について答えてください。	やるべきことに対して、積極的に取り組むことができた。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q27		目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができた。	単一選択	
q28		失敗を恐れず、行動に移すことができた。	単一選択	
q29		目標を達成するために、解決すべき問題を見つけることができた。	単一選択	
q30		何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められた。	単一選択	
q31		何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつか挙げて検討することができた。	単一選択	
q32		話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができた。	単一選択	
q33		話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができた。	単一選択	
q34		相手の立場や意見を尊重することができた。	単一選択	
q35		グループで活動するとき、何をすればよいか、自分の役割を理解できた。	単一選択	
q36		集団や社会生活の規則やルールを守ることができた。	単一選択	
q37		困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組むことができた。	単一選択	
q38		企業や地域社会の方から学が授業や実習等について、どのように感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)	記述式 (任意)	

付録:質問項目一覧(教員用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1		学校名を教えてください	単一選択	都道府県順マイスター学校一覧 その他()
q2		あなたの職名を教えてください。	単一選択	校長・副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭・教諭・講師・実習助手・その他
q3		あなたが授業を担当している学科(大学科)を教えてください。	複数選択	農業科/工業科/商業科/水産科/家庭科/看護科/情報科/福祉科/授業を担当していない/その他
q4		学校が産学連携に取り組む必要性を、あなたは十分に理解していると思いますか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q5		産学連携の取組が、学校の目標に合っていると思いますか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q6	産学連携の取組における生徒の状況について、あなたの考えに当てはまるものを選んでください。	生徒は、課題に対して粘り強く考えることができた。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q7		生徒は、課題に対して他者と協力することができた。		
q8		生徒は、自分の意見や考えを分かりやすく伝えることができた。		
q9		生徒は、授業で学んでいる知識や技術に興味を持っていた。		
q10		生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術について理解できた。		
q11		生徒は、普段の生活の中で、仕事や社会で使われている知識や技術を役立てたいと思っていた。		
q12		生徒は、仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業の大切さを理解していた。		
q13		生徒は、企業や地域の人から学ぶことが、将来の進路を考えるのに役立つと思っていた。		
q14		生徒は、地域の企業や産業について、進路を考えるための十分な情報を得ていた。		
q15		生徒は、地元の企業への就職(進学する場合は卒業後に)について前向きに考えていた。		
q16		生徒は、地元への貢献意識を高めていた。		
q17		生徒には、地域の課題に直接触れる機会がある。		
q18	あなたのことについて、当てはまるものを選んでください。	地域の産業や企業について理解している。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q19		生徒の関心に合った学習の機会を提供できている。	単一選択	

付録:質問項目一覧(教員用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q20		今年度、マイスター・ハイスクール事業にどのように関わっていますか？ あなたの関わり方について教えてください。	単一選択	管理職として、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。 担当者として、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。 担当者ではないが、授業やイベント等の実施を通じて、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。 担当者ではなく、マイスター・ハイスクール事業に関わっていない。 その他()
q21	・分岐	産業界や地域社会との連携が、学校として目指す生徒像を再考するきっかけになった。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q22	「産学連携の取組への関与の状況」が、「担当者ではなく、マイスター・ハイスクール事業に関わっていない。」の場合、回答しない	産業界や地域社会との連携により、自身の専門性や指導力が高まった。	単一選択	
q23		産業界や地域社会との連携により、地域を支える産業や職業について、進路指導を行うに十分な理解が深まった。	単一選択	
q24	・教示文	産業界や地域社会との連携により、授業の指導方法やカリキュラムを改善する必要性を感じた。	単一選択	
q25	産学連携の取組について、あなたの考えを教えてください。	生徒に必要な資質や能力について、産業界や地域社会と対話しながら決定するようになった。	単一選択	
q26		産業界や地域社会と連携して、授業や単元の計画を検討するようになった。	単一選択	
q27		産業界や地域社会と協働して取り組んだ学びの評価を共有し、それを基に改善に取り組んだ。	単一選択	
q28		産業界や地域社会との連携により、創造的で効率的な教育活動が展開された。	単一選択	
q29		産業界や地域社会との連携が、学校の魅力向上や教育活動の活性化につながった。	単一選択	
q30		学校内で組織化が図られたことにより、産業界や地域社会との連携に前向きに取り組めた。	単一選択	
q31		相談できる学校外の関係機関やコーディネーターがいることで、産業界や地域社会と連携しやすくなった。	単一選択	

付録:質問項目一覧(教員用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
Q32	・分岐 「産学連携の取組への関与の状況」が、「管理職として、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。」の場合のみ回答	管理職として、産学連携において、担当者が産業界に自由に意見を述べたり、活動したりできる環境を整えることを心がけましたか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
Q33	・分岐 「産学連携の取組への関与の状況」が、「担当者として、マイスター・ハイスクール事業に関わっている。」の場合のみ回答	事業担当者として、産学連携において、産業界側の担当者に対して自由に意見を述べたり、活動したりできましたか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
Q34		産業界と生徒の協働にどのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)	記述式 (任意)	

付録:質問項目一覧(産業界用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	貴団体名を教えてください。	記述式	
q2	このアンケートに回答している方の職務を教えてください。当てはまるものを選択してください。	複数選択	事業の実施担当者 産学連携の取組に関して意思決定を行う立場(経営層・管理職など) その他()
q3	貴団体が連携している高等学校の名称を教えてください。	複数選択	都道府県順マイスター学校一覧 その他()
q4	貴団体では、いつから産学連携の取組を実施していますか？	単一選択	2022年度以降から実施(1～3年前から) 1pt 2018年度～2021年度から実施(4～6年前から) 2pt 2017年度以前から実施(7年以上前から継続して実施) 3pt いつからか不明 NA その他() NA
q5	貴団体が産学連携に取り組む目的について、最も大きな理由を1つ選択してください。	単一選択	新規採用人材を確保するため 生徒に、産業界等のニーズに即したスキルや知識を獲得してもらうため 社員のスキルアップや研修の一環として 貴団体の地域における認知度を向上させるため 社会的貢献やCSR(企業の社会的責任)活動として 学校との共同プロジェクト等を通じて、新しい技術や製品、サービスの開発を促進するため 学校からの依頼に応じたため まだ具体的な目的は明確にできていない その他()
q6	前の質問で選んだ目的について、どのくらい重要だと考えていますか。	単一選択	貴団体としての最重要課題である 4pt 確実に取り組むべき重要な課題である 3pt 優先度は高くないが、取り組むべき課題である 2pt 取り組む必要性は低い課題である 1pt
q7	産学連携の活動が、貴団体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか。	単一選択	非常に貢献している 4pt ある程度貢献している 3pt あまり貢献していない 2pt 全く貢献していない 1pt

付録:質問項目一覧(産業界用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q8	産学連携の取組を通じて、貴団体として実感しているメリットを全て選択してください。	複数選択	充実した人材募集活動ができた 産業界等のニーズに沿ったスキルや知識を持った人材が育成できた 社員のスキルアップにつながった 貴団体の認知度が向上した 社会的責任を果たせた 新しい技術や製品、サービスの開発を促進できた 他の企業等との関係が深まった 貴団体の研究開発プロジェクトが推進できた 地域産業の発展に寄与できた まだ実感できていない その他()
q9	学校が産学連携に取り組むようになったことで、学校に対する採用活動がやりやすくなったと思いますか。	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q10	今後も産学連携の取組を続けたいと考えていますか。	単一選択	必ず続けたい できれば続けたい あまり続けたくない 続けたくない 4pt~1pt
q11	あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。	単一選択	とても感じている/少し感じている/あまり感じていない/感じていない 4pt~1pt
q12	学校教育に関わったことによって、担当者の意識や行動になにか変化はありましたか。当てはまる項目を全て選択してください。	複数選択	学校や生徒に対するイメージが良くなった 地域の関係者とのコミュニケーションが増えた 地域づくりへの関心が高まった 学校や高校生に以前より注目するようになった 企業内の若手社員への接し方が変わった 物事を柔軟に考えられるようになった 当たり前のことを再度見つめ直す機会となった 高校生の発想やアイデアに触れて刺激を受けた 学校の行事やイベントに足を運ぶようになった 人材採用時における高校生へのプレゼン内容が変わった 特にな その他()

付録:質問項目一覧(産業界用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q13		貴団体は、連携している学校と、互いに利益を得られる関係(互惠関係)にあると思いますか？最も当てはまるものを選択してください。	単一選択	学校側に恩恵がある 1pt どちらかといえば学校側に恩恵がある 2pt 互惠関係である 3pt どちらかといえば企業・団体等側に恩恵がある 2pt 企業・団体等側に恩恵がある 1pt
q14	以下の項目について、貴団体の考えに最も当てはまるものを選択してください。	連携している学校の産学連携の目的を十分に理解している	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q15		学校と連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている	単一選択	
q16		貴団体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている	単一選択	
q17		産学連携の取組内容について、学校に対して積極的に提案している。	単一選択	
q18		現在の取組は、学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた内容になっている。	単一選択	
q19		学校と企業・団体の双方の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。	単一選択	
q20		産学連携の取組を進める中で、貴団体が担う役割は適切だと思う。	単一選択	
q21		貴団体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	単一選択	
q22		学校側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	単一選択	
q23		生徒との連携を通して、どのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)	記述式 (任意)	

付録:質問項目一覧(自治体用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q1	貴自治体名を教えてください。	記述式	
q2	貴自治体において、学校の産学連携を主に担当している部署名を教えてください。	記述式	
q3	貴自治体が連携している高等学校の名称を教えてください。	複数選択	都道府県順マイスター学校一覧 その他()
q4	貴自治体は、対象の学校と企業などが連携して行う教育活動(産学連携)に、いつから関わっていますか。	単一選択	2022年度以降から実施(1~3年前から) 1pt 2018年度~2021年度から実施(4~6年前から) 2pt 2017年度以前から実施(7年以上前から継続して実施) 3pt いつからか不明 NA その他() NA
q5	貴自治体が産学連携に取り組む最も大きな理由を1つ選択してください。	単一選択	学校を存続させるため 地域産業の活性化のため 産業界が求める人材を育成するため 若者の地元定着を促進するため 地域の社会問題(少子高齢化、人口減少など)の解決に寄与するため 目的はまだ明確にできていない その他()
q6	前の質問で挙げた目的について、どのくらい重要だと考えていますか。	単一選択	貴自治体としての最重要課題である 確実に取り組むべき重要な課題である 優先度は高くないが、取り組むべき課題である 取り組む必要性は低い課題である 4pt~1pt

付録:質問項目一覧(自治体用アンケート)

ID	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q7	産学連携の活動が、貴自治体の目標やビジョンに対してどれくらい貢献していると感じますか？	単一選択	非常に貢献している ある程度貢献している あまり貢献していない 全く貢献していない 4pt~1pt
q8	産学連携の取組を通じて、貴自治体として実感しているメリットを教えてください。	複数選択	学校の魅力が高まった 地域産業の活性化に寄与できた 産業界が求める人材が育成できた 若者の地元定着の促進に寄与できた 地域の社会問題(少子高齢化、人口減少など)に寄与できた まだ実感できていない その他()
q9	今後も産学連携の取組を続けたいと考えていますか。	単一選択	必ず続けたい できれば続けたい あまり続けたくない 続けたくない 4pt~1pt
q10	あなたは、産業界と学校との連携の意義や必要性をどの程度感じていますか。	単一選択	とても感じている/少し感じている/あまり感じていない/感じていない 4pt~1pt
q11	学校の産学連携を支援した結果、貴自治体の首長や議会等において、産学連携への理解は高まりましたか。	単一選択	高まった やや高まった あまり高まっていない 高まっていない 4pt~1pt

付録:質問項目一覧(自治体用アンケート)

ID	教示文	質問項目	回答形式	選択肢 (“pt”は各種分析を行う際の点数化情報)
q12	以下の項目について、貴自治体の考えに最も当てはまるものを選択してください。	貴自治体としての産学連携の目的が、連携先の学校に十分伝わっている	単一選択	そう思う/どちらかといえばそう思う/どちらかといえばそう思わない/そう思わない 4pt~1pt
q13		学校としての産学連携の目的を十分に理解している	単一選択	
q14		産業界としての産学連携の目的を十分に理解している	単一選択	
q15		学校と産業界が連携してどのような取組ができるのか、十分に把握できている	単一選択	
q16		産学連携の取組内容について、学校に対して積極的に提案している。	単一選択	
q17		現在の取組は、学校・産業界・自治体、それぞれの課題を踏まえた内容になっている。	単一選択	
q18		学校と産業界、自治体の課題を踏まえた共通のビジョンを協議する場があった。	単一選択	
q19		産学連携の取組を進める中で、貴自治体が担う役割は適切だと思う。	単一選択	
q20		貴自治体の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	単一選択	
q21		学校や産業界側の担当者が変わっても、産学連携の取組を今後も継続できる。	単一選択	
q22		貴自治体は、マイスター・ハイスクール事業(普及促進事業含む)における「管理機関」ですか。	単一選択	管理機関である 管理機関ではない
q23		(教育委員会の場合、)産学連携において中核となる教員の育成・確保のため、実施している取組を教えてください。	複数選択	人事異動上の配慮(例:中核人材を他校に転出させない) 産学連携における功労者の評価・表彰 産学連携における中核人材育成のための研修 交流人事(例:他の都道府県の学校への教員派遣) 中核となる教員の育成・確保のための取組は実施していない その他()
q24		(教育委員会の場合、)今年度の事業を進める上で、伴走支援事業者(株式会社ソフィア)による伴走支援の中で特に有効だったと思うものを教えてください。	単一選択	計画や進捗の確認、次のステップを整理する支援 取組の目的や方向性を見直し、整理する支援 新たな課題や目標を設定するための示唆や問いかけ 他校や地域とのつながりやネットワークづくりの支援 管理機関や学校が主体的に取り組めるような働きかけ 特になし その他()
q25		産業界と生徒との協働をご覧になり(あるいは実際に接して)、どのような魅力・可能性を感じていますか。 (印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください)	記述式 (任意)	